

## 7. 東京2020大会の全体計画・競技の内容

### 7.1 全体計画の内容

#### 7.1.1 東京2020大会の会場計画

各競技会場等の所在地、建設種別及び規模（収容人数）は、表 7.1-1 に、競技会場等の位置図は、図 7.1-1 に示すとおりである。

東京 2020 大会では、全 43 会場（恒久：8、既存：25、仮設：10）を使用する予定である。東京都及び組織委員会では、レガシーや都民生活への影響、整備コストの視点から、新規恒久施設の見直しを含む、会場計画全体の見直しに着手してきた。2014 年（平成 26 年）12 月には、IOC 総会でオリンピックアジェンダ 2020 が採択され、既存施設の活用推進が提唱されたことから、東京 2020 大会の会場計画の見直しが一層後押しされた。その後、IOC や国際競技団体(IF)のサポートの下、さらなる見直しを進めた結果、既存施設の利用は招致段階の約 4 割から約 6 割に増加し、東京 2020 大会では既存施設を最大限に活用し、恒久会場の建設を抑制することで土地改変や気候変動等に配慮した持続可能な大会の開催準備を進めている。

また、競技会場のほか、選手の宿泊棟や選手利便施設等からなる選手村、世界各国のテレビ局への映像・音声の配信施設及びメディア関係者の拠点施設となる IBC/MPC<sup>1</sup>を整備する。多くの会場は、選手村を起点としたヘリテッジゾーンと東京ベイゾーンの 2 つのゾーンに位置している。

「ヘリテッジゾーン」は、1964 年（昭和 39 年）の東京大会のレガシーを引き継ぐゾーンであり、東京 1964 大会のオリンピックスタジアムであった国立競技場をはじめ、東京体育館、国立代々木競技場、日本武道館、馬事公苑については、東京 1964 大会に引き続き東京 2020 大会でも使用される。

「東京ベイゾーン」は、都市の未来を象徴するゾーンである。東京ベイゾーンとなる臨海部は、高度成長期以降の東京港の物流機能拡張のためのふ頭整備や都市の産業活動に伴って排出される廃棄物や建設発生土による埋立地で造成され、東京 2020 大会に向けて新設される競技会場の多くは、東京 1964 大会以降に生まれた埋立地に整備が進められている。新規恒久施設は、スポーツ・文化等による賑わいを創出していく「有明レガシーエリア」、多様なスポーツに親しめる「マルチスポーツエリア」、様々な水上スポーツの機会を提供する「ウォータースポーツエリア」、大井ホッケー競技場周辺のスポーツ施設が一体となり、臨海部の新たな一大スポーツゾーンを形成し東京 2020 大会のレガシーを生かしていく。

<sup>1</sup> IBC (International Broadcast Centre : 国際放送センター)  
MPC (Main Press Centre : メインプレスセンター)

表 7.1-1 オリンピック・パラリンピック競技会場等所在地、建設種別及び規模一覧

番号	競技会場等名	所在地	建設種別	収容人数 (グロスキャパシティ)
①	オリンピックスタジアム	東京都新宿区	恒久	68,000
②	東京体育館	東京都渋谷区	既存	6,500~7,000
③	国立代々木競技場	東京都渋谷区	既存	10,200
④	日本武道館	東京都千代田区	既存	11,000
⑤	皇居外苑	東京都千代田区	仮設	700
⑥	東京国際フォーラム	東京都千代田区	既存	5,000
⑦	国技館	東京都墨田区	既存	※
⑧	馬事公苑	東京都世田谷区	既存	9,300
⑨	武蔵野の森総合スポーツプラザ	東京都調布市	恒久	7,200
⑩	東京スタジアム	東京都調布市	既存	48,000
⑪	武蔵野の森公園	東京都府中市、調布市、三鷹市	仮設	—
⑫	有明アリーナ	東京都江東区	恒久	15,000
⑬	有明体操競技場	東京都江東区	仮設	12,000
⑭	有明アーバンスポーツパーク	東京都江東区	仮設	5,000~7,000
⑮	有明テニスの森	東京都江東区	既存	19,400~19,900
⑯	お台場海浜公園	東京都港区	仮設	5,500
⑰	潮風公園	東京都品川区	仮設	12,000
⑱	青海アーバンスポーツパーク	東京都江東区	仮設	4,300~8,400
⑲	大井ホッケー競技場	東京都品川区、大田区	恒久	15,000
⑳	海の森クロスカントリーコース	東京都中央防波堤地区	仮設	16,000
㉑	海の森水上競技場	東京都江東区地先	恒久	12,800~16,000
㉒	カヌー・スラロームセンター	東京都江戸川区	恒久	7,500
㉓	夢の島公園アーチェリー場	東京都江東区	恒久	5,600
㉔	東京アクアティクスセンター	東京都江東区	恒久	15,000
㉕	東京辰巳国際水泳場	東京都江東区	既存	4,700
㉖	幕張メッセ A ホール	千葉県千葉市	既存	10,000
㉗	幕張メッセ B ホール	千葉県千葉市	既存	7,000~8,000
㉘	幕張メッセ C ホール	千葉県千葉市	既存	5,500
㉙	釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ	千葉県長生郡一宮町	仮設	6,000
㉚	さいたまスーパーアリーナ	埼玉県さいたま市	既存	21,000
㉛	陸上自衛隊朝霞訓練場	東京都練馬区	仮設	3,000~6,800
㉜	霞ヶ関カントリー倶楽部	埼玉県川越市	既存	25,000
㉝	江の島ヨットハーバー	神奈川県藤沢市	既存	3,600
㉞	伊豆ベロドローム	静岡県伊豆市	既存	3,600
㉟	伊豆 MTB コース	静岡県伊豆市	既存	11,500
㊱	富士スピードウェイ	静岡県駿東郡小山町	既存	22,000
㊲	福島あづま球場	福島県福島市	既存	14,300
㊳	横浜スタジアム	神奈川県横浜市	既存	35,000
㊴	札幌ドーム	北海道札幌市	既存	41,000
㊵	宮城スタジアム	宮城県宮城郡利府町	既存	49,000
㊶	茨城カシマスタジアム	茨城県鹿嶋市	既存	40,000
㊷	埼玉スタジアム 2002	埼玉県さいたま市	既存	64,000
㊸	横浜国際総合競技場	神奈川県横浜市	既存	72,000
	選手村	東京都中央区	仮設	—
	IBC/MPC(東京ビッグサイト)	東京都江東区	仮設	—

注 1) 番号は、図 7.1-1 に対応する。

2) グロスキャパシティとは、いわゆる競技会場の収容人数のことで、オーバーレイ工事や、観客の輸送などの計画を策定する際に、参考にする基礎的な数字である。グロスキャパシティには、観客用の席のほか、選手やメディア等の関係者席等も含まれている。

3) 国技館のグロスキャパシティは、未公表。

会場等名の出典：「競技会場等」（2019年8月1日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）

<https://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikai/jyunbi/taikai/kaijyou/index.html>、  
競技会場等の実施段階環境影響評価書をもとに作成

建設種別の出典：「2018年5月2日組織委員会報道発表資料」（組織委員会）

グロスキャパシティの出典：「2019年3月27日輸送連絡調整会議（第7回）資料 2-3」

（2019年8月1日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）

[https://www.2020games.metro.tokyo.jp/bd5d4ef6cfe2a01f372d8e02e7ff692c\\_1.pdf](https://www.2020games.metro.tokyo.jp/bd5d4ef6cfe2a01f372d8e02e7ff692c_1.pdf)



出典：「東京 2020 大会ガイドブック」（平成 30 年 10 月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局・組織委員会）

図 7.1-1 オリンピック・パラリンピック会場位置図

## 7.1.2 東京2020大会の運営計画

東京 2020 大会の運営は、東京都及び組織委員会が策定する大会運営に係る各種の計画等に基づき行う。東京都及び組織委員会が策定している東京 2020 大会の運営に係る計画等は、表 7.1-2 に示すとおりである。

表 7.1-2 東京 2020 大会の運営に係る計画等（2019 年(令和元年) 8 月時点）

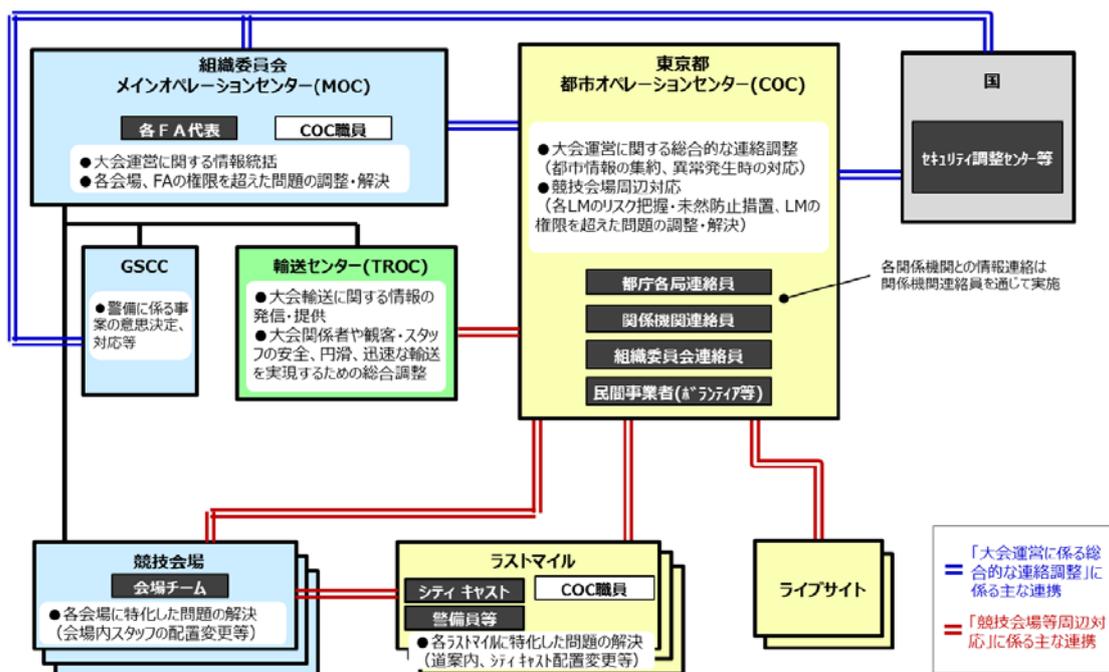
計画等	策定者	概要	実施段階環境アセスメントで関連する中項目
「東京 2020 大会における都市運営に係る基本方針」 (平成 30 年 3 月)	東京都	東京 2020 大会を万全な体制で迎えるため、円滑な大会運営を支援し都民生活への影響を軽減するための東京都における大会時の都市運営の取組について今後の基本的な方針を策定したものの。	アメニティ・文化 安全・衛生・安心 交通
「東京 2020 大会における都市オペレーションセンター運営計画」 (平成 31 年 3 月)	東京都	東京 2020 大会において、円滑な大会運営を支援するとともに、都民生活への影響の軽減を図るため、東京都が設置する「都市オペレーションセンター」について、運営体制、組織構成、オペレーションの概要を定めたものの。	アメニティ・文化 安全・衛生・安心 交通
「東京 2020 大会の安全・安心の確保のための対処要領（第二版）」 (平成 31 年 4 月)	東京都	治安対策、サイバーセキュリティ、災害対策、感染症対策の 4 つの視点から、大会時に想定される様々なリスクを抽出し、想定される各種事態への対応方針、活動の主体・内容を定めたものの。	アメニティ・文化 安全・衛生・安心
「東京 2020 大会における飲食提供に係る基本戦略」(平成 30 年 3 月)	組織委員会	東京 2020 大会における飲食提供に関する基本的な考え方を示すもの。	安全・衛生・安心
「東京 2020 大会において提供される飲食物の安全確保のためのガイドライン」	組織委員会	「東京 2020 大会における飲食提供に係る基本戦略」において掲げたテーマのひとつである「食品の安全衛生」を達成するために必要な取組を詳細に示すもの。	安全・衛生・安心
「大会関係者向け 携帯用 アクセシビリティサポート・ハンドブック (Ver. 1)」 (平成 30 年 9 月)	組織委員会	世界中の人々を最高の「おもてなし」で歓迎できるよう、実際に大会関係者が活用する大会運営時の携帯ツール。	参加・協働 安全・衛生・安心 交通
「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」 (平成 29 年 3 月)	組織委員会	東京 2020 大会の各会場のアクセシビリティに配慮が必要なエリアと、そこへの動線となるアクセシブルルート、輸送手段、組織委員会による情報発信・表示サイン等のバリアフリー基準、並びに関係者の接遇トレーニング等に活用する指針となるもの。	参加・協働 安全・衛生・安心 交通
「東京 2020 大会のシティドレッシング・大規模展示物基本計画」 (平成 31 年 3 月)	東京都	開催都市の役割として、大会の祝祭の雰囲気盛り上げるとともに、開催都市の魅力の世界に発信するため、シティドレッシング <sup>2</sup> 及び大規模展示物の実施内容等を定めたもの。	社会活動 参加・協働
「東京 2020 大会 コミュニティライブサイトガイドライン」 (平成 31 年 2 月)	組織委員会	地方自治体が、住民の身近な場所で大会を楽しむことができるコミュニティライブサイトを実施するに当たって、注意事項や手続をまとめたもの。	社会活動 参加・協働
「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 パブリックビューイング 基本ガイドライン」 (令和元年 7 月)	組織委員会	パブリックビューイングを実施できる主体や実施の手順等を示したものの。	社会活動 参加・協働
「東京 2020 ライブサイト等基本計画」(平成 31 年 4 月)	東京都	世界中から訪れる観戦客等がライブ中継で競技観戦を楽しみ、大会の感動と興奮を共有できる会場を、都内及び被災地に設置するための計画。	社会活動 参加・協働
「輸送運営計画 V1」 (平成 29 年 6 月)	組織委員会 ・東京都	組織委員会及び東京都が、輸送に係る検討・取組状況について、関係機関と調整し、とりまとめたもの。	主要環境 生活環境 交通
「持続可能性に配慮した運営計画 第二版」 (平成 30 年 6 月)	組織委員会	持続可能性に配慮して大会の準備・運営を行う上での方向性や目標、施策例を示すものであり、大会関係者の拠り所となるもの。	主要環境 生態系 生活環境 アメニティ・文化 資源・廃棄物 温室効果ガス

注) 実施段階環境アセスメントで関連する項目は、各計画等と「東京 2020 オリンピック・パラリンピック環境アセスメント指針（実施段階環境アセスメント及びフォローアップ編）」(平成 28 年 6 月 東京都環境局) に示されている環境影響評価の中項目との対応関係を示す。  
概要の出典：各計画等をもとに作成

<sup>2</sup> シティドレッシング：オリンピック・パラリンピック開催都市全体を一貫性のある外観で装飾すること。

東京 2020 大会は、国内の他のイベントに類を見ない大規模な大会であり、選手等大会関係者や観客など国内外から多数の来訪者が見込まれていることから、開催都市である東京都は、組織委員会及び関係機関等と連携しながら、大会開催中における都市運営に関わる様々な事項についての方針を「東京 2020 大会における都市運営に係る基本方針」（平成 30 年 3 月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）として策定している。また、大会開催中は、「東京 2020 大会における都市運営に係る基本方針」に基づき、都市オペレーションセンターを設置する。都市オペレーションセンターは、図 7.1-2 に示すとおり、メインオペレーションセンター、輸送センター、国（セキュリティ調整センター等）、都庁各局、関係機関等、大会における都市運営に関わる多様な組織間との大会運営に係る総合的な連絡調整機能を有する。大会開催中は、都市オペレーションセンターが都市運営の中心的な役割のもと、表 7.1-2 に示す個別の計画等に基づき「大会運営に係る総合的な連絡調整」、「競技会場周辺における取組」、「輸送・交通に係る取組」を実施し、大会運営を行う。

さらに、オリンピック・パラリンピック競技大会は、世界最大規模のスポーツイベントであり、その影響は環境・社会・経済に、また開催国のみならず世界にまで広く及ぶことから、持続可能性に配慮した大会の運営が求められる。このため、「持続可能性に配慮した運営計画 第二版」（平成 30 年 6 月 組織委員会）に基づき、「持続可能性に配慮した運営」の取組を実施し、大会運営を行う。



出典：「東京 2020 大会における都市オペレーションセンター運営計画」（平成 31 年 3 月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）

図 7.1-2 大会開催中の都市運営に係る関係機関と連携体制

「大会運営に係る総合的な連絡調整」、「競技会場周辺における取組」、「輸送・交通に係る取組」、「持続可能性に配慮した運営」は、次ページ以降に示すとおりである。

## (1) 大会運営に係る総合的な連絡調整

東京都は大会時、組織委員会と緊密な連携体制を構築し、大会運営に係る情報を随時集約し、都庁関係局及び関係機関に迅速に共有するなど連絡調整を実施する。

また、都市機能を支える関係機関等と連携し、各機関が日頃から保有する都内の都市機能に係る情報について一元的な集約を行った上で異常がないか確認する。そして、大会運営に影響を及ぼし得る事態が発生した場合、関係機関等と連携して迅速に対応を行い、大会運営への影響の軽減を図る。

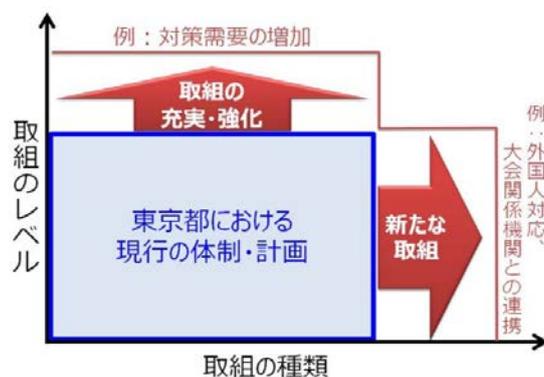
さらに、大規模な自然災害、テロ、サイバー攻撃、感染症の流行など大会運営に著しい影響を及ぼす事態が発生した場合には、選手等大会関係者及び観客の安全を守るとともに、都民の生命・健康の確保や、都民生活及び社会機能を維持するための対策を講じる。

また、東京 2020 大会が盛夏の時期に開催されることから、大会時に提供される飲食物の安全性に十分配慮する必要があるため、食品安全管理を徹底する。

## 1) 大規模な自然災害等への対応

東京2020大会開催中における災害時の基本的な対応は、東京都の現行の「東京都地域防災計画 震災編（平成26年修正）」、「首都直下地震等対処要領（改訂版）」、「東京都地域防災計画 風水害編（平成26年修正）」にのっとり実施し、東京都全体に影響を及ぼす大規模災害等は東京都災害対策本部で対応する。

一方で、大会開催中は国内外から多くの観客が競技会場等に集中することが想定されることから、東京都では、「東京2020大会の安全・安心の確保のための対処要領（第二版）」（平成31年4月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）を策定し、図7.1-3に示すとおり現行の取組の充実・強化や外国人対応等の新たな取組を実施する。



出典：「東京 2020 大会の安全・安心の確保のための対処要領（第二版）」  
（平成 31 年 4 月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）

図 7.1-3 東京都における現行の体制・計画との関係

## ア. 現行の取組の充実・強化

大会開催中には国内外から多数の観客が東京を訪れることに加え、世界からの注目が東京に集まることから、次の取組をはじめ、現行の取組の充実・強化を図る。

（主な取組事例）

- ・テロをはじめとする治安事象の未然防止（治安対策）
- ・国や区市町村など関係機関との情報共有（サイバーセキュリティ）
- ・首都直下地震等発生時の都民・訪都者への呼び掛け・情報提供（災害対策）

- ・感染症の発生動向の監視・情報の集約及び都民・関係機関への提供（感染症対策） 等

#### イ. 大会時における新たな対応

大会開催中には、選手村をはじめ大会固有の大規模な大会関係施設が設置されるほか、多くの外国人が東京 2020 大会を訪れる。また、東京 2020 大会の役割（経費）分担に関する大枠の合意に基づき、東京都は、都内会場周辺に関わるセキュリティ対策の役割を担うなど、大会時に必要となる取組を行う。

（主な取組事例）

- ・テロ等治安事象発生時におけるラストマイル<sup>3</sup>上の観客の安全確保（治安対策）
- ・政府に設置されるサイバーセキュリティ対処調整センターとの連携（サイバーセキュリティ）
- ・首都直下地震等発生時の会場周辺における観客等の避難措置（災害対策）
- ・感染症発生時に迅速・的確な対応をとるための専門家の助言を受けられる体制の確保（感染症対策）

#### 2) 大会開催中の飲食提供の食品安全管理

組織委員会では、大会時の飲食提供の食品安全管理のため、「東京2020大会における飲食提供に係る基本戦略」（平成30年3月 組織委員会）を策定している。

東京2020大会において組織委員会の責任において飲食提供を行う競技会場、選手村等については、表7.1-3に示す取組により、食品安全管理を徹底する。

表 7.1-3 東京 2020 大会時の食品安全管理の概要

区 分	概 要
法令遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止するために制定された食品衛生法をはじめ、各種関係法令を厳格に遵守する。</li> <li>・ 食材の生産から料理の提供に至るまでのトレーサビリティの確保を構築していく。</li> </ul>
自主的衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織委員会が行う飲食提供における衛生管理には世界標準である HACCP<sup>4</sup>の手法を採用するとともに、サプライヤーに対しても可能な限り HACCP による衛生管理を求め、食中毒の未然防止を図っていく。</li> <li>・ 生産地から飲食提供の場までの温度管理が継続できるよう食材等の取扱者の連携を推進していく。これらの取組により、食品事業者の HACCP や関連する認証への対応を促進するとともに、加えて食品事業者が先進的な管理を検討、推進することを通じ、衛生管理の底上げと国際化への対応を図っていく。</li> </ul>
行政機関との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織委員会は、会場等を所管する地方自治体の保健所をはじめとした各行政機関との良好な関係を構築し、指導、助言及び支援を受けていく。</li> </ul>
食品防御	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政機関の協力を得ながら、食材等の取扱者の食品安全への取組を強化するとともに、悪意を持った者によるリスクの予防と対応策を整備していく。</li> </ul>
飲食提供対象者との協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織委員会は飲食提供対象者に対し、手洗いの励行や食品の長時間の携行に対する注意喚起等、食品衛生を確保する上で重要な行動に関して必要に応じた情報提供を行う。</li> <li>・ 提供された飲食に対して飲食提供対象者が気付いた意見や安全に関わる情報の提供を受けるなど、相互コミュニケーションを通じた協力関係を構築する。その際、不測の事態に備えた体制についても整備する必要がある。</li> </ul>

出典：「東京 2020 大会における飲食提供に係る基本戦略」（平成 30 年 3 月 組織委員会）

また、大会開催中の飲食物の提供業務を受託する事業者は、「東京2020大会において提供される飲食物の安全確保のためのガイドライン」に基づき、東京2020大会の施設内で喫食される飲食物を取り扱う場合は、以下の事項を遵守する。

- ・「大量調理施設衛生管理マニュアル」（平成9年3月24日付衛食第85号（最終改正版））

3 ラストマイル：競技会場周辺の観客利用想定駅と競技会場出入口とを結ぶ観客が歩行するルート。

4 HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point) :

食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因（ハザード）を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法。国連食糧農業機関（FAO）と世界保健機関（WHO）の合同機関である食品規格（コーデックス）委員会から発表され、各国にその採用を推奨している国際的に認められたもの。

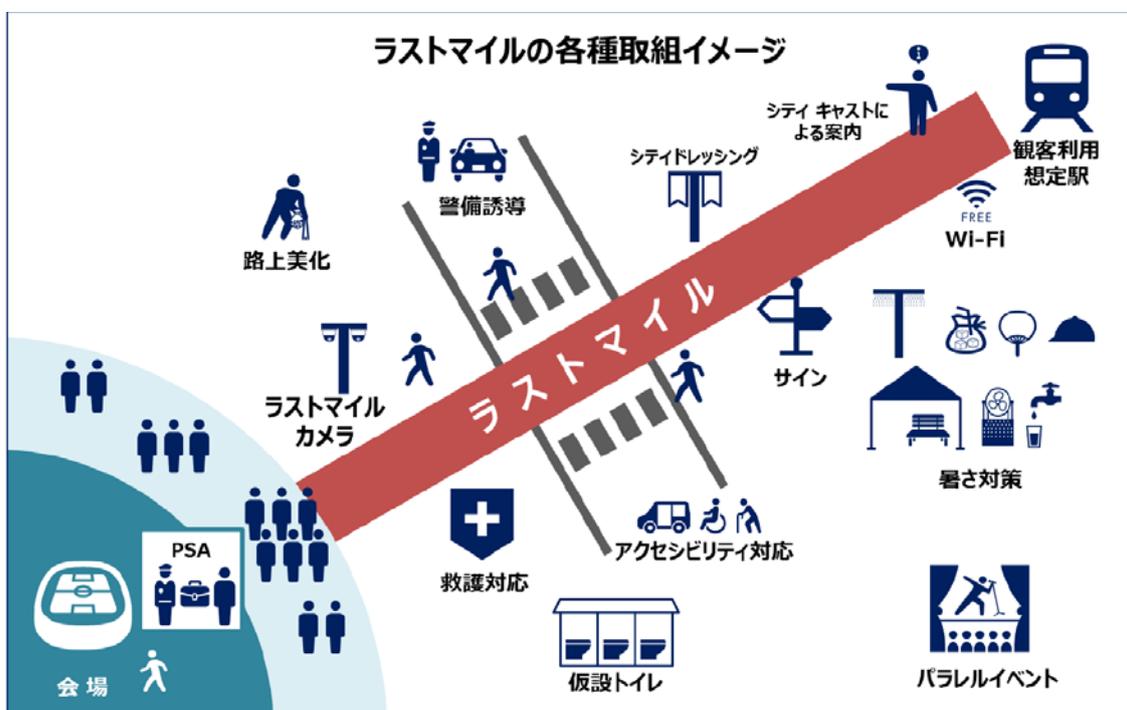
及び「食品等事業者が実施すべき管理運営基準に関する指針（ガイドライン）」（平成 16 年 2 月 27 日付食安発第 0227012 号（最終改正版））

- ・ ノロウイルスの流行期としての衛生管理
- ・ 使用水等の管理（水質検査の実施、貯水槽の清掃等）
- ・ 鼠族及び昆虫対策（鼠族及び昆虫の駆除等）
- ・ 食品衛生責任者の設置
- ・ 食品等の取扱（HACCP による衛生管理食材の優先使用等）
- ・ 記録の作成及び保存
- ・ 回収・廃棄
- ・ 検食の実施
- ・ 情報の提供
- ・ 食品取扱者等の衛生管理
- ・ 食品取扱者等に対する教育訓練
- ・ 危機管理（健康危害発生時の体制の構築、危機管理訓練等）

## (2) 競技会場周辺における取組

大会時に観客が集中する競技会場周辺、特にラストマイルにおいては、円滑な大会運営を支援するとともに都民生活への影響を軽減するため、図 7.1-4 に示すような各種取組を実施する。

また、競技会場周辺において観客の大規模な滞留、怪我・急病人の発生や事故等の事案が発生した場合には、組織委員会や関係機関等と連携して迅速な対応を行い、観客の安全確保や大会運営への影響の軽減を図る。



PSA：歩行者スクリーニングエリア

出典：「東京 2020 大会における都市オペレーションセンター運営計画」（平成 31 年 3 月 東京都）

図 7.1-4 ラストマイルの各種取組イメージ

## ア. 暑さ対策

観客の歩行距離が長いなどの暑さ対策が必要となるラストマイルにおいて、観客利用想定駅前における紙製帽子やうちわ等の配布などのソフト対策や、日除け、ミストファン等を備えた仮設休憩所の設置などのハード対策を行う。

また、熱中症予防に関する情報の発信や、シティキャスト（都市ボランティア）等による水分補給の呼びかけなど観客への注意喚起を行う。

さらに、競技会場周辺における遮熱性舗装等の整備促進や、日差しを遮る木陰を確保するための樹形拡大の取組を進めている。

## イ. 救護対応

必要に応じて看護師など有資格者が駐在する救護スペースを設置し、応急手当を実施するとともに医療機関への適切な搬送につなげていく。また、体調不良となった観客等が診察を受けられるよう、近隣の医療機関と連携する。

さらに、使用可能な AED（自動体外式除細動器）の場所等を把握し、警備員等やシティキャスト（都市ボランティア）が適切に活用できるようにする。

## ウ. シティキャスト（都市ボランティア）による案内

観客利用想定駅の出入口や歩道の分岐点、交差点などにシティキャストを配置し、競技会場までの案内や観光案内を行う。開催都市の「顔」として、国内外からの観客等を明るく、楽しい雰囲気案内し、大会を盛り上げていく。

また、全ての観客の方が不安なく大会を楽しんでいただけるよう、アクセシビリティに配慮した案内やサポートを行っていく。

## エ. サイン

観客の円滑な往来を支援するため、沿道、歩道上に仮設の案内サインを設置する。サインは、多言語での表記やピクトグラムを活用し、国外からの観客等にも分かりやすく①行先案内、②周辺施設・設備案内（トイレ・休憩所等）、③交通案内を行っていく。

## オ. 警備誘導

観客等の雑踏事故の発生を抑制・防止するため、観客が集中する駅前や人と車両の交錯が生じる交差点・横断歩道、マンションやビルの車両出入口、観客の通行に危険がある場所などに警備員等を配置する。横断歩道橋や駅の階段付近の混雑時には、徒列の整理等も行っていく。

また、障害のある方に対する声かけやサポートなど、アクセシビリティに配慮した安全確保を行っていく。

## カ. ラストマイルカメラ

観客の流動状況の把握による群衆事故の防止及び災害発生時の現地状況の確認のため、ラストマイルカメラを設置する。

キ. アクセシビリティ対応

障害者等の動線となるアクセシブルルート<sup>5</sup>について、道路管理者等と連携し、段差解消や勾配改善、視覚障害者誘導用ブロック敷設など「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」(平成 29 年 3 月 組織委員会)の水準確保に向け整備を促進するとともに、仮設整備やソフトの対応(人的サポート等)を検討する。

ク. 仮設トイレ

駅や公園などの公衆トイレだけでなく、近隣の商業施設等のトイレも活用できるよう働きかけていく。

また、不足が見込まれる箇所には、仮設のトイレの設置やトイレカーを配備することを検討する。

ケ. Wi-Fi

大会情報、競技会場までの行き方や交通機関の運行情報を収集できるようにするため、駅前や競技会場の入口付近などへの公共フリーWi-Fiの整備を促進する。

さらに、ラストマイルに設置する休憩所等、需要が見込まれる場所への仮設Wi-Fiの設置を検討する。

コ. 路上美化

競技会場で購入した飲食物等のゴミは競技会場で廃棄し、路上へのポイ捨て等を行わないよう、観客への呼びかけを行っていく。

また、路上に捨てられているゴミがある場合には、スタッフ等による回収を行っていく。

サ. 受動喫煙対策

受動喫煙の問題が生じないように、路上喫煙禁止などの地元自治体の条例を踏まえ、取り組んでいく。

---

5 アクセシブルルート：大会時に、両大会の全ての会場へのアクセスルートとなる経路のうち、アクセシビリティに配慮が必要な観客の動線として組織委員会が選定するエリア。

シ. シティドレッシング<sup>6</sup>

競技会場等周辺を中心に、大会前（2020年（令和2年）6月頃）から大会終了まで、統一的なデザインのフラッグやバナー等で効果的に装飾し、大会を盛り上げる。

ス. パラレルイベント<sup>7</sup>

地元自治体やイベント主催者に対し、事前に大会運営に関する情報を提供するとともに、大会時に開催されるイベントについては、円滑な大会運営との両立が図れるよう協力していく。

6 東京都は、「東京2020大会のシティドレッシング・大規模展示物基本計画」（平成31年3月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）を策定し、表-1に示す競技会場や東京2020ライブサイト等会場の周辺を中心に、選手や大会関係者、観客が通行する道路、空港、駅等を統一的なデザインのフラッグやバナー等で効果的に装飾し、大会を盛り上げるとともに、大会を世界に印象付ける。また、表-2に示す国内外の多くの観戦客等が訪れる大会の象徴的な場所や東京2020ライブサイト等会場に大規模展示物を設置し、各種メディアやSNS等を通じ、東京の魅力の世界に発信する。

表-1 シティドレッシングの実施内容

実施箇所		実施規模	実施期間
主要幹線道路	選手村から競技会場等	青山通り、内堀通り、晴海通り等 約 180 路線	2020年4月頃から 大会終了まで
ラストマイル等	最寄駅から競技会場、東京2020ライブサイト等会場	最寄駅から競技会場：約 70 ルート 最寄駅から東京 2020 ライブサイト等会場：約 10 ルート	2020年6月頃から 大会終了まで
空港	羽田空港	第一・第二・国際線ターミナルの出発・到着ロビー等	
	成田空港	第一・第二ターミナルの出発・到着ロビー等	
駅等	競技会場の最寄駅等	競技会場の最寄駅、都営線の駅 等	

出典：「東京 2020 大会のシティドレッシング・大規模展示物基本計画」  
（平成 31 年 3 月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）

表-2 大規模展示物の実施内容

種類	設置箇所	実施期間
オリンピック・パラリンピックシンボル	区部及び多摩における象徴的な場所 ・臨海部（都立お台場海浜公園水域） ・高尾山山頂	オリンピックシンボル： 2020年1月頃から札幌 <sup>6</sup> 終了まで パラリンピックシンボル： 札幌 <sup>6</sup> 終了後から大会終了まで
	東京 2020 ライブサイト等 ・都立代々木公園 ・都立井の頭恩賜公園	オリンピックシンボル： 2020年6月頃から札幌 <sup>6</sup> 終了まで パラリンピックシンボル： 札幌 <sup>6</sup> 終了後から大会終了まで
	・羽田空港（国際線到着ロビー） ・成田空港（国際線到着ロビー）	
園芸装飾（オリ・パラシンボル）	東京 2020 ライブサイト等 ・都立日比谷公園	
ワードマーク（TOKYO2020）	空港から選手村までのアクセスルート上 1 か所	
大会マスコット像 ※オリンピック・パラリンピックマスコットを並べて設置	東京 2020 ライブサイト等 ・高輪ゲートウェイ駅前用地 ・東京都庁舎 ・都立上野恩賜公園 ・多摩地域会場	2020年6月頃から大会終了まで
	多摩・島しょ地域の主要観光地 ・ 7 か所	

出典：「東京 2020 大会のシティドレッシング・大規模展示物基本計画」  
（平成 31 年 3 月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）

7 パラレルイベント：大会時に会場付近や近郊で開催され、大会運営に影響を与える可能性のある大会とは直接関係しない各種催事。

## (3) 輸送・交通に係る取組

東京都と組織委員会は、大会時に多数訪れる大会関係者や観客等に質の高い輸送サービスを提供し、大会に係る円滑な輸送の実現と都市活動の安定の両立を図っていく必要がある。

そのため、東京都、組織委員会共同で輸送センターを設置し、都市交通需要マネジメント、大会輸送管理、インフラ運行等管理を実施する。東京 2020 大会における選手等の大会関係者の輸送、観客・スタッフの輸送、輸送と経済・都市活動との両立を図るための競技会場周辺の交通対策の計画は、以下のとおりである。

## 1) 大会関係者の輸送

## ア. 大会関係者の輸送サービスの概要

東京 2020 大会では、選手及び各国の国内オリンピック委員会 (NOC) /各国の国内パラリンピック委員会 (NPC)、国際競技連盟 (IF)、メディア、マーケティングパートナーに属する大会関係者に対し、原則、選手村開村期間中に、バスや乗用車による専用の輸送システムを用いて、安全、円滑、迅速な輸送サービスを提供する。

対象となるステークホルダーごとの人数 (想定) は、表 7.1-4 に示すとおりである。

表 7.1-4 ステークホルダー毎の人数 (想定)

ステークホルダー	人数	
	オリンピック	パラリンピック
選手村 各国の国内オリンピック委員会 (NOC) 各国の国内パラリンピック委員会 (NPC)	18,200	8,000
国際競技連盟 (IF)	2,900	1,200
メディア	25,800	9,500
オリンピックファミリー/パラリンピックファミリー	調整中	調整中
マーケティングパートナー	17,100	調整中

注) 追加競技に係る人数は含まない。

出典: 「輸送運営計画 V1」 (平成 29 年 6 月 組織委員会・東京都)

## イ. 関係者輸送ルート

オリンピック大会における関係者輸送ルートは、「オリンピック・ルート・ネットワーク」(以下「ORN」という。)と呼称し、都市活動に与える影響を考慮して以下のコンセプトで設定する。

- ・安全性、定時性を考慮し、信号交差点がなく一般道に比べ事故率も低い高速道路を主として設定する。
- ・一般道においては、交通容量の大きい4車線以上の道路を優先して選定する。
- ・最寄りとなる高速道路出入口から競技会場までを最短距離で結ぶ経路を設定する。

過去の大会においては、ORN における円滑な交通を実現するため、ORN に関わる交通対策のほか、交通需要マネジメント施策を実施してきた。

東京 2020 大会においても、大会関係者の輸送を効率的に行うとともに、大会に係る円滑な輸送の実現と都市活動の安定を両立すべく、現在、ORN を含む東京周辺の道路網について、交通需要と施設容量を踏まえた影響予測等を行っており、今後、大会時の運用手法及び交通需要マネジメント等の施策について、交通輸送技術検討会で検討し、輸送連絡調整会議等を

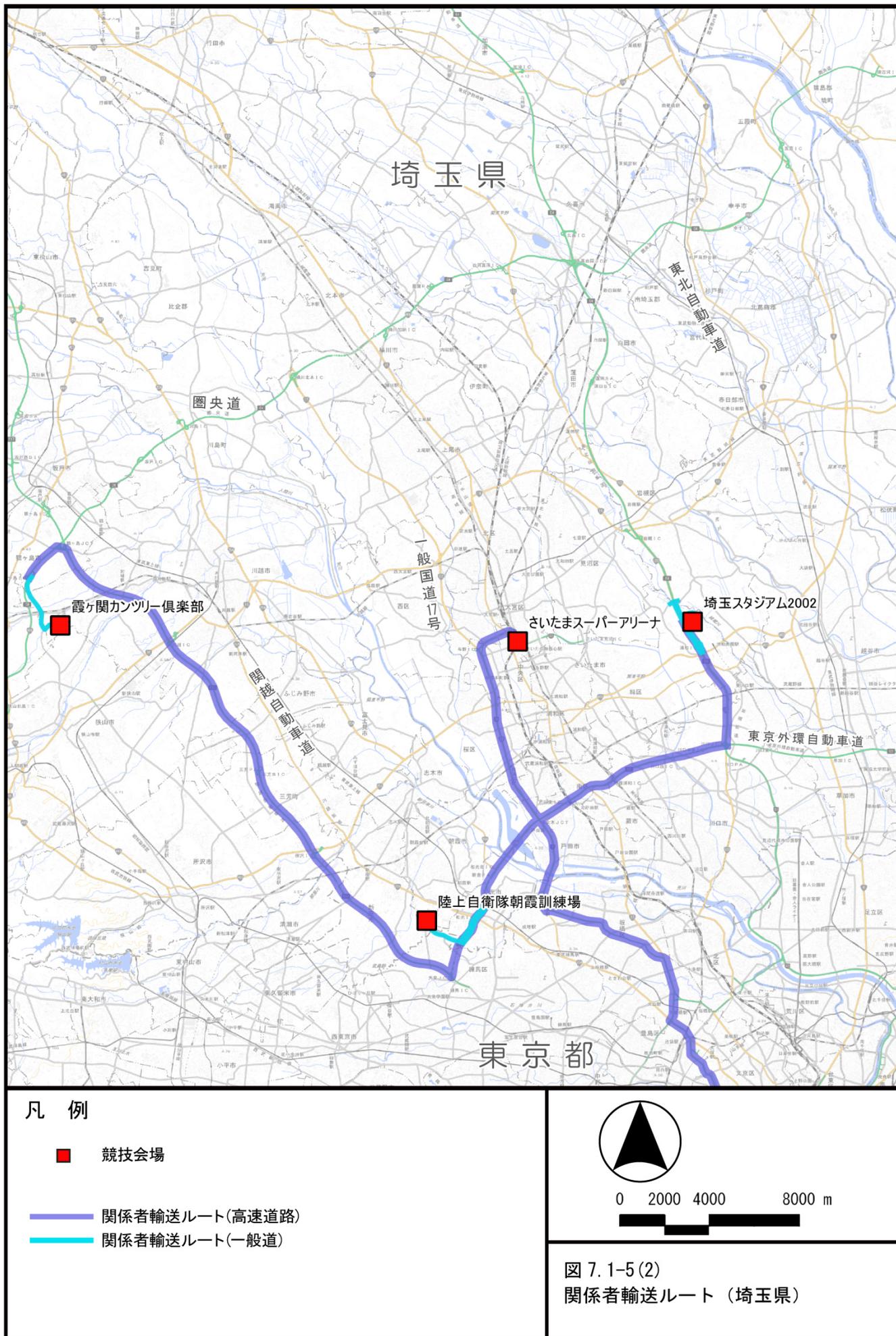
通じて関係機関と調整を図っていく。

また、パラリンピック大会における関係者輸送ルートは、「パラリンピック・ルート・ネットワーク」（以下「PRN」という。）と呼称し、ORN と同様のコンセプトで設定する。

関係者輸送ルートは、図 7. 1-5(1)～(10)に示すとおりである。なお、関係者輸送ルートは、今後、追加・変更の可能性がある。



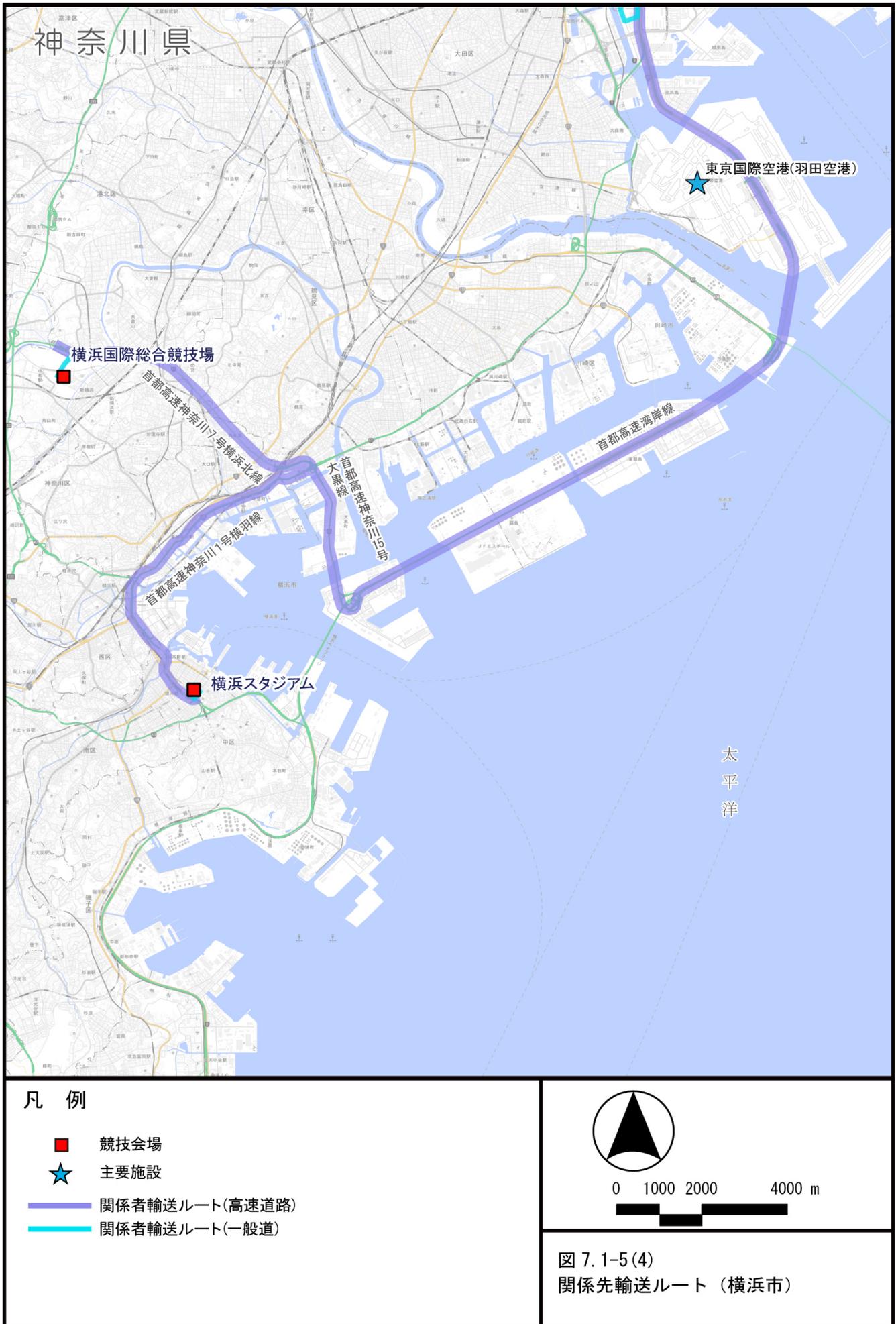
出典：「第 5 回 輸送連絡調整会議【資料 4-1-1】関係者輸送ルート【素案】」（平成 30 年 4 月 組織委員会）



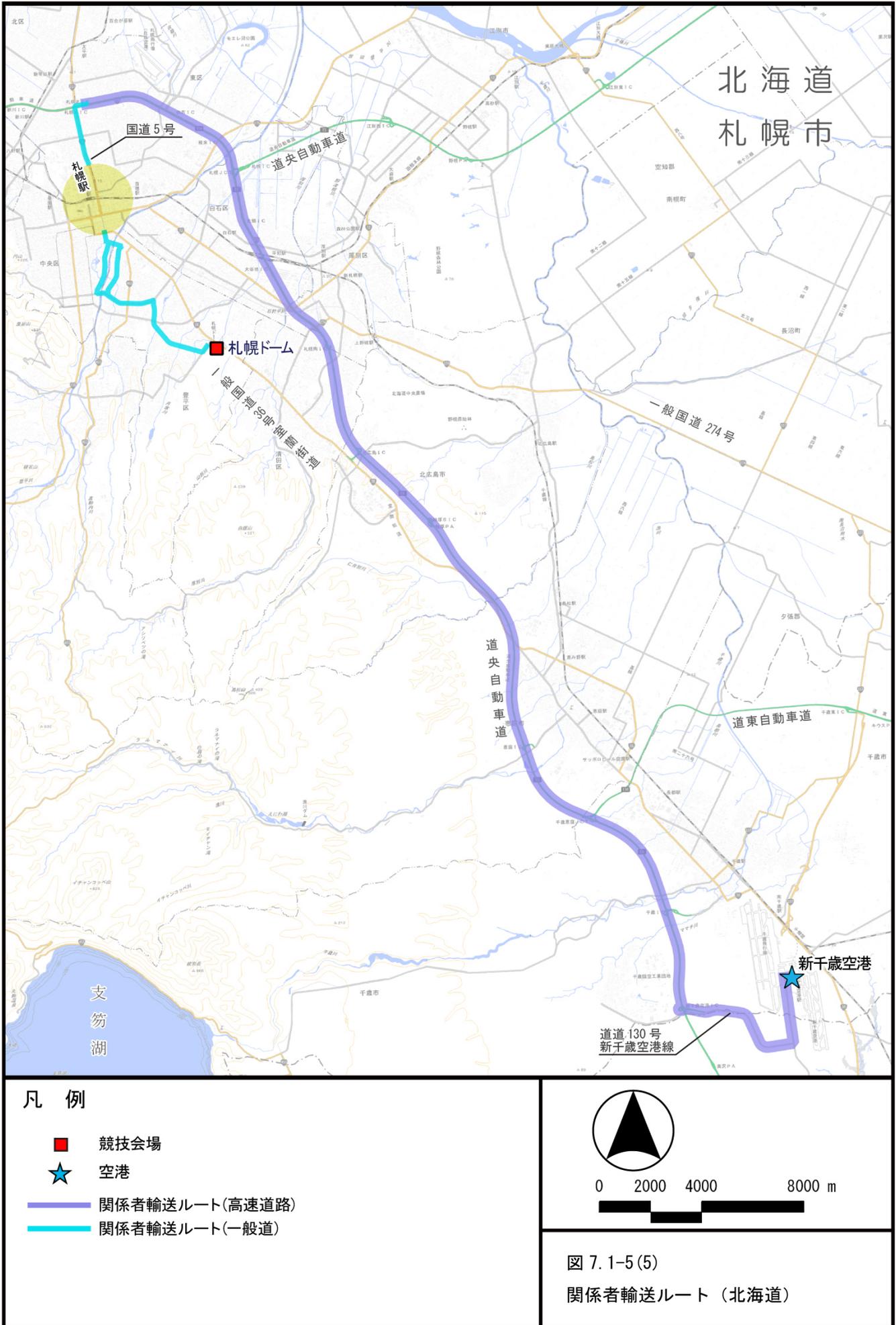
出典：「第5回 輸送連絡調整会議【資料4-1-1】関係者輸送ルート【素案】」（平成30年4月 組織委員会）



出典：「第5回 輸送連絡調整会議【資料4-1-1】関係者輸送ルート【素案】」(平成30年4月 組織委員会)



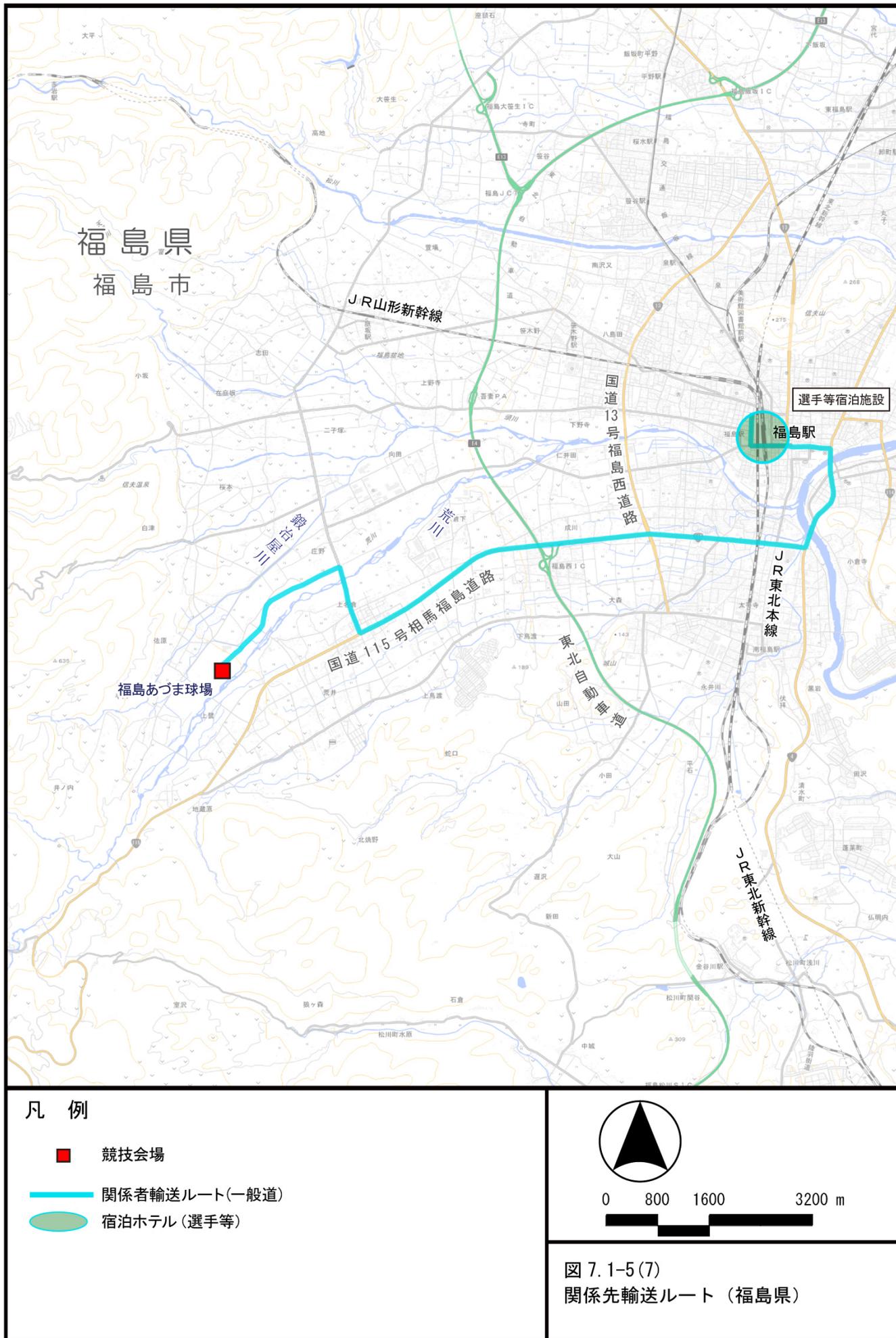
出典：「第 5 回 輸送連絡調整会議【資料 4-1-1】関係者輸送ルート【素案】」（平成 30 年 4 月 組織委員会）



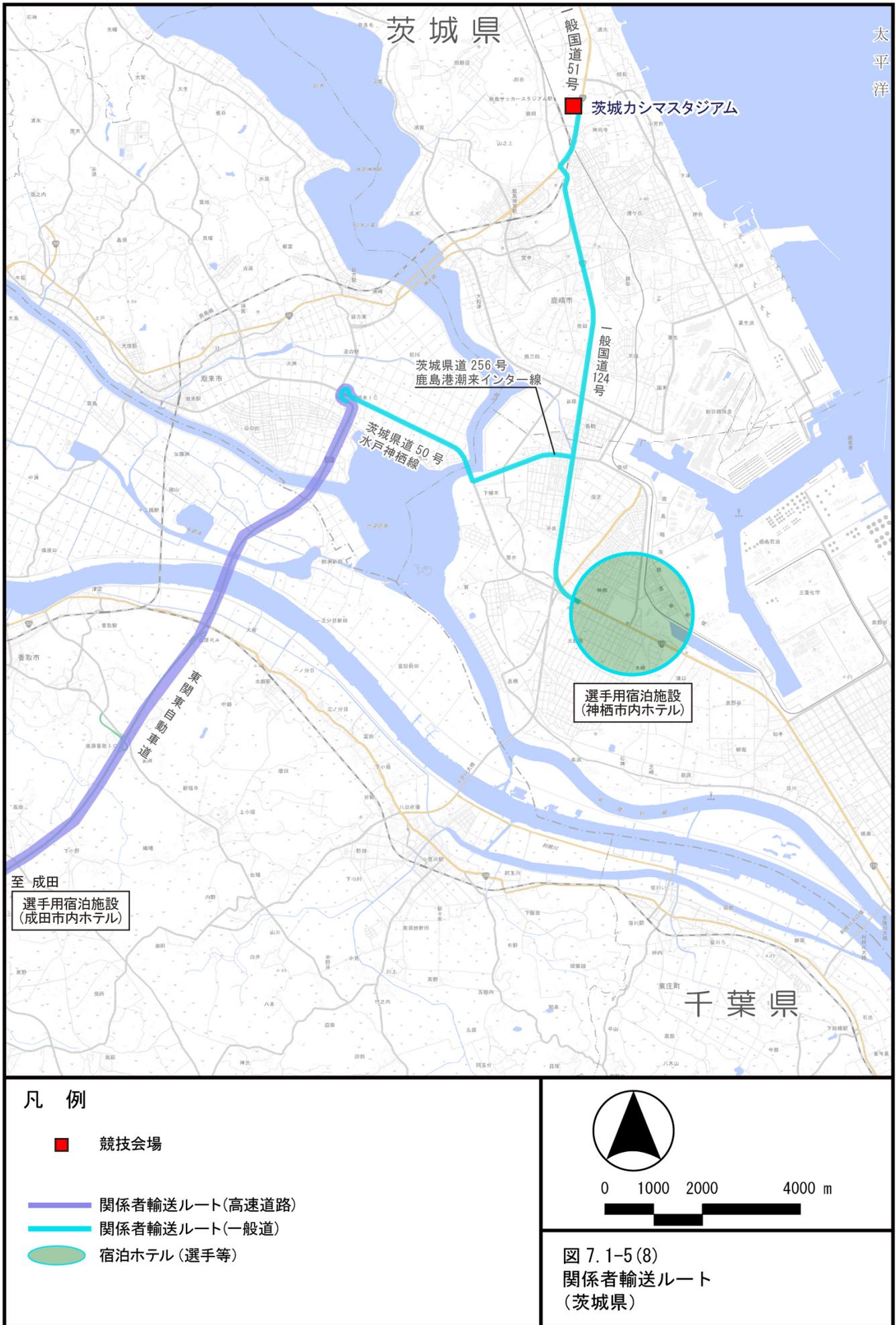
出典：「第2回 北海道輸送連絡調整会議資料」(平成30年3月 組織委員会)



出典：「第4回 宮城県輸送連絡調整会議資料」(令和元年8月 組織委員会)



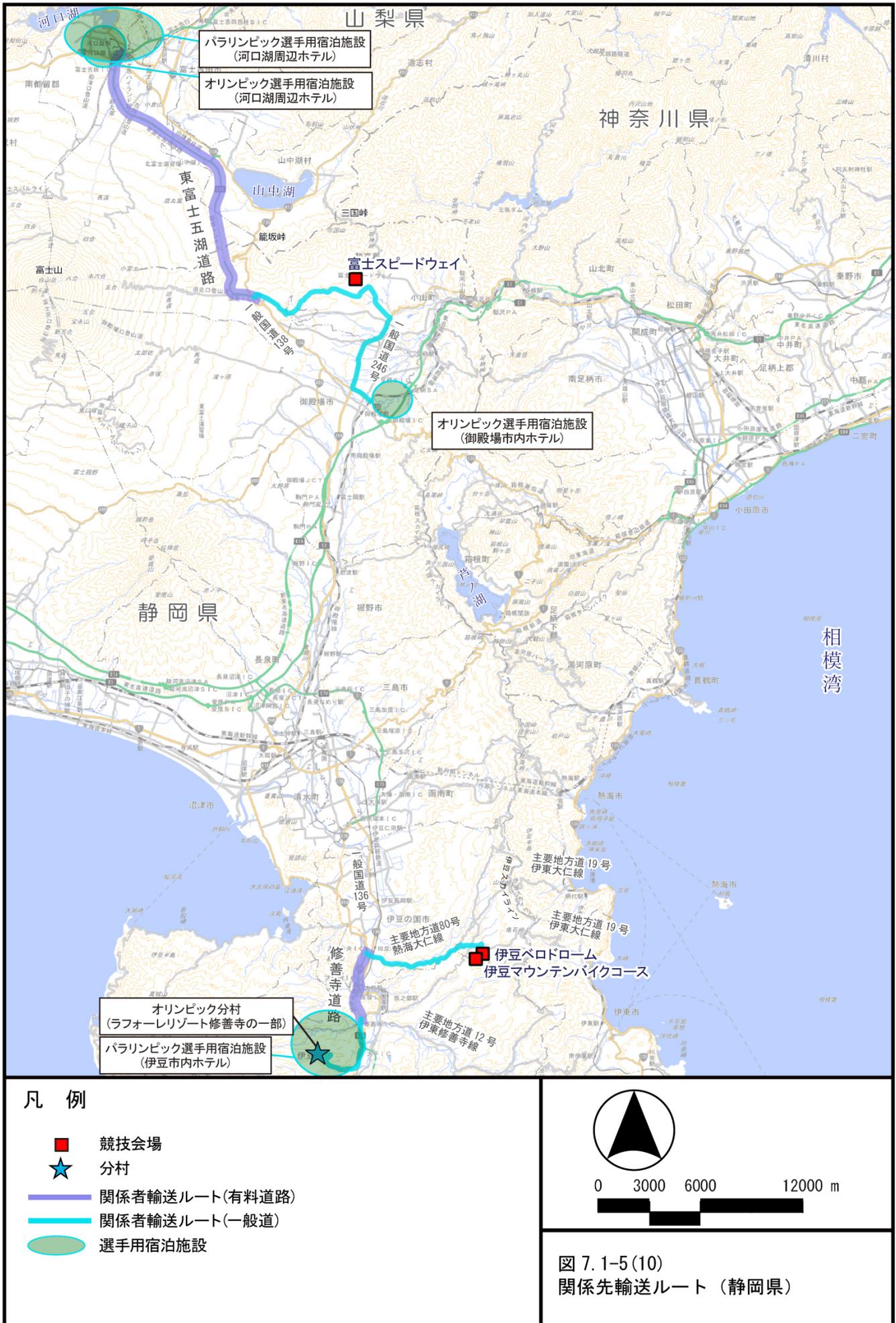
出典：「第4回 福島県輸送連絡調整会議資料」(令和元年8月 組織委員会)



出典：「第4回 茨城県輸送連絡調整会議資料」（令和元年8月 組織委員会）



出典：「第2回 静岡県輸送連絡調整会議資料」(平成30年4月 組織委員会)



出典：「第4回 静岡県輸送連絡調整会議資料」(令和元年7月 組織委員会)

## 2) 観客及びスタッフの輸送

## ア. 観客・スタッフ輸送の概要

組織委員会は、鉄道をはじめとする高密度かつ信頼性の高い東京の交通網を十分に活用することを、東京 2020 大会における観客輸送の戦略として掲げている。

また、ボランティアを含むスタッフ輸送についても、観客輸送と同様に、充実した公共交通網を最大限に生かす。

観客及びスタッフの人数（想定）は、表 7.1-5 に示すとおりである。

表 7.1-5 観客及びスタッフの人数（想定）

ステークホルダー	人数	
	オリンピック	パラリンピック
観客（チケット保有者）	7,800,000	2,300,000
スタッフ	168,000	98,000

注) 追加競技に係る人数は含まない。

出典：「輸送運営計画 V1」（平成 29 年 6 月 組織委員会・東京都）

## イ. 観客輸送ルート

観客輸送ルート<sup>8</sup>とは、観客やスタッフが大会開催中、競技会場と観客利用想定駅との間を通行する経路のことであり、距離等に応じて、徒歩及びバスによる輸送で対応することとなる。

なお、観客輸送ルートは、競技会場と観客利用想定駅との間の距離や道路状況等により、ルートが選定され、以下の 5 点を基本的な考え方として検討していく。

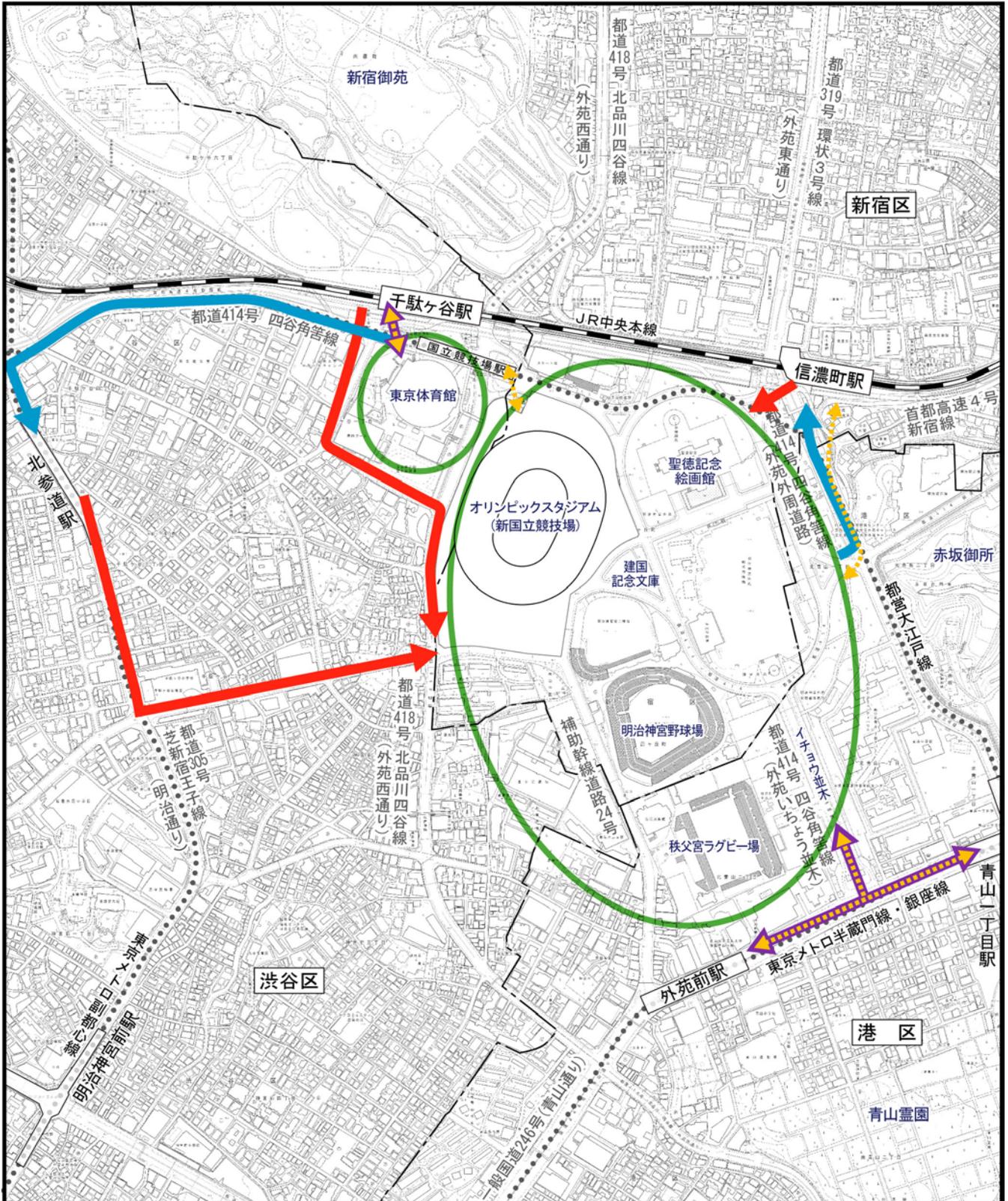
- ・ 歩行延長が過度に長くないよう、競技会場から一定圏内にある鉄道駅を観客利用想定駅として選定することを基本とする。
- ・ 入場と退場を同一駅とするなど、観客に分かりやすい経路の選定を基本とする。
- ・ 信号機が設置され、適切な幅員のある歩道とするなど、観客に安全な経路の選定を基本とする。
- ・ 入場ルートと退場ルートは分離することを基本とするとともに、生活動線に配慮する。
- ・ 入場ルート・退場ルートともにアクセシブルルートと同じ経路であることを基本とする。

徒歩圏内に鉄道駅がない場合、または利用想定駅では容量が不足する場合、過去の実績等を鑑みて、近くの鉄道駅からシャトルバスによる輸送ルートを選定する。

また、アクセシビリティに配慮が必要な観客に対して、競技会場と一部の観客利用想定駅との間にアクセシブルルートを設定する。

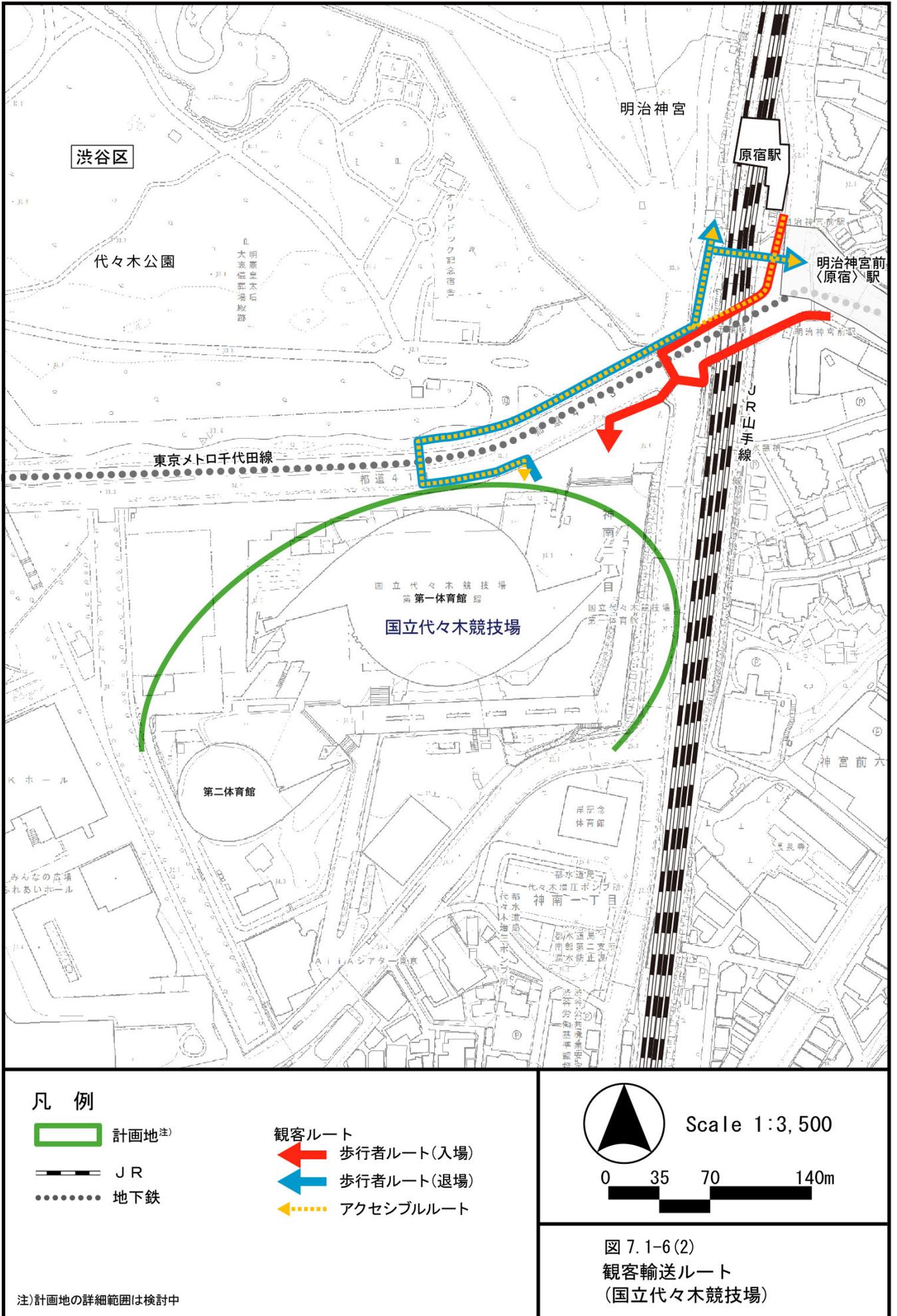
各会場の観客輸送ルートは、図 7.1-6(1)～(28)に示すとおりである。なお、関係者輸送ルートは、今後、追加・変更の可能性はある。また、一部の競技会場についての観客輸送ルートは、検討中である。

<sup>8</sup> 観客輸送ルートは、徒歩及びバスによる輸送を行うルートであり、このうち観客利用想定駅から競技会場入口までの観客が歩行するルートがラストマイルとなる。

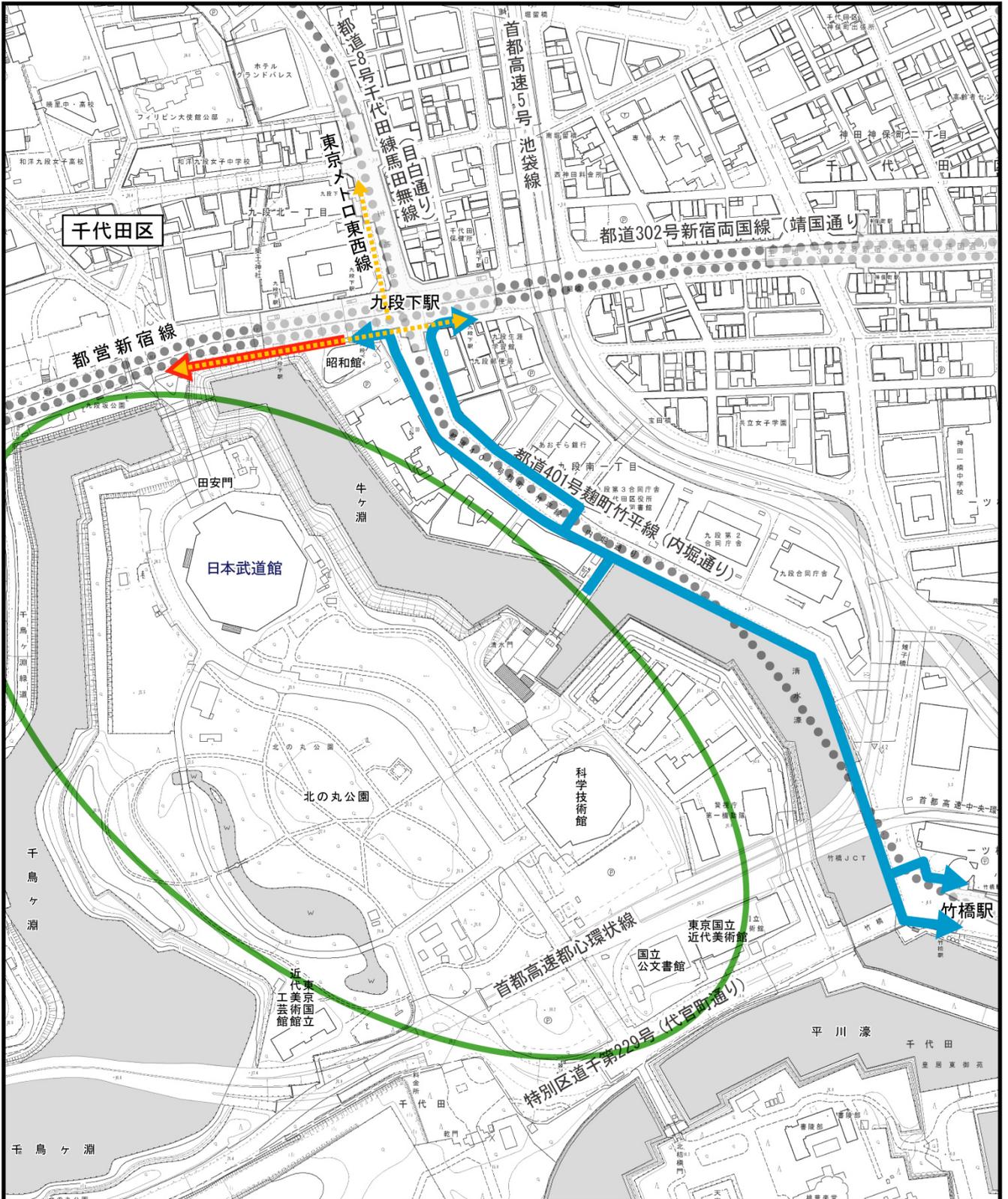


<p><b>凡例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="border: 2px solid green; display: inline-block; width: 20px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> 計画地<sup>注)</sup></li> <li>--- 区界</li> <li>—+— JR</li> <li>..... 地下鉄</li> </ul>		<p><b>観客ルート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: red; font-size: 2em;">←</span> 歩行者ルート(入場)</li> <li><span style="color: blue; font-size: 2em;">←</span> 歩行者ルート(退場)</li> <li><span style="color: purple; font-size: 2em;">←</span> 歩行者ルート(入退場)</li> <li><span style="color: yellow; font-size: 2em;">←</span> アクセシブルルート</li> </ul>	
<p>注)計画地の詳細範囲は検討中</p>		<p>Scale 1:10,000</p> <p>0 100 200 400m</p>	
<p>図 7.1-6(1) 観客輸送ルート (オリンピックスタジアム、東京体育館)</p>			

出典：「第 5 回 輸送連絡調整会議資料 東京都内の競技会場における観客ルート（素案）」（平成 30 年 4 月 組織委員会）



出典：「第 5 回 輸送連絡調整会議資料 東京都内の競技会場における観客ルート（素案）」（平成 30 年 4 月 組織委員会）



凡例

計画地<sup>注)</sup>

地下鉄

観客ルート

歩行者ルート(入場)

歩行者ルート(退場)

アクセシブルルート



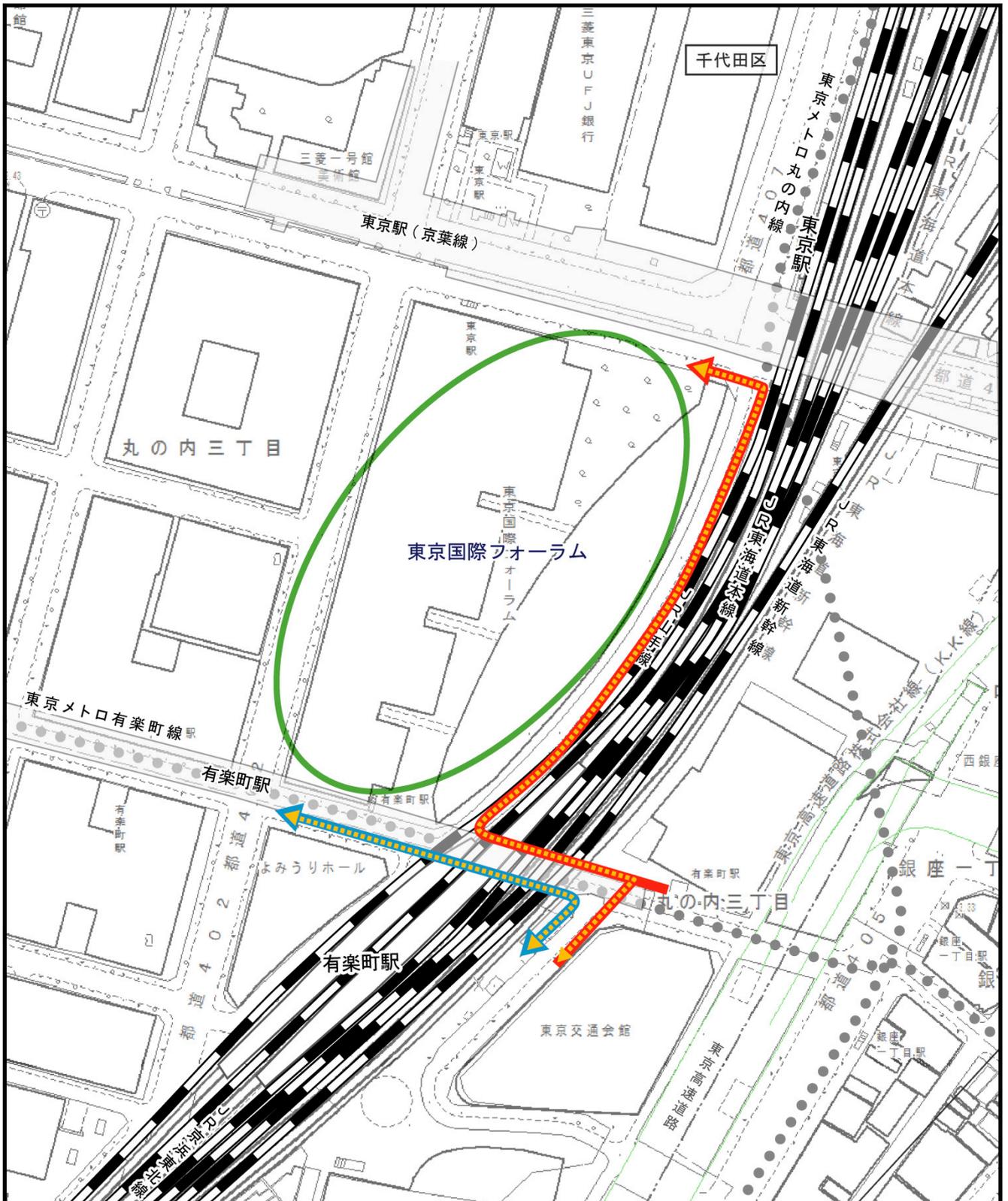
Scale 1:5,000

0 50 100 200m

図 7.1-6(3)

観客輸送ルート  
(日本武道館)

注)計画地の詳細範囲は検討中



凡例

- 計画地<sup>注)</sup>
- 区界
- +— JR
- ..... 地下鉄

- 観客ルート
- ← 歩行者ルート(入場)
  - ← 歩行者ルート(退場)
  - ← アクセシブルルート



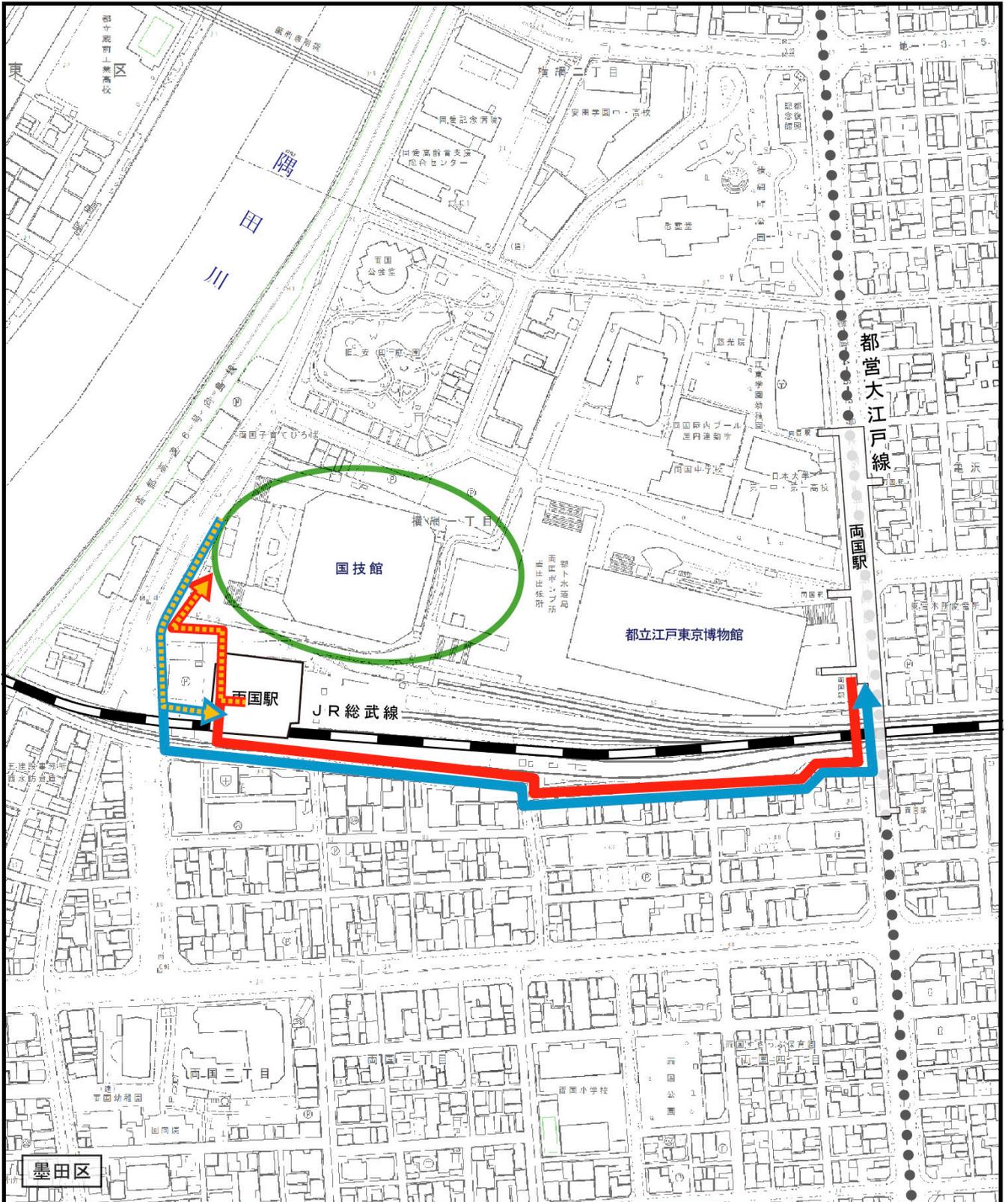
Scale 1:3,000



注) 計画地の詳細範囲は検討中

図 7.1-6(4)  
観客輸送ルート  
(東京国際フォーラム)

出典：「第 5 回 輸送連絡調整会議資料 東京都内の競技会場における観客ルート (素案)」(平成 30 年 4 月 組織委員会)



凡例

計画地注)

J R

地下鉄

観客ルート

歩行者ルート(入場)

歩行者ルート(退場)

アクセシブルルート



Scale 1:4,000

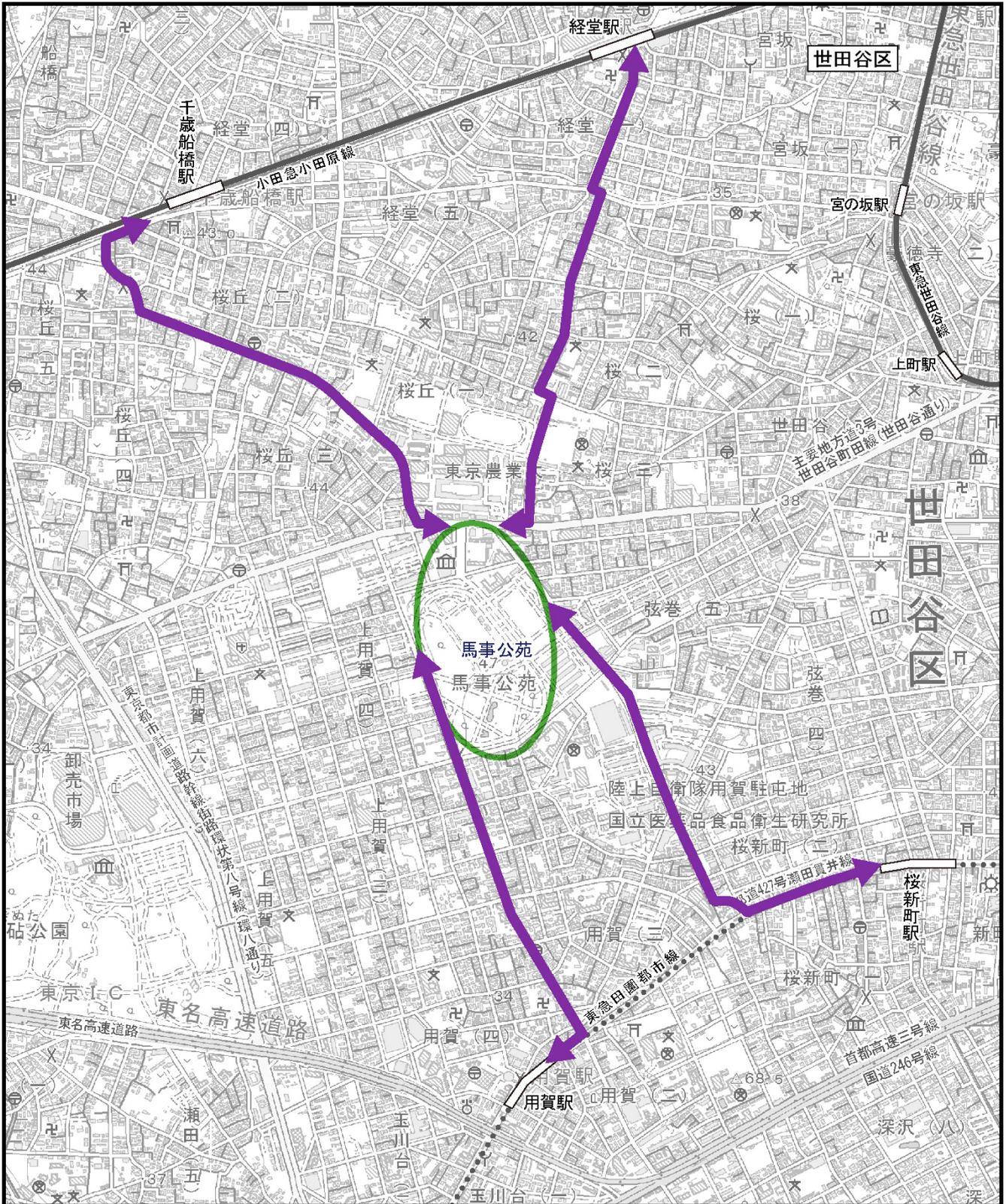
0 40 80 160m

図 7.1-6(5)

観客輸送ルート

(国技館)

注)計画地の詳細範囲は検討中

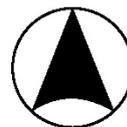


凡 例

- 計画地<sup>注)</sup>
- 私鉄
- 私鉄 (地下鉄)

観客ルート  
← 歩行者ルート(入退場)

※用賀駅等からのシャトルバス  
 (アクセシブル含む)を検討中

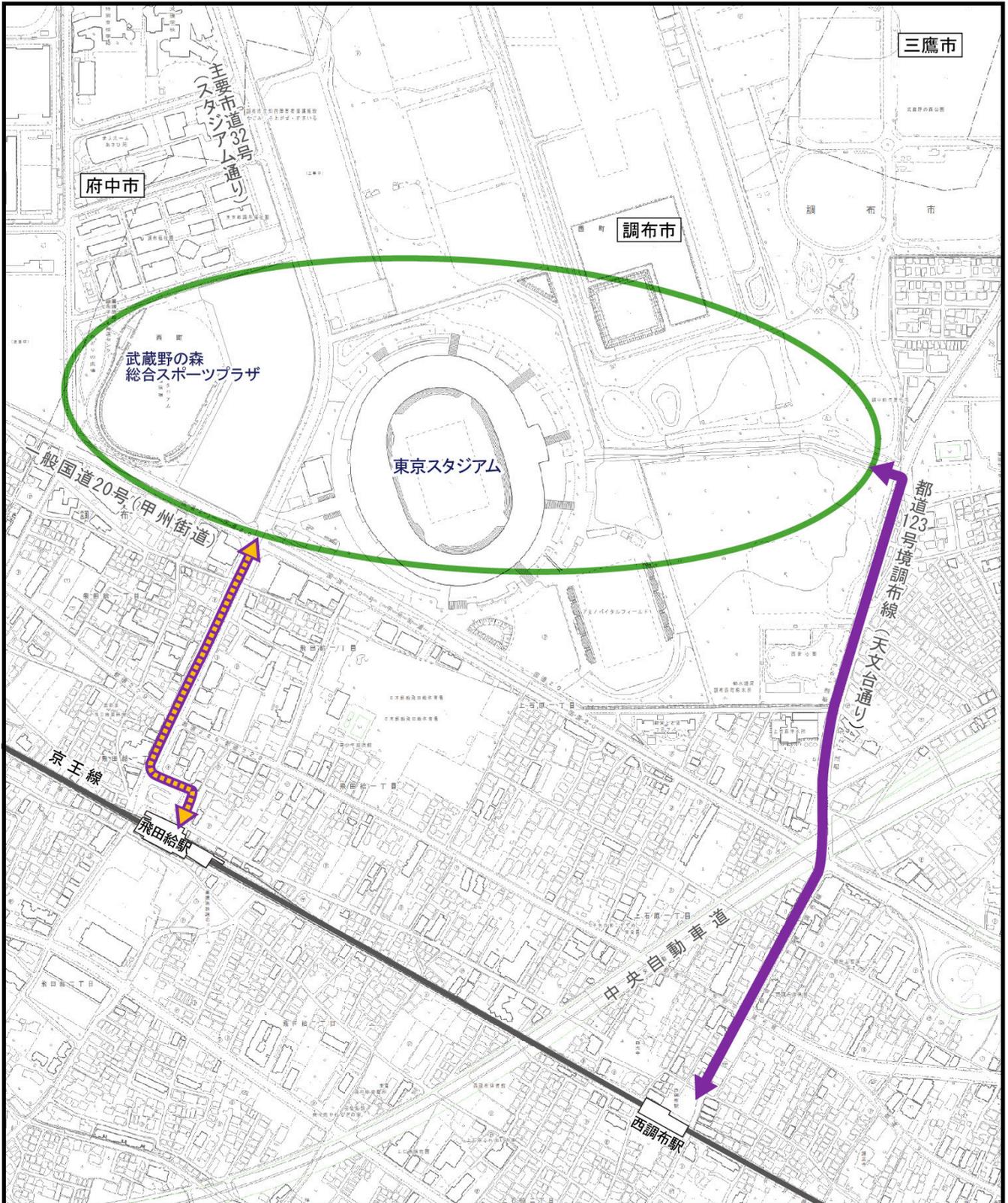


Scale 1:15,000



図7.1-6(6)  
 観客輸送ルート  
 (馬事公苑)

注)計画地の詳細範囲は検討中



凡 例

- 計画地<sup>注)</sup>
- 市町界
- 私鉄

- 観客ルート
- ← 歩行者ルート(入退場)
- ⋯ アクセシブルルート
- ※別途シャトルバス輸送を検討中



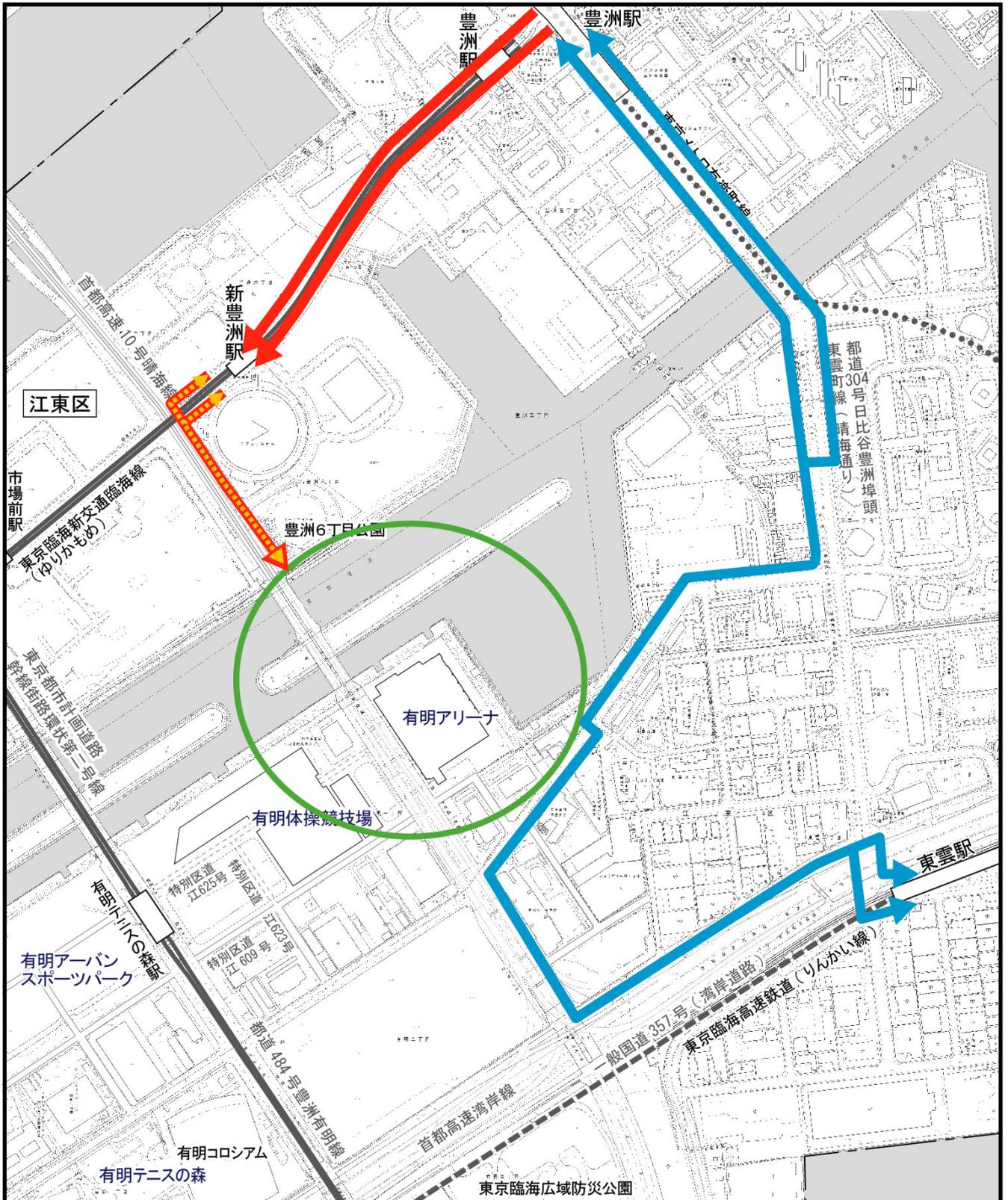
Scale 1:7,000



注)計画地の詳細範囲は検討中

図 7.1-6(7)  
観客輸送ルート  
(武蔵野の森総合スポーツプラザ、  
東京スタジアム)

出典：「第 5 回 輸送連絡調整会議資料 東京都内の競技会場における観客ルート（素案）」(平成 30 年 4 月 組織委員会)



凡 例

- 計画地<sup>注)</sup>
- 区界
- 東京臨海新交通臨海線 (ゆりかもめ)
- 東京臨海高速鉄道 (りんかい線)
- ..... 地下鉄

- 観客ルート
- ← 歩行者ルート(入場)
- ← 歩行者ルート(退場)
- ← アクセシブルルート



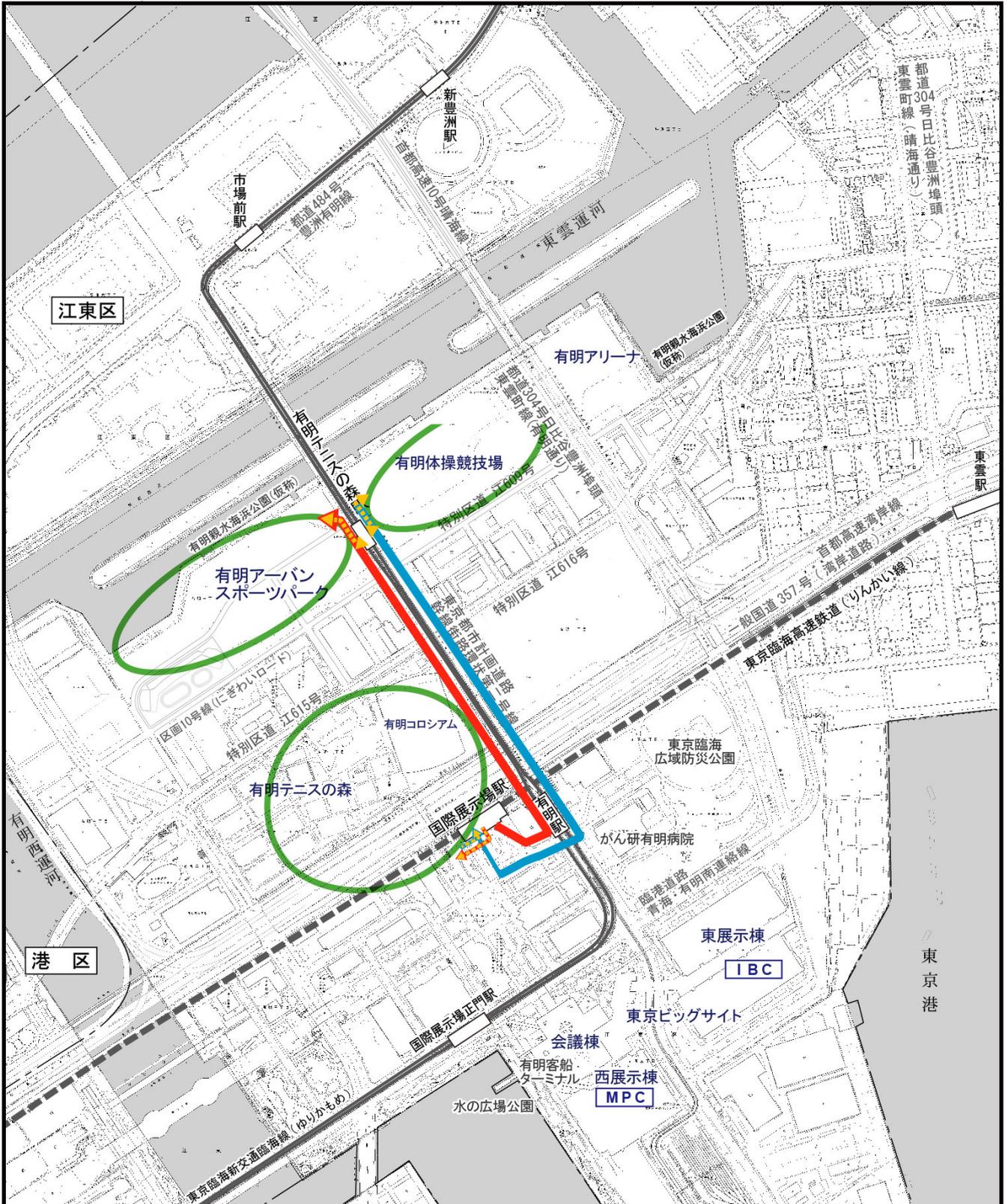
Scale 1:10,000

0 100 200 400m

図 7.1-6(8)  
観客輸送ルート  
(有明アリーナ)

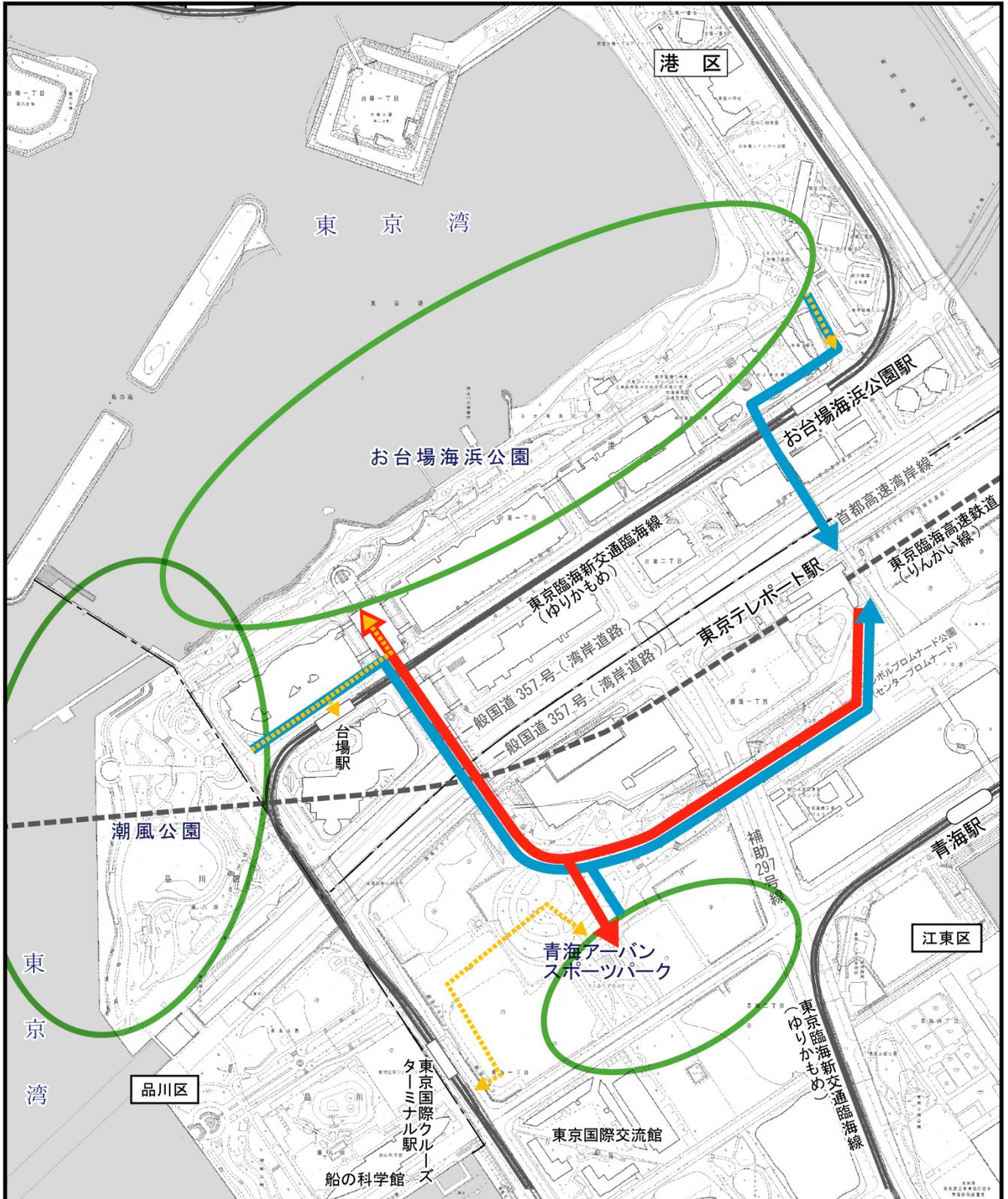
注)計画地の詳細範囲は検計中

出典：「第5回 輸送連絡調整会議資料 東京都内の競技会場における観客ルート(素案)」(平成30年4月 組織委員会)



<p><b>凡例</b></p> <p><span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> 計画地<sup>注)</sup></p> <p>— 東京臨海新交通 臨海線 (ゆりかもめ)</p> <p>- - - 東京臨海高速鉄道 (りんかい線)</p>		<p><b>観客ルート</b></p> <p><span style="color: red;">←</span> 歩行者ルート(入場)</p> <p><span style="color: blue;">←</span> 歩行者ルート(退場)</p> <p><span style="color: yellow;">⋯</span> アクセシブルルート</p>		<p> Scale 1:12,500</p> <p>0 125 250 500m</p>	
<p><small>注) 計画地の詳細範囲は検討中</small></p>		<p>図 7.1-6(9) 観客輸送ルート (有明体操競技場、有明アーバンスポーツパーク、有明テニスの森)</p>			

出典：「第 5 回 輸送連絡調整会議資料 東京都内の競技会場における観客ルート (素案)」(平成 30 年 4 月 組織委員会)



凡例

- 計画地<sup>注)</sup>
- 区界
- 東京臨海新交通臨海線 (ゆりかもめ)
- 東京臨海高速鉄道 (りんかい線)

観客ルート

- ← 歩行者ルート(入場)
- ← 歩行者ルート(退場)
- ⋯ アクセシブルルート

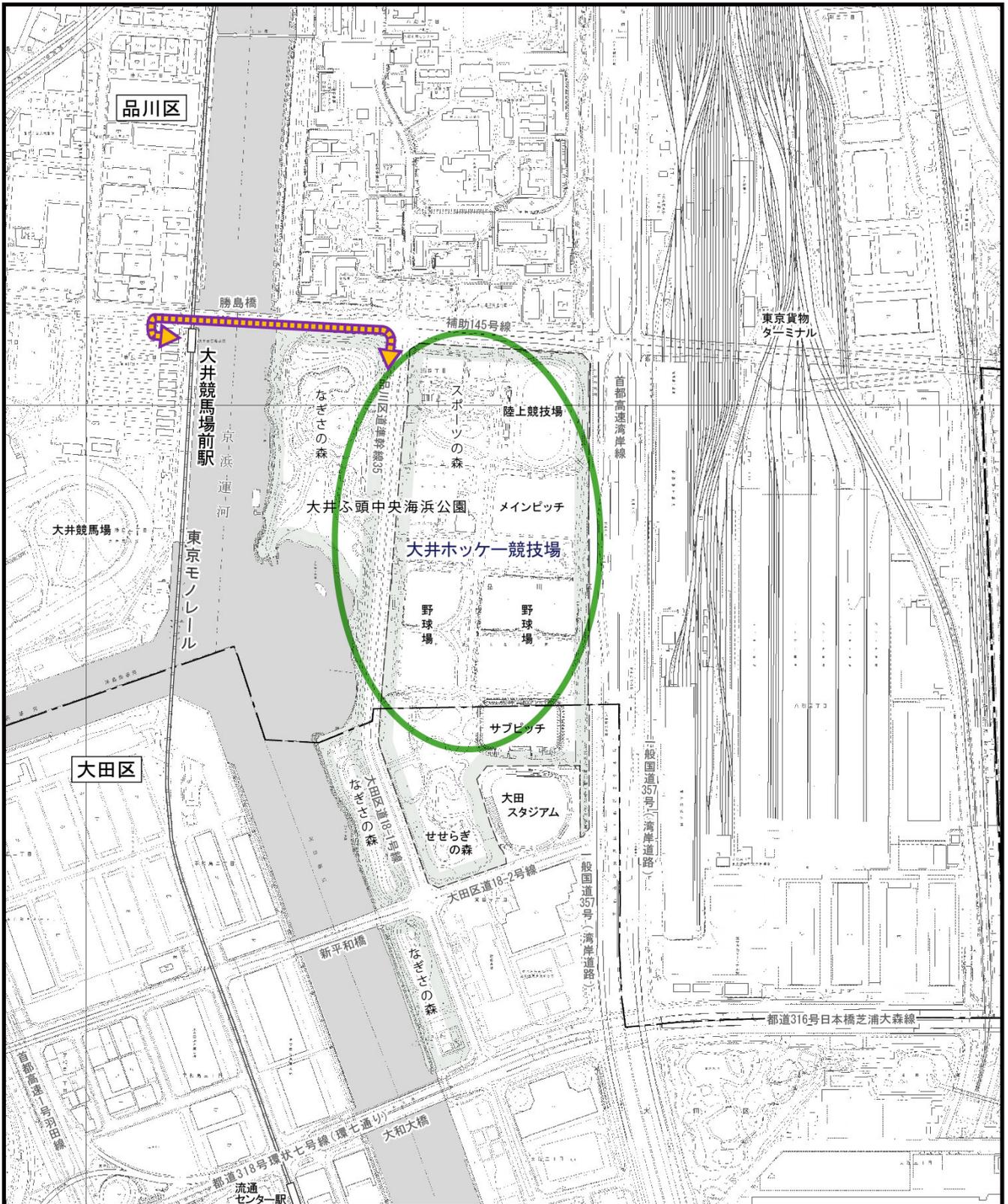


Scale 1:8,000

0 80 160 320m

図7. 1-6 (10)  
観客輸送ルート (お台場海浜公園、潮風公園、青海アーバンスポーツパーク)

注)計画地の詳細範囲は検討中



凡例

計画地<sup>注)</sup>

観客ルート

歩行者ルート(入退場)

アクセシブルルート

--- 区界

==== モノレール



Scale 1:10,000

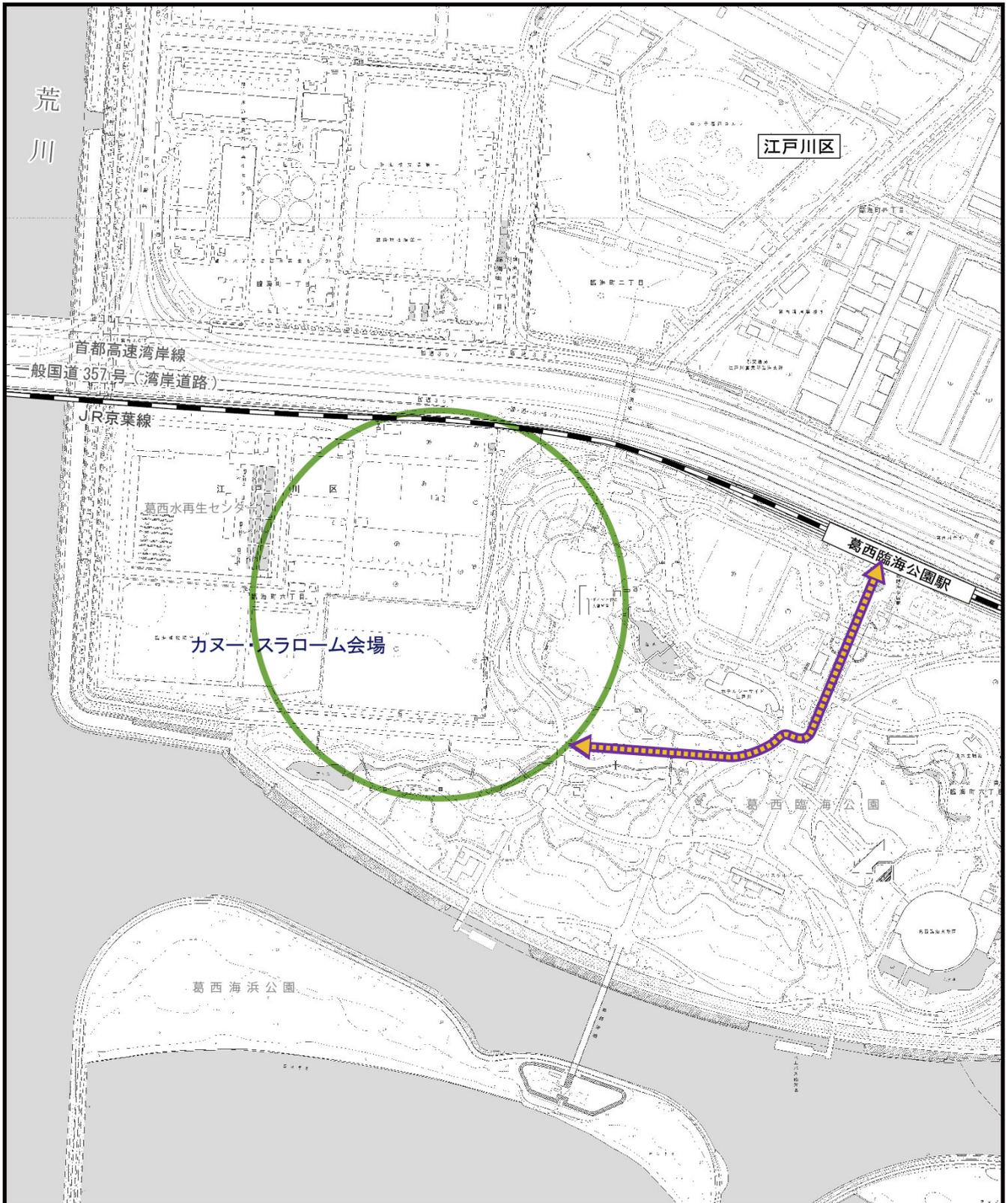
0 100 200 400m

図 7.1-6(11)

観客輸送ルート

(大井ホッケー競技場)

注) 計画地の詳細範囲は検討中



凡 例

- 計画地<sup>注)</sup>
- J R

- 観客ルート
- ← 歩行者ルート(入退場)
- ⋯ アクセシブルルート

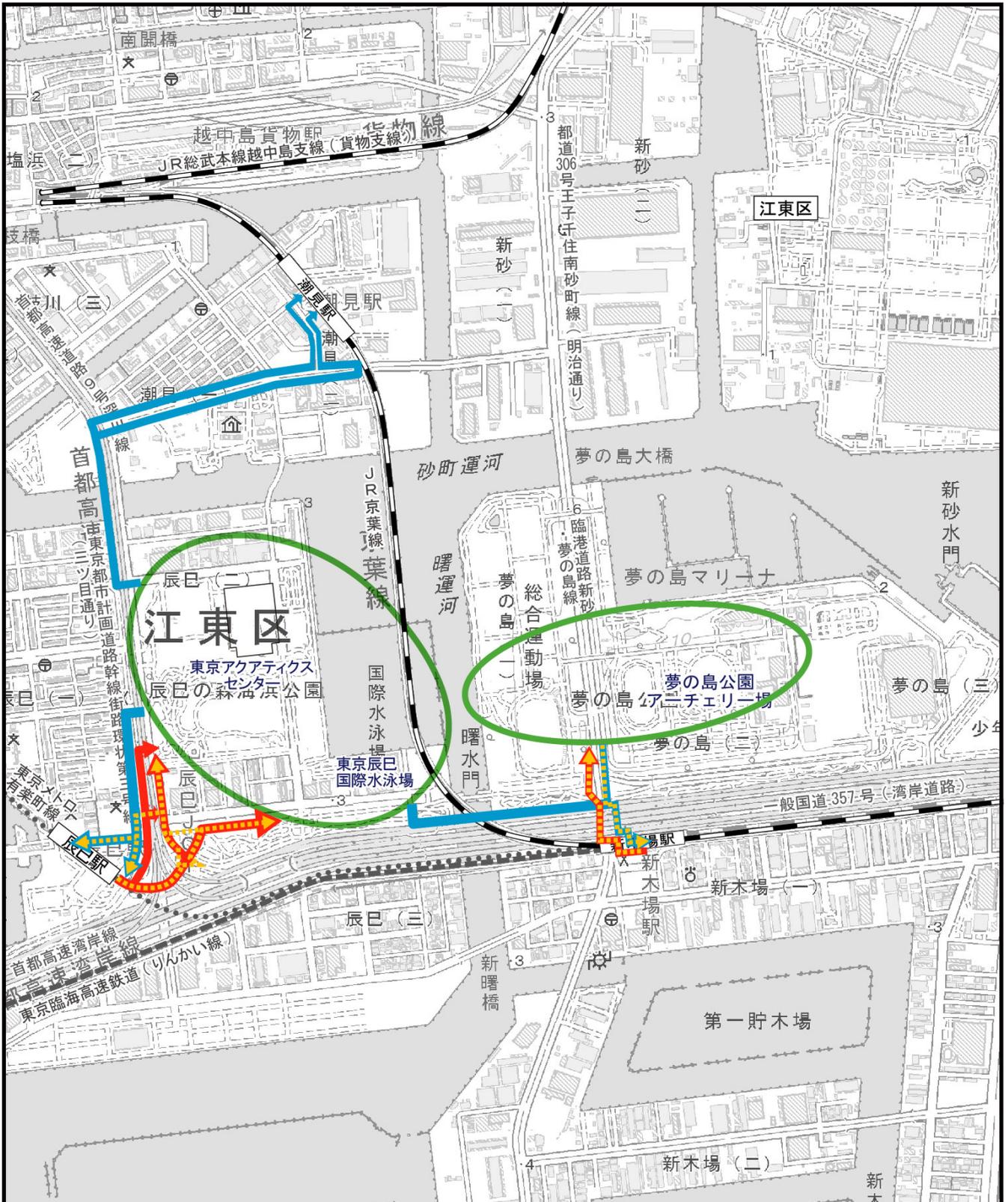


Scale 1:7,500



図 7.1-6(12)  
観客輸送ルート  
(カーヌー・スラロームセンター)

注)計画地の詳細範囲は検計中



凡例

- 計画地<sup>注)</sup>
- J R
- 東京臨海高速鉄道 (りんかい線)
- 地下鉄
- 観客ルート
- ← 歩行者ルート(入場)
- ← 歩行者ルート(退場)
- ⋯ アクセシブルルート



Scale 1:15,000

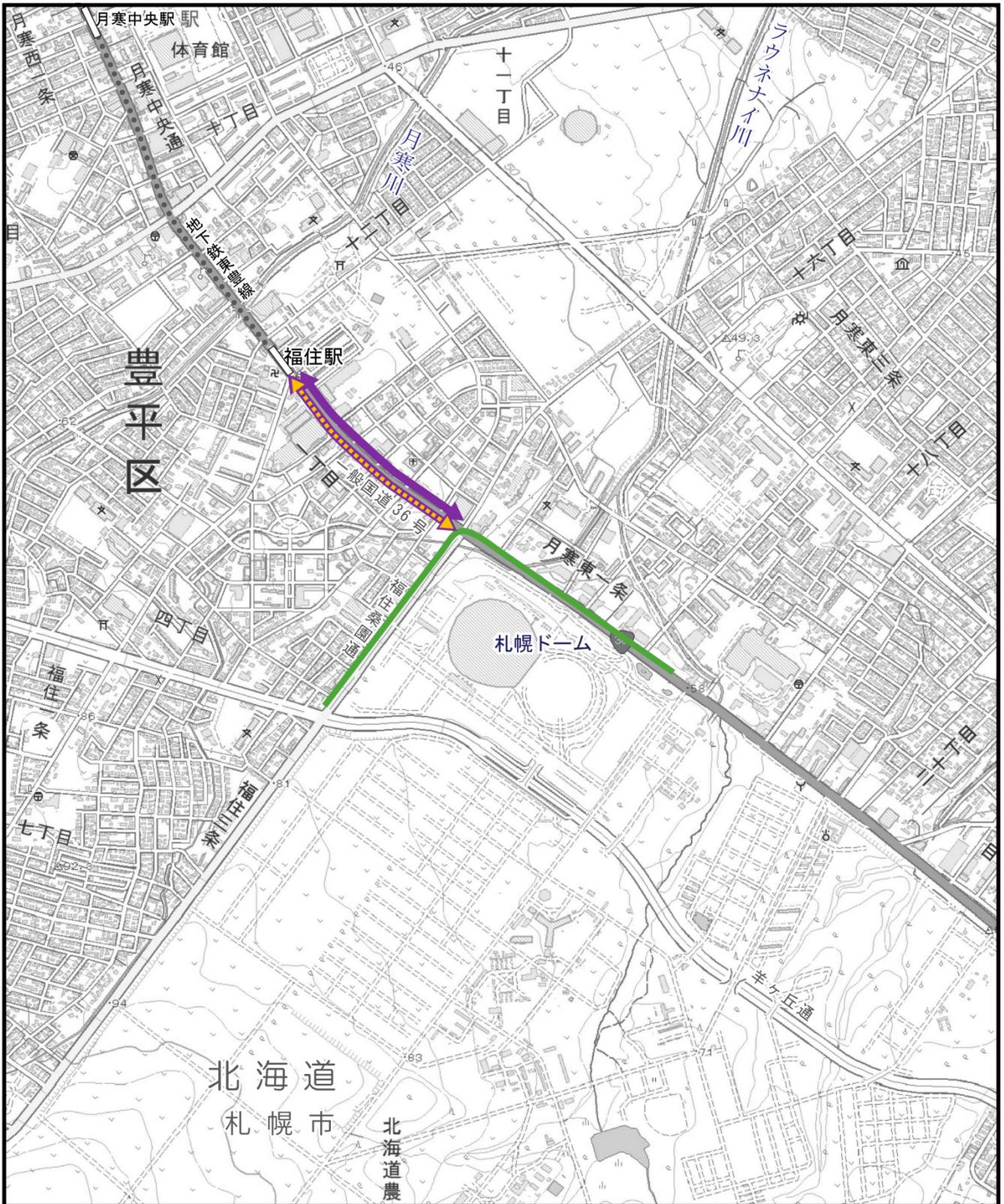
0 150 300 600m

図 7.1-6(13)

観客輸送ルート

(東京アクアティクスセンター、夢の島公園  
アーチェリー場、東京辰巳国際水泳場)

注)計画地の詳細範囲は検討中



凡例

- 計画地<sup>注)</sup>
- ..... 市営地下鉄

- 観客ルート
- ← 歩行者ルート(入退場)
- ⋯ アクセシブルルート

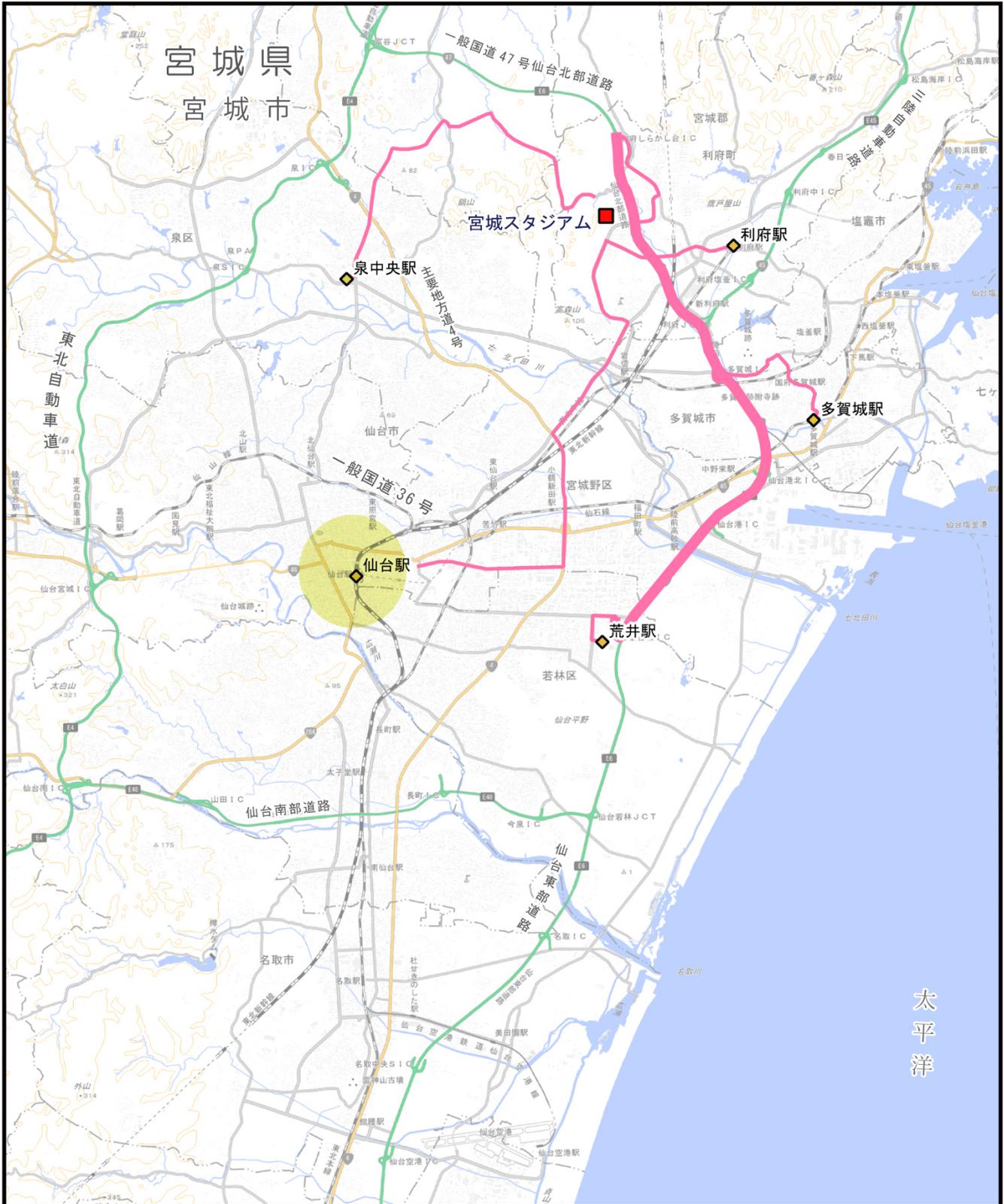


Scale 1:15,000



図7.1-6(14)  
観客輸送ルート  
(札幌ドーム)

注)計画地の詳細範囲は検討中



太平洋

凡例

- 競技会場
- 観客シャトルバスルート
- 観客利用想定駅

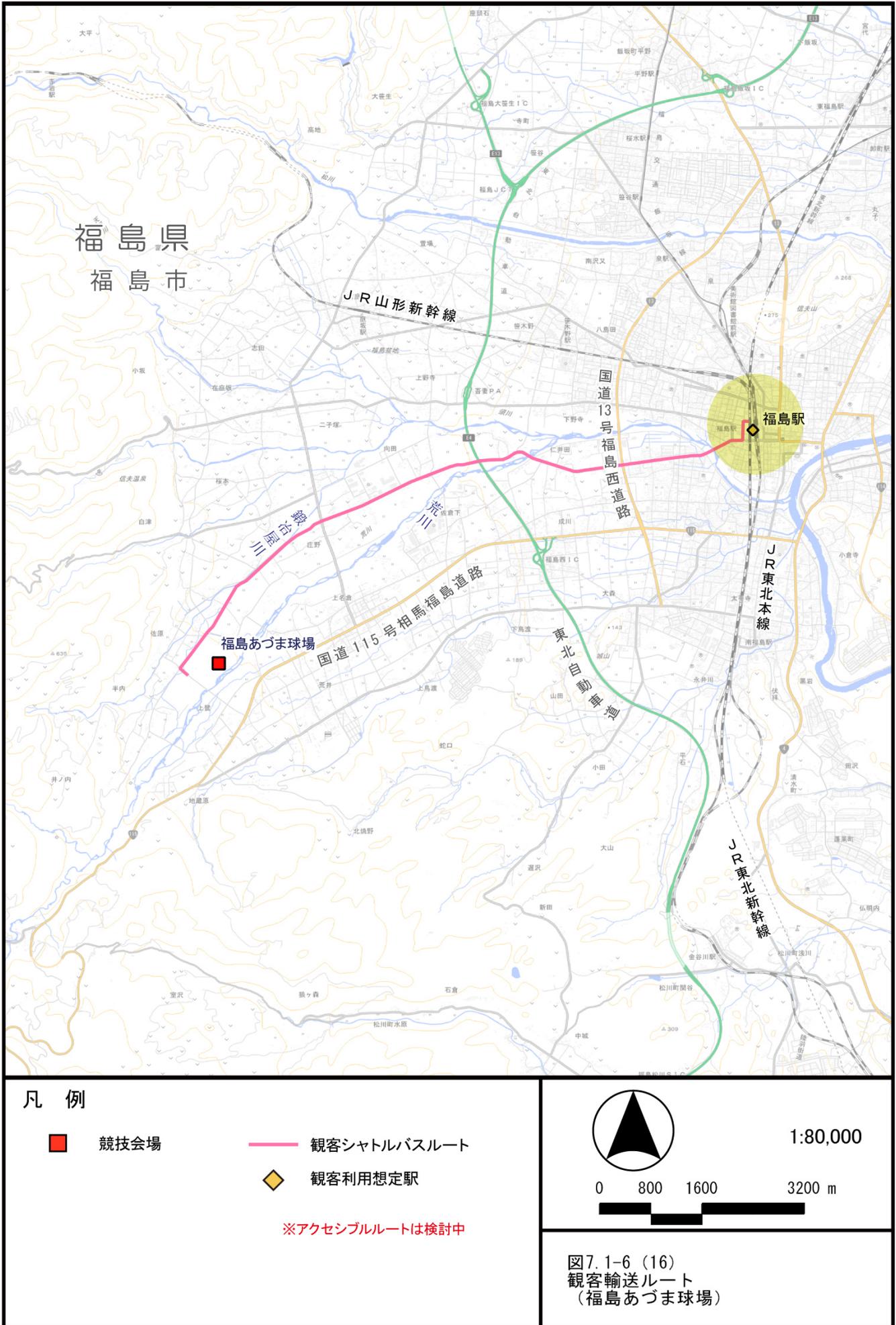
※アクセシブルルートは検討中



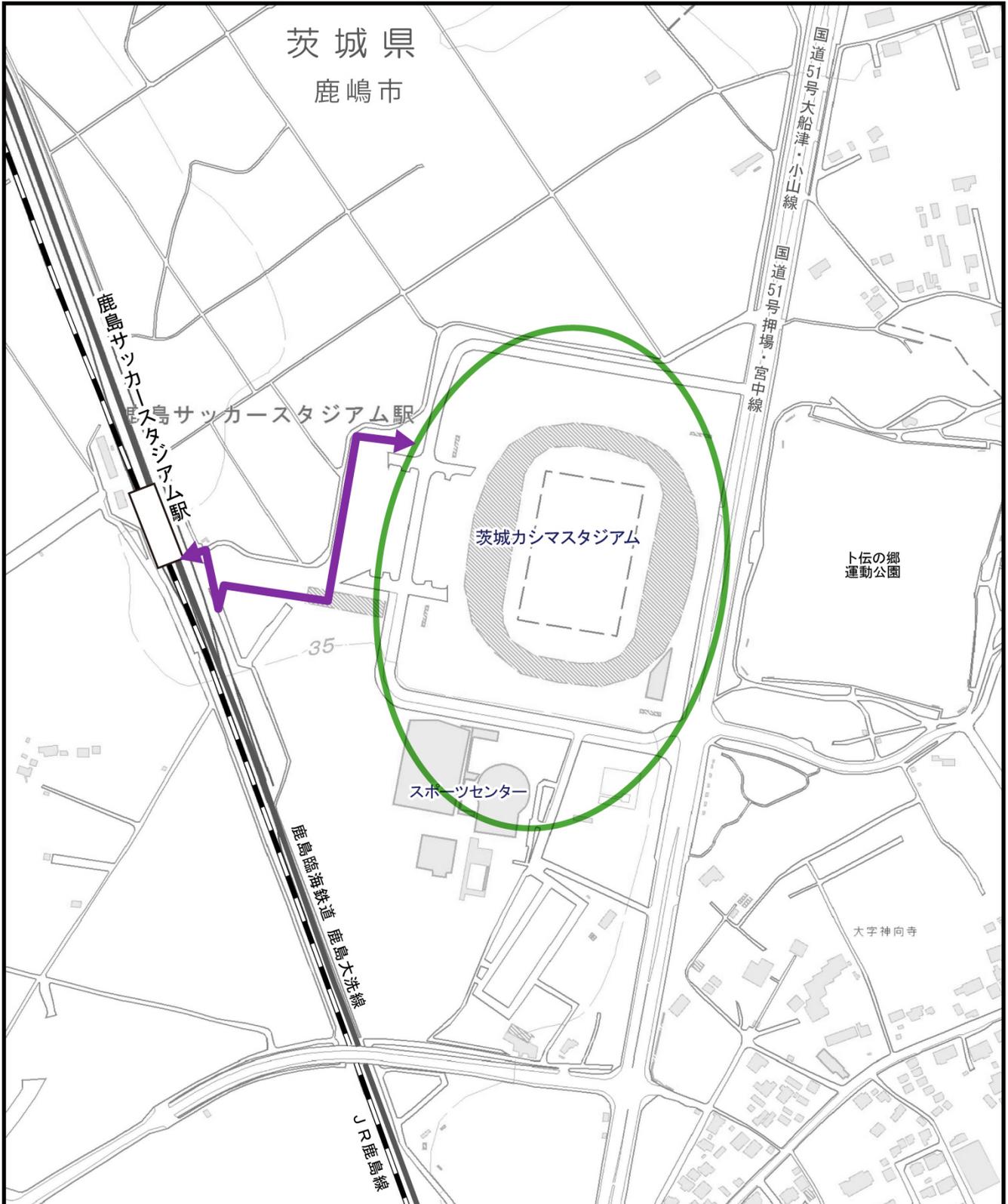
0 1 2 4 km

図7.1-6 (15)  
観客輸送ルート  
(宮城スタジアム)

出典：「第4回 宮城県輸送連絡調整会議資料」（令和元年8月 組織委員会）

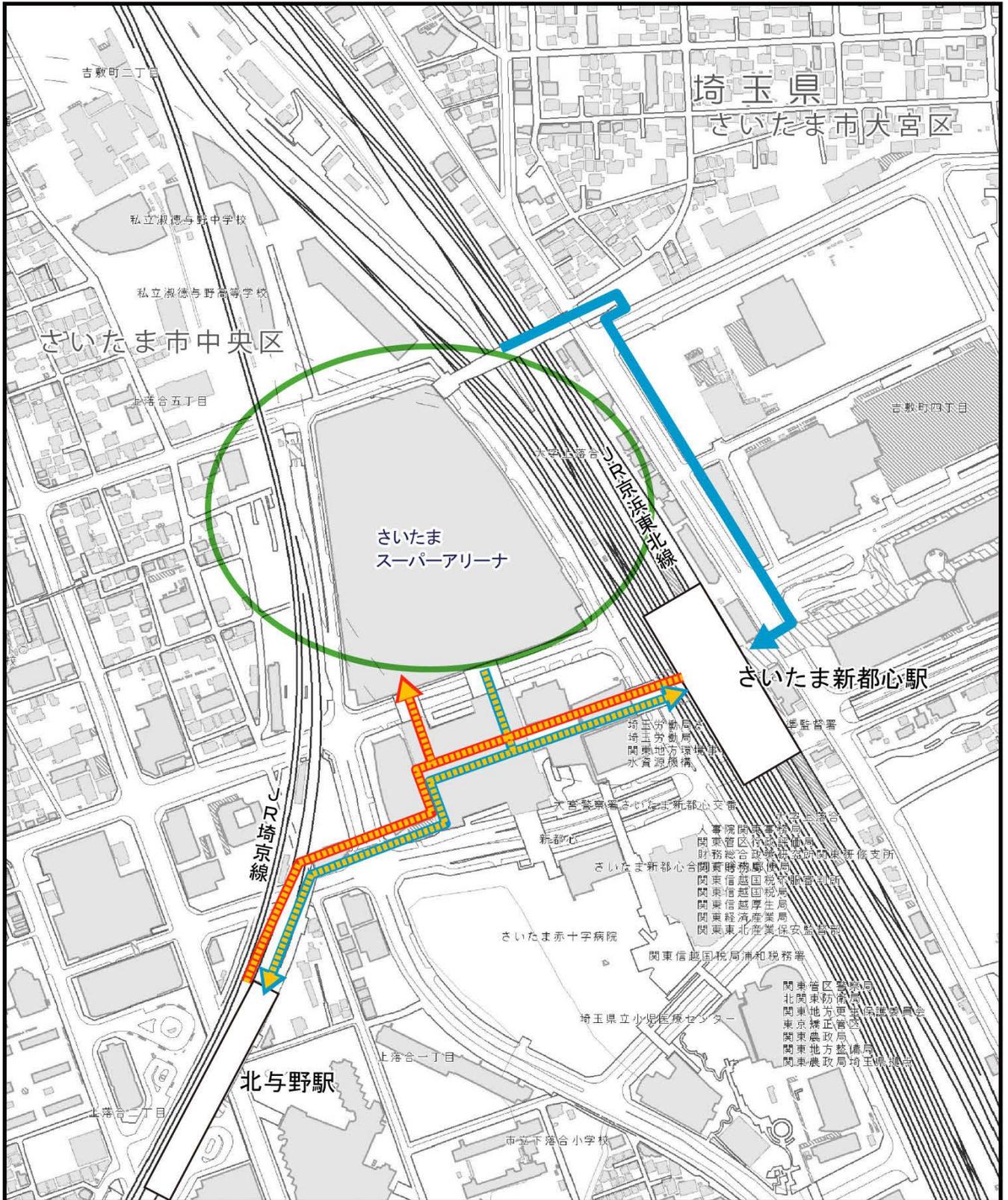


出典：「第4回 福島県輸送連絡調整会議資料」（令和元年8月 組織委員会）



<p><b>凡 例</b></p> <p> 計画地<sup>注)</sup></p> <p> 観客ルート</p> <p> 歩行者ルート(入退場)</p> <p> JR</p> <p> 鹿嶋臨海鉄道</p> <p style="color: red;">※アクセシブルルートは検討中</p>	<p> Scale 1:5,000</p> <p> 0 50 100 200m</p>
<p>注)計画地の詳細範囲は検討中</p> <p>図7.1-6(17) 観客輸送ルート (茨城カシマスタジアム)</p>	

出典：「第3回 茨城県輸送連絡調整会議資料」（平成30年11月 組織委員会）



凡例

  計画地<sup>注)</sup>

----- 区市界

観客ルート

← 歩行者ルート(入場)

← 歩行者ルート(退場)

⋯ アクセシブルルート



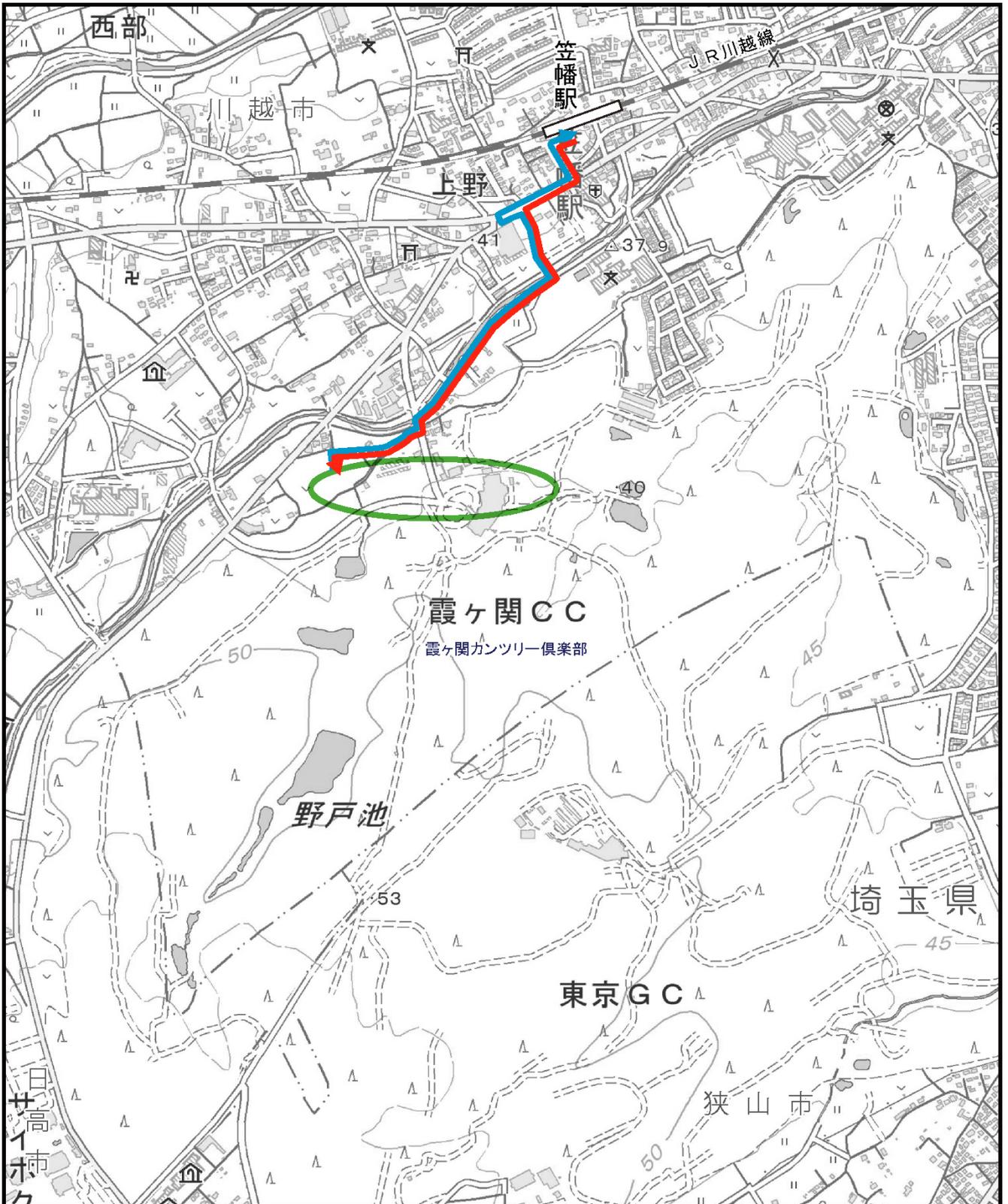
Scale 1:5,000



図 7.1-6(18)

観客輸送ルート  
(さいたまスーパーアリーナ)

注)計画地の詳細範囲は検討中



凡例

計画地<sup>注)</sup>

市町界

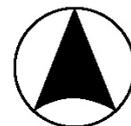
JR

観客ルート

歩行者ルート(入場)

歩行者ルート(退場)

※アクセシブルルートは検討中

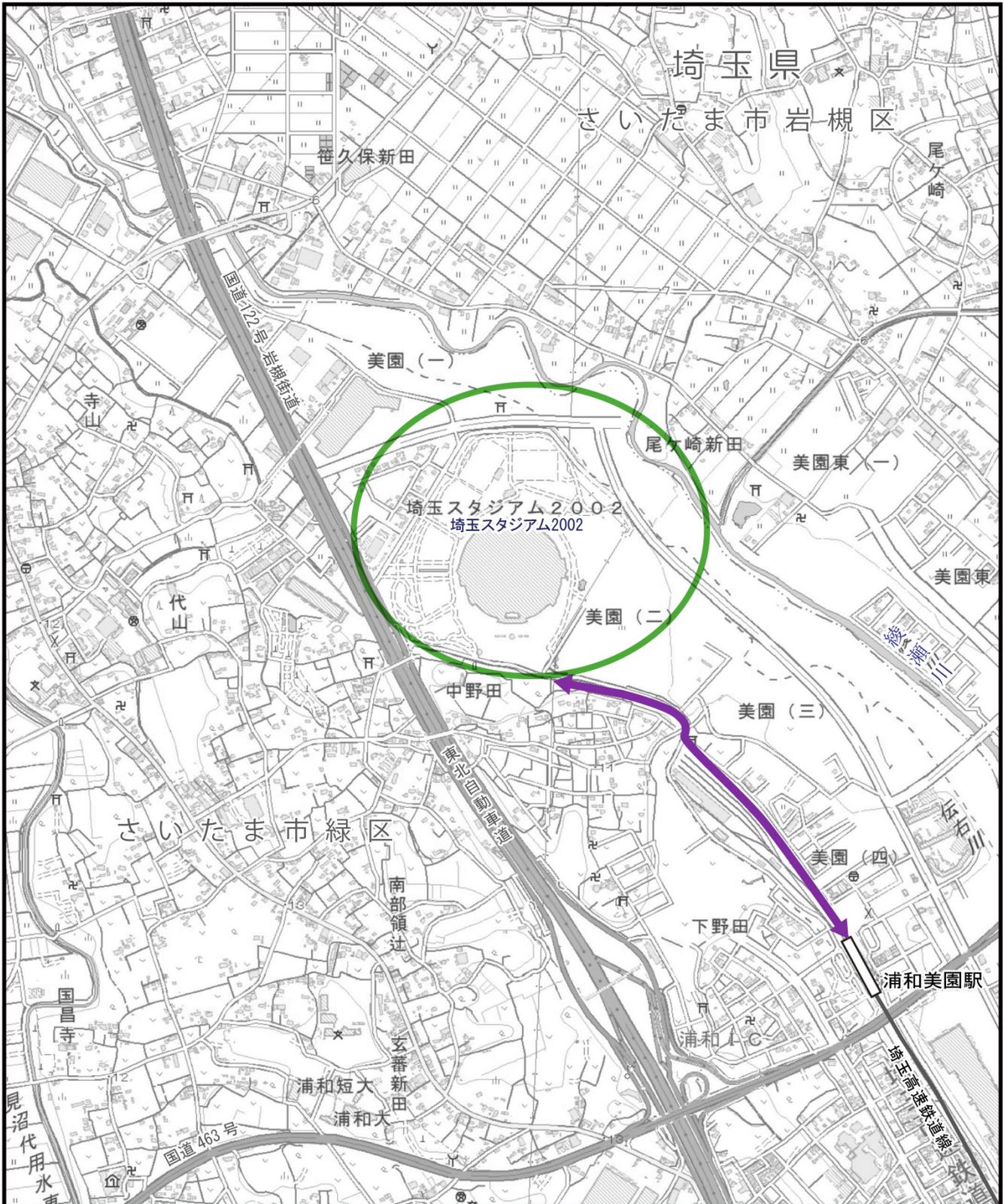


Scale 1:10,000

0 100 200 400m

図7.1-6(19)  
観客輸送ルート  
(霞ヶ関カントリー倶楽部)

注)計画地の詳細範囲は検討中



凡例

- 計画地<sup>注)</sup>
- 区市界
- ← 観客ルート
- ← 歩行者ルート(入退場)
- ※アクセシブルルートは検討中
- 埼玉高速鉄道線

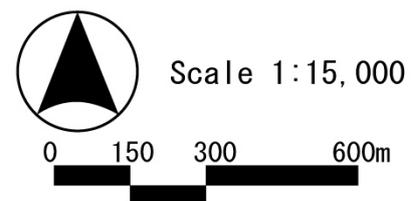
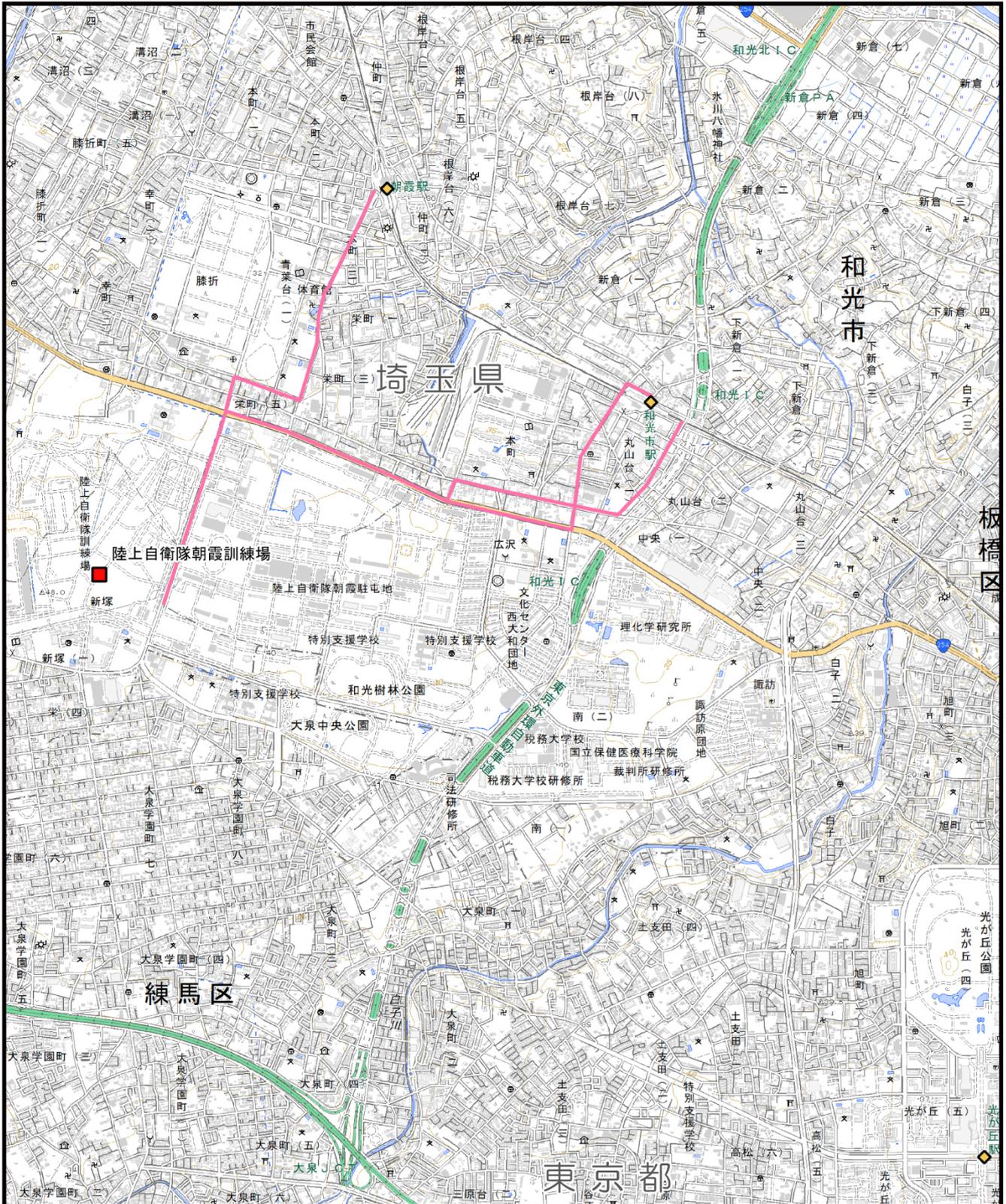


図7.1-6(20)  
観客輸送ルート  
(埼玉スタジアム2002)

注)計画地の詳細範囲は検討中



凡例

- 競技会場
- 観客シャトルバスルート
- ◆ 観客利用想定駅

※アクセシブルルートは検討中

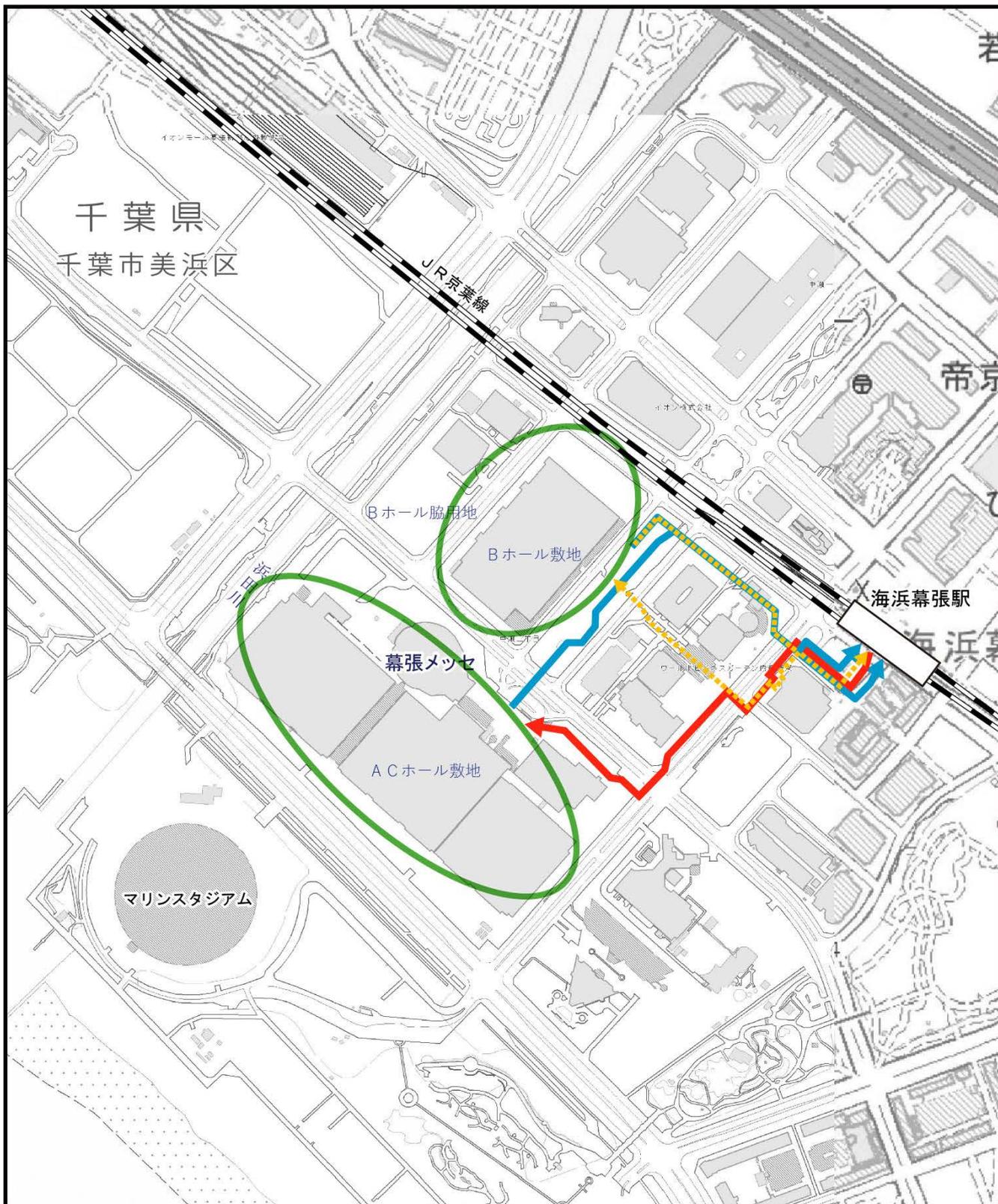


0 250 500 1000 m



図 7.1-6(21)  
観客輸送ルート  
(陸上自衛隊朝霞訓練場)

出典：「第6回 輸送連絡調整会議資料」(平成30年11月 組織委員会)



凡例

計画地<sup>注</sup>

区市界

都県界

JR

観客ルート

歩行者ルート(入場)

歩行者ルート(退場)

アクセシブルルート

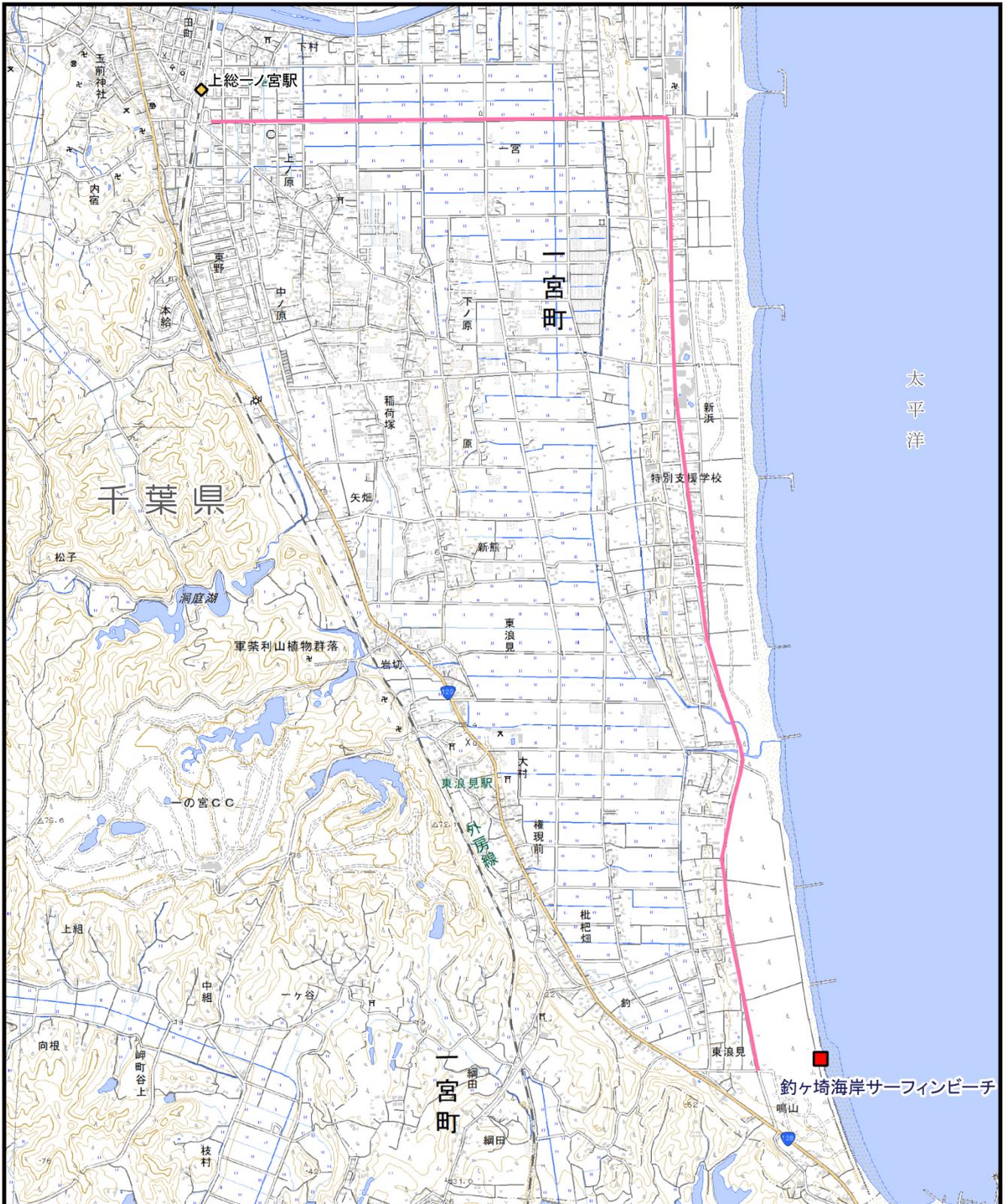


Scale 1:8,000



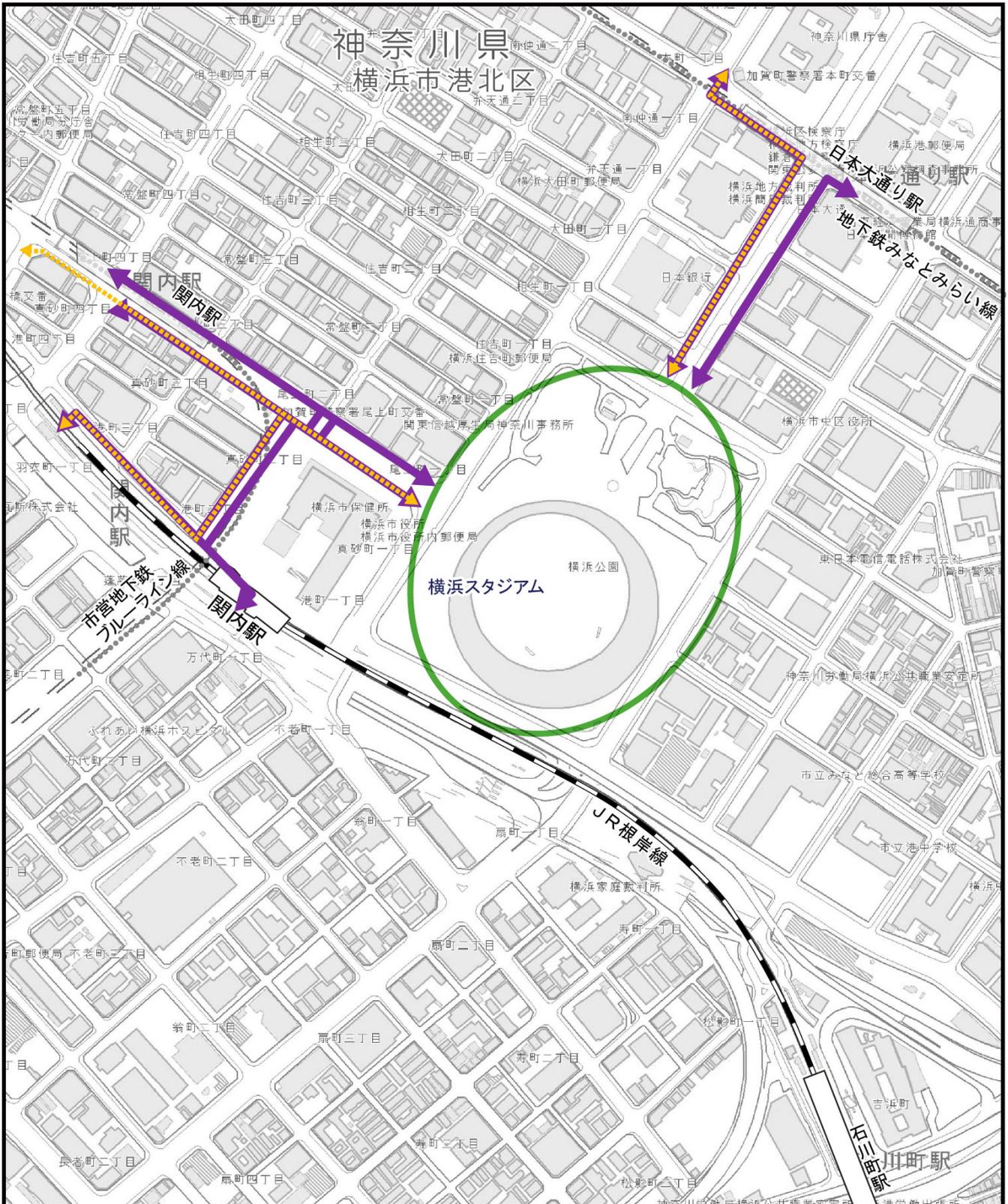
図 7.1-6(22)  
観客輸送ルート  
(幕張メッセ)

注)計画地の詳細範囲は検討中



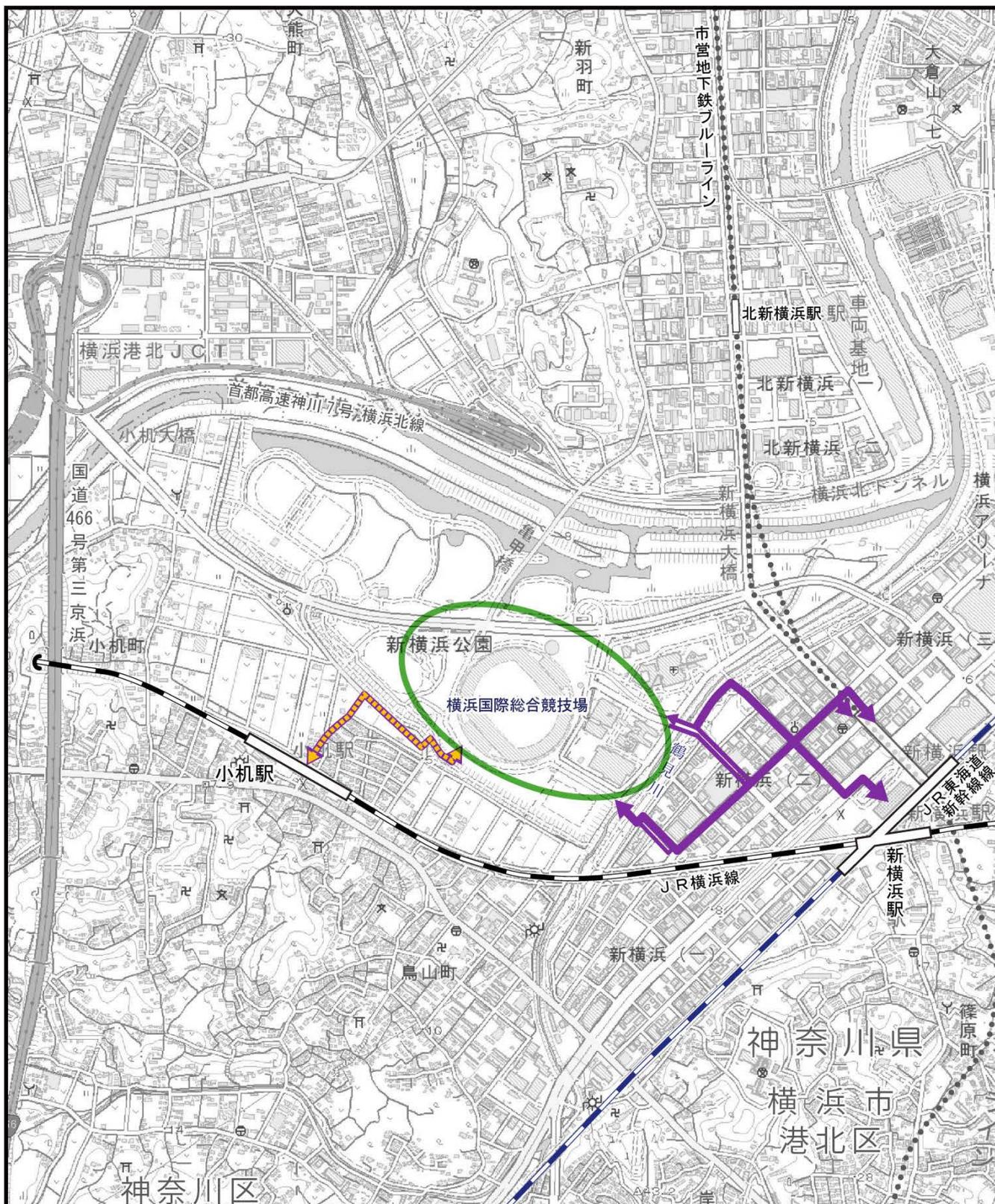
<p>凡 例</p> <p><span style="color: red;">■</span> 競技会場</p> <p><span style="color: pink;">—</span> 観客シャトルバスルート</p> <p><span style="color: gold;">◆</span> 観客利用想定駅</p> <p style="color: red;">※アクセシブルルートは検討中</p>		
<p>図 7.1-6(23) 観客輸送ルート (釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ)</p>		

出典：「第6回 輸送連絡調整会議資料」(平成 30 年 11 月 組織委員会)



<p><b>凡 例</b></p> <p><span style="border: 2px solid green; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> 計画地<sup>注)</sup></p> <p>--- 区界</p> <p>—+— JR</p> <p>..... 地下鉄</p>		<p><b>観客ルート</b></p> <p>← 歩行者ルート(入退場)</p> <p>←..... アクセシブルルート</p>		<p>Scale 1:5,000</p> <p>0 50 100 200m</p>
<p>注)計画地の詳細範囲は検討中</p>		<p>図 7.1-6(24) 観客輸送ルート (横浜スタジアム)</p>		

出典：「第6回 輸送連絡調整会議資料」（平成30年11月 組織委員会）



凡例

計画地<sup>注)</sup>

JR  
 新幹線  
 市営地下鉄

観客ルート

歩行者ルート(入退場)  
 アクセシブルルート



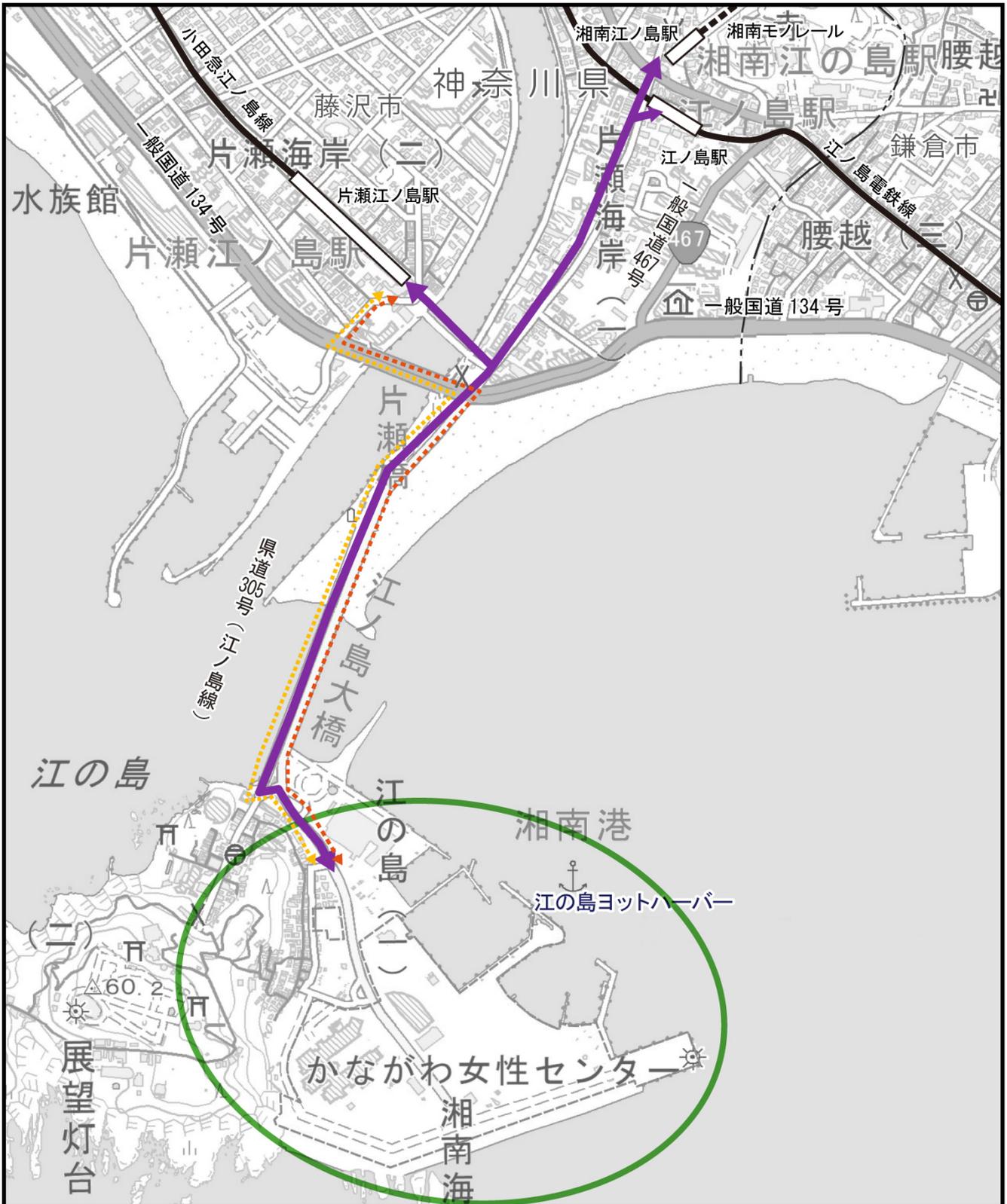
Scale 1:15,000

0 150 300 600m

図 7.1-6(25)

観客輸送ルート  
 (横浜国際総合競技場)

注)計画地の詳細範囲は検討中



凡 例

- 計画地<sup>(注)</sup>
- 区市界
- 私鉄
- ..... モノレール

- 観客ルート
- ← 歩行者ルート(入退場)
- - - - - アクセシブルルート(徒歩)
- - - - - アクセシブルルート(車両)

※アクセシブルルートについては、  
徒歩と車両による輸送を検討中

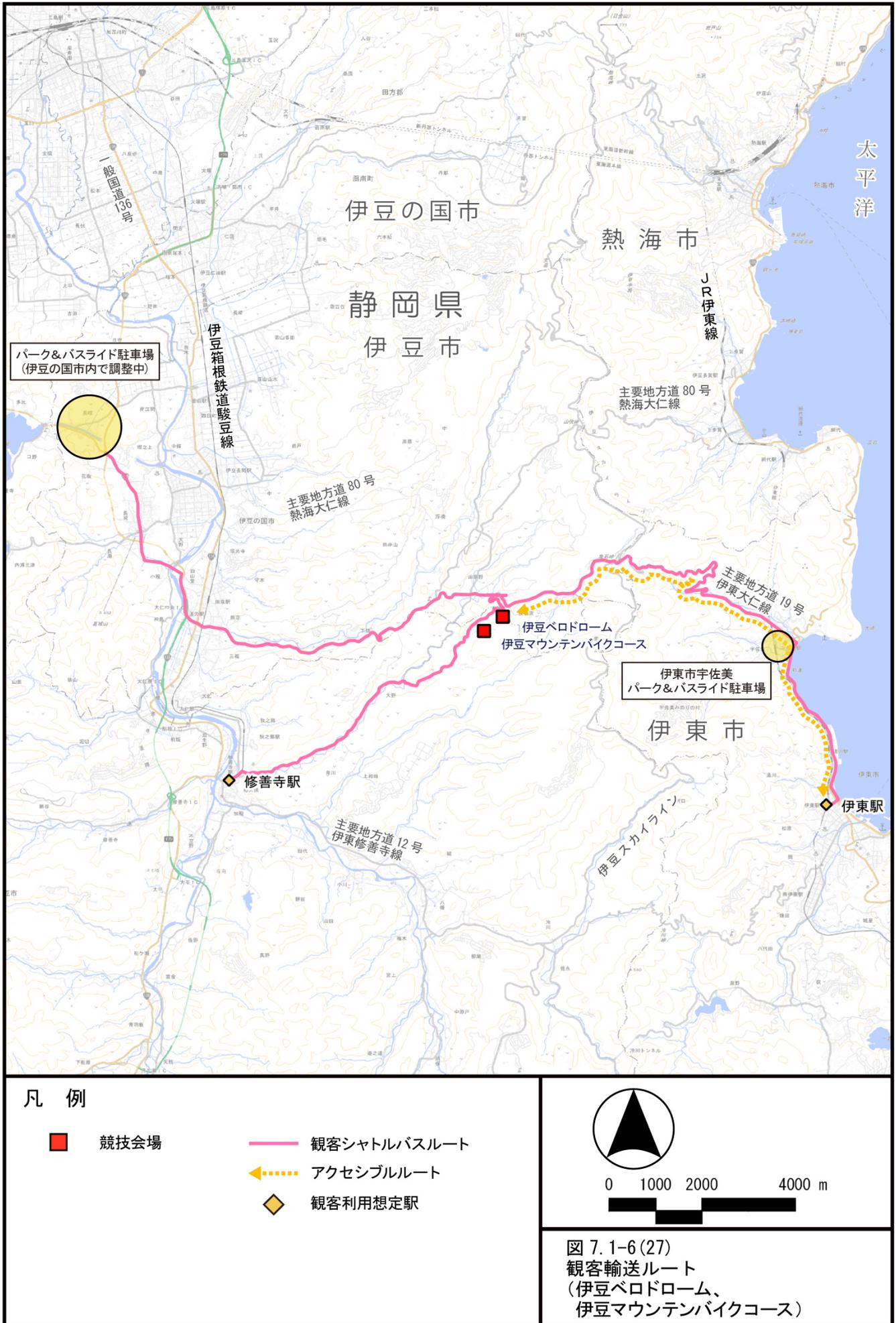


Scale 1:8,000

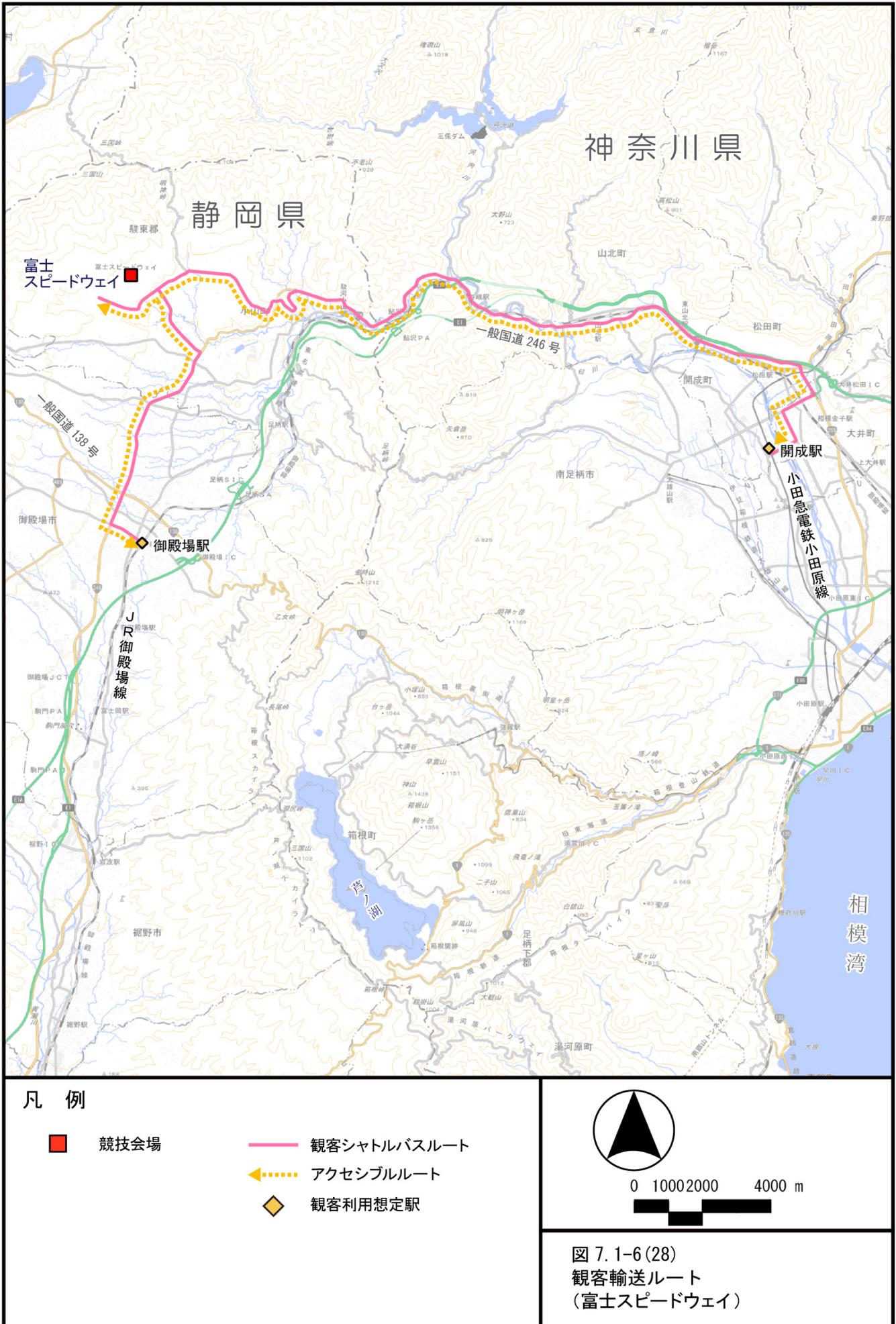


図7.1-6 (26)  
観客輸送ルート  
(江の島ヨットハーバー)

注)計画地の詳細範囲は検討中



出典：「第4回 静岡県輸送連絡調整会議資料」（令和元年7月 組織委員会）



出典：「第 4 回 静岡県輸送連絡調整会議資料」（令和元年 7 月 組織委員会）



## (4) 持続可能性に配慮した運営

東京 2020 大会では、SDGs を含む世界的な議論の潮流を踏まえ、持続可能性の主要テーマとして、「気候変動」、「資源管理」、「大気・水・緑・生物多様性等」、「人権・労働、公正な事業慣行等への配慮」、「参加・協働、情報発信（エンゲージメント）」の 5 つを掲げている。

大会開催中は、これらの 5 つの主要テーマごとに持続可能性に配慮した運営を行う。

## 1) 気候変動

東京2020大会において、脱炭素化に向け徹底して取り組み、世界の人々と共有することは、パリ協定及びSDGsの目指す姿を実現する上で、重要な転換点となる。

東京2020大会では、「Towards Zero Carbon（脱炭素社会の実現に向けて）」を大目標とし、表7.1-6に示す大会開催中の運営に係る個別目標を設定している。

表 7.1-6 大会開催中の運営に係る目標（気候変動）

目 標	概 要
環境性能の高い物品の最大限の調達	・物品調達においては、調達コードを踏まえ、環境に関する法令や各種方針・ガイドライン等を満たす CO <sub>2</sub> 排出の少ないものを選択する。
会場運営におけるエネルギー管理の実施	・BEMS から得られるエネルギー消費データを活用して効率的なエネルギー管理を行う。BEMS が導入されない施設にあっては、スマートメーターの導入などエネルギー消費量を把握できる取組を呼びかけるなどしてその状況の把握に努め、大会運営における適切なエネルギー管理を推進する。 ・ワークフォースエリア等においては、照明の間引き点灯などでの照明管理や、クールビズの励行などでの空調管理、効率的な給湯の提供など、使用エネルギーの抑制に努める。
物品の最大限の循環型利用による CO <sub>2</sub> 排出抑制	・大会で使用される物品や資機材については、レンタル・リースを基本とする。
環境負荷の少ない輸送の推進	・世界で最も発達した効率の良い公共交通機関を最大限活用しつつ、大会関係車両の低公害・低燃費化を図る。また、啓発活動の徹底によるエコドライブの推進など様々な取組を複合的に取り入れることにより、環境負荷の低減に取り組む。
再生可能エネルギーの最大限の利用	・大会運営で使用する電力については、再エネ電力の直接的活用やグリーン電力証書の購入等により、再生可能エネルギーの最大限の活用を図る。
オフセット等の実施	・相殺の手法としては、電気的环境価値を証書化したグリーン電力証書や他の CO <sub>2</sub> 削減効果を充てる手法等による対策を講じても発生することが避けられない CO <sub>2</sub> 等に対するオフセットの実施。

出典：「持続可能性に配慮した運営計画 第二版」（平成 30 年 6 月 組織委員会）をもとに作成

## 2) 資源管理

SDGsでは、「持続可能な消費及び生産の形態を確保する」ことをゴール12に掲げている。多くの資材・物品等が調達・使用される東京2020大会において、ゴール12を実現する上で、大きな契機となるよう以下のことに取り組んでいく。

- ・大会の準備・運営のあらゆる側面において資源をムダにせず（資源効率の最大化）、
- ・調達から廃棄までのライフサイクルの視点で、資源を循環的に利用し（資源循環の確保）、
- ・これらの取組を実践し、アスリートや観客だけでなく世界の人々と共有する（資源循環に向けた協働の推進）

東京2020大会では、「Zero Wasting（資源を一切ムダにしない）」を大目標とし、表7.1-7に示す大会開催中の運営に係る個別目標を設定している。

表 7.1-7 大会開催中の運営に係る目標（資源管理）

目 標	概 要
食品ロス削減（食品廃棄物の発生抑制）	・スポンサーやケータリング事業者との連携・協働により、一般に対する啓発効果が高く、家庭、事業者、大規模イベント等においても容易に実行可能なモデル的な取組等により、可能な限り競技会場や選手村等における食品ロス・食品廃棄物の削減を図る。
容器包装等削減	・スポンサー・ライセンサー・サプライヤー・場内売場などと連携し、梱包材や包装材、使い捨て容器、レジ袋などの使用を最小化する。 ・会場装飾や備品の調達に際しては、オリンピックからパラリンピックへの移行の際に変更が生じないような仕様にするとともに、やむを得ず変更を要する場合には、その移行の際に生じる廃棄物が最小となるような設計・調達に努める。
調達物品の再使用（レンタル・リースの活用、使用後の再使用）・再生利用	・組織委員会が行う物品・サービス等の調達に当たっては、可能な限りレンタルやリースを活用し、シェアリングを推進する。また、購入した物品は、再販等の実施や国、自治体、スポンサー等との連携など戦略的に後利用先を確保するなどして再使用・再生利用を追求する。
再生材の利用	・大会関係者のユニフォームへのリサイクル素材の活用。 ・ペットボトルにおけるボトル to ボトルの技術の活用。
入賞メダルへの再生金属利用	・東京 2020 大会時の入賞メダル製作においては、入賞メダルの原材料となる金・銀・銅を、携帯電話をはじめとした小型家電等から抽出されるリサイクル金属を活用することによって調達する。
運営時廃棄物等の再使用・再生利用	・会場や選手村で発生する運営時廃棄物（ペットボトル・プラスチック類・紙類・食品類等）について、再使用・再生利用に取り組む。また、大会に参加する観客等に廃棄物の分別への協力を呼びかけることで、より多くのステークホルダーの参加を促すと共に、再使用・再生利用の最大化を図る。 ・食器の選択に当たっては、実現すべき飲食提供の形態と食器材質ごとの特徴、食器の種類ごとに必要となる施設条件を踏まえる等、諸課題を考慮し、リユース食器の利用に可能な限り取り組む。リユース食器が利用できない場合には、再生利用を行う。
食品廃棄物の再生利用	・食品ロスの発生を抑制することが重要であるが、発生してしまった食品廃棄物については、再生利用を目指す。 ・再資源化の前提となる、食品廃棄物の分別を徹底することのできる運営にも同時に取り組む。なお、選手村ダイニングなど組織委員会が直接、食の提供を行う場所（コントロールの効く場所）から排出される食品廃棄物は全量の再生利用を目指す。

出典：「持続可能性に配慮した運営計画 第二版」（平成 30 年 6 月 組織委員会）をもとに作成

### 3) 大気・水・緑・生物多様性等

東京における緑や水辺環境についても、行政機関だけでなく、民間企業や地域の団体、個人など様々な主体の参加により維持され、また新たに生み出されてきた。東京2020大会においても、多様な主体の参加や協力を得ながら、自然と共生する快適な都市環境の実現に向けた取組を進めていく。

また、SDGsでは、「全ての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」こと、「陸上生態系の保護、回復及び持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止及び逆転、並びに生物多様性損失の阻止を図る」ことが掲げられているほか、レジリエント<sup>9</sup>なインフラ整備や持続可能な消費と生活のパターンの確保等、大会の「大気・水・緑・生物多様性等」とは多岐にわたって関連を有している。

東京2020大会では、「City within Nature/Nature within the City（自然共生都市の実現）」を大目標とし、表7.1-8に示す大会開催中の運営に係る個別目標を設定している。

<sup>9</sup> レジリエントな都市とは、将来のショック（経済的、環境的、社会的、制度的）を吸収し、回復し、備える能力を持つ都市であり、持続可能な発展、幸福及び包括的成長を促進するとされている。

表 7.1-8 大会開催中の運営に係る目標（大気・水・緑・生物多様性等）

目 標	概 要
大会開催における環境負荷の最小化を図ることに加え、都市における水循環の機能を高めるとともに、都市が有する環境の快適性を向上させる。	<p>(暑さ対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織委員会において、事前の情報提供、当日の注意喚起及び外国人への注意喚起方法を顧慮する。東京都や国などの情報発信も含め、情報一元化の仕組み等について検討する。</li> <li>・組織委員会では、日除け・水分補給等の予防措置・熱中症患者発生時のオペレーションを検討する。また、関係省庁及び東京都と連携して、大会開催時に競技会場及び行列のできるエリア等の周辺における円滑な応急体制の構築に向けた検討を行うとともに、応急手当の訓練を受けたファーストレスポnderが会場内を巡回し、観客等への積極的な声がけにより、熱中症の早期発見に努める。</li> <li>・組織委員会では、暑さの中でも食欲の維持が可能なメニュー上の工夫を行う。</li> <li>・東京都は、外国人患者への医療提供体制を整備するため、医療現場の対応支援研修、受入体制整備や第三者認証取得の補助、救急通訳サービス対応時間の拡大等を行う。</li> </ul> <p>(大会における化学物質・大気・土壌等への配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会輸送については、公共交通機関を最大限活用しながら、大会関係車両には、可能な限り、燃料電池自動車等の低公害・低燃費車両を活用する。さらに、急発進・急ブレーキの抑制などエコドライブの周知徹底を行い、環境負荷の低減及びCO<sub>2</sub>の排出削減を図る。</li> </ul>
大会の調達における環境汚染の防止や生物多様性等への配慮により、製造・流通等における環境負荷の最小化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調達する物品・サービス等については、各種環境法令を踏まえるとともに、調達コードにより、大気・水質・土壌等の汚染を防止し、化学物質を適切に管理した資材、物品等を可能な限り使用する。また、森林・海洋などからの資源を使用する場合には、資源の保全に配慮して採取・栽培された原材料を使用する。</li> <li>・大会の運営に関わる木材・木材製品や紙、農産物、水産物等の調達においては、調達コードにより、サプライチェーン全体における生物多様性への影響に配慮した調達を推進する。</li> <li>・地域における森林や、農村、漁村等の多面的機能の発揮への貢献を考慮し、都内産をはじめとした国内産の農林水産物を積極的に活用する。</li> </ul>

出典：「持続可能性に配慮した運営計画 第二版」（平成30年6月 組織委員会）をもとに作成

#### 4) 人権・労働、公正な事業慣行等への配慮

東京2020大会では、オリンピック憲章の理念の下に、大会に関わる全ての人々の人権を尊重するため、大会の準備・運営のあらゆる分野においてダイバーシティ&インクルージョンを可能な限り最大限確保する。

東京2020大会では、「Celebrating Diversity ～Inspiring Inclusive Games for Everyone～（多様性の祝祭 ～誰もが主役の開かれた大会～）」を大目標とし、具体的な施策を進めていく。

#### 5) 参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

持続可能性に配慮した大会の実現には、大会関係者の取組だけでなく、広く社会や、ボランティア、観客などの市民の参加・協力が不可欠であることから、国境や世代を超えた様々な主体との交流や研修等を通じて参加・協働による対策を推進する必要がある。

また、東京2020大会を通じて集積される持続可能性に関わる様々な取組事例、知見、経験、技術等の情報を社会の多様なステークホルダーに対し多様な手段で積極的に発信していくことは、スポーツ、オリンピック・ムーブメント、パラリンピック・ムーブメント及びメガスポーツイベントが持続可能な開発に貢献することができる役割についての人々の理解を高め、持続可能な社会の構築に向けた人々の行動を促進することができる。

SDGsにおいても、「パートナーシップ」が掲げられているように、社会全体で多様な主体が参画していくようなダイバーシティ&インクルージョンとエンゲージメントが確保された社会の構築が求められている。

東京2020大会では、「United in Partnership & Equality ～Inspiring Inclusive Games for Everyone～（パートナーシップによる大会づくり ～誰もが主役の開かれた大会～）」を大目標とし、具体的な施策を進めていく。

## 7.2 競技の内容

## 7.2.1 競技の概要

東京 2020 大会では、オリンピック 33 競技 339 種目、パラリンピック 22 競技 540 種目の開催が予定されている。

オリンピック競技の概要は、表 7.2-1(1)～(4)に、パラリンピック競技の概要は、表 7.2-2(1)～(3)に示すとおりである。

表 7.2-1(1) オリンピック競技の概要

競技	種別	種目の詳細
水泳	競泳	競争する選手が同一スタートラインから決められた距離を泳いでその速さを競う競技である。 自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ、個人メドレー、フリーメドレー、メドレーリレーの種目があり、これらの種目はさらに決められた距離を泳いでタイムを競う。
	飛込	高飛込みは 10m の固定された台から行う。 飛板飛込みは 3m の高さに設けた弾力のある飛板を利用して行う。宙返りやひねりなどの空中フォームや入水の美しさを競う採点競技である。 シンクロナイズドダイビングは、2 人一組で飛び込む種目である。
	水球	プールに設けられた水深 2m 以上のプールで縦 30m×幅 20m のコートで行う。 ゴールキーパー 1 人を含む 7 人の 2 チームで戦う。 試合時間は 1 ピリオド正味 8 分を 4 ピリオド行う。4 ピリオドで勝敗がつかない場合はペナルティ・シュート戦で決定する。
	アーティスティックスイミング	チームは 8 人、デュエットは 2 人で演技を行う。 決められたエレメンツ（規定要素）を入れて行うテクニカルルーティン（TR）と要素を自由に構成するフリールーティン（FR）がある。 演技時間は、TR はデュエットが 2 分 20 秒、チームが 2 分 50 秒。FR はデュエットが 3 分、チームが 4 分となっている。 TR と FR の総合得点で順位を決める。
	マラソンスイミング	自然の水の中で行われる長距離の水泳競技である。流れがゆるやかな水域にブイによって設定された 10km のコースでその速さを競う。
アーチェリー		シューティングラインから標的（ターゲット・フェイス）に向かって、弓を使って矢を放ち、的に刺さった矢の点数を競う。個人戦と団体戦（3 人/チーム）がある。
陸上競技	トラック&フィールド /マラソン	「走る」「歩く」「跳ぶ」「投げる」などの 48 種目で記録を競う。 棒高跳び以外は基本的には道具を使わず、体力と体力を發揮するための技術でその記録を競う。身体のみで人類の限界に挑む普遍的な競技である。
	競歩	
バドミントン		ネットを挟んでシャトル（羽根）をラケットで打ち合う。 シングルス（1 対 1）とダブルス（2 対 2）がある。
野球/ ソフトボール	野球	野球は、2 つのチームが攻撃と守備を交代しながら勝敗を競う競技で、攻守交代を 9 回繰り返した段階でより多く得点したチームが勝者となる。試合に出場する選手は各チーム選手 9 人（指名打者制を採る場合は 10 人）で、その他監督、コーチ、控え選手でチームは編成されている。控え選手は交代して出場できるが、一度退いた選手は再び出場することはできない。攻撃側チームは打者が守備側の投手が投げたボールを打つことで走者となる。走者が一、二、三塁を経て本塁に到達することで得点となるが、打者が 100 メートル以上先の指定の「ホームラン」地域に打球を運べば本塁まで 1 周できる権利を得られる。守備側は走者が本塁に到達しないように打者や走者をアウトにし、3 人アウトにすると攻守を交代する。
	ソフトボール	ソフトボールは、9 人対 9 人で戦うボールゲームで、ゲームの進め方は殆ど野球と同じである。攻撃側と守備側に分かれ、審判のプレーボールの宣告によってゲームが始まる。攻撃（表）が 3 アウトで守備（裏）と交代する。裏側の攻撃が終了し 1 回が終了となる。1 回から 7 回で試合終了（ゲームセット）、7 回終了時点で同点の場合、8 回以降はタイブレーカーと呼ばれる、二塁に走者を置きゲームを行う、得点促進ルールが採用される。野球と大きく違うところは投手とフィールドの広さである。投手は下手投げで投げなければならない。また、フィールドは投手・捕手間が 13.11m（野球：18.44m）、各塁間は 18.29m（同：27.431m）、ホームランフェンスまでは 67.06m 以上の半円（同：76.199m 以上）で非常にコンパクトな規格となっている。

種目の詳細の出典：「大会情報 競技」（2019 年 8 月 1 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）  
<https://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikaijyunbi/taikai/syumoku/index.html> をもとに作成

表 7.2-1(2) オリンピック競技の概要

競技	種別	種目の詳細
バスケットボール	3x3 バスケットボール	「3x3 バスケットボール」は 3 人対 3 人、「バスケットボール」は 5 人対 5 人の 2 チームで対戦し、一つのボールを手で扱い、長方形のコート上の両端に設置された高さ 305cm、内径 45～45.9cm リング状のバスケットにボールを上方から通すこと（ゴール）で得点を競う球技である。 ボールを保持しているチームがオフェンス（攻撃）チームとなり、ドリブルやパスでボールを運びながら、一定時間内にショット（シュート）を狙う。もう一方のチームはディフェンス（守備）を行い、相手チームからボールを奪うことに専念する。
	バスケットボール	
ボクシング		1 対 1 でリング（6.1m×6.1m）の上で対戦する。 男子は 3 分×3 ラウンド、女子は 3 分×3 ラウンドの勝ち抜きトーナメント方式である。拳にグローブを着用しパンチのみを使い、相手の上半身前面と側面のみを攻撃する。
カヌー	スラローム	流れの上流または下流から吊るされたゲートを通る技術とスタート地点からゴールまでにかかった所要時間の両方を競う競技である。
	スプリント	決められた距離のレーン（水路）で、複数の艇が一斉にスタートして最短時間で漕ぎ、着順を競う競技である。
自転車競技	BMX フリースタイル	自転車に乗って、スピードや操作技術を競う競技である。
	BMX レーシング	自転車競技は大別すると、トラック、ロード、マウンテンバイク、BMX に分けられる。 さらに、トラックはスプリント、ケイリンなどの種目、ロードはロードレースと個人タイムトライアルの種目がある。
	マウンテンバイク	
	ロード	
	トラック	
馬術	障害馬術	競技アリーナに設置された様々な色や形の障害物を、決められた順番通りに飛越、走行する競技で、ミスなく規定の時間内にゴールすることが求められる。障害物の落下や、不従順（障害物の前で止まる、障害物を避ける等）、規定タイムの超過があった場合に減点となる。
	馬場馬術	20m×60m のアリーナ内で、演技の正確さや美しさを競う。「常歩（なみあし）」、「速歩（はやあし）」、「駢歩（かけあし）」の 3 種類の歩き方を基本に、様々なステップや図形を描いたりする。演技内容が全て決められている規定演技と、決められた運動で構成して音楽をつけて演技する自由演技がある。 運動項目ごとに 0～10 点がつけられ、また、演技全体の印象について採点する総合観察点を合計する。自由演技においては、芸術的評価（音楽の選曲や運動との調和や図形のユニークさなど）が加わる。
	総合馬術	馬場馬術競技・クロスカントリー競技・障害馬術競技の 3 競技を同一人馬のコンビネーションで 3 日間かけて行う競技である。
フェンシング		2 人が向かい合い、片手に持つ剣で互いの体を突き合う競技で、剣が体に触れたポイントを競う競技である。競技はフルーレ、エペ、サーブルの 3 種目であり、使用する剣の形状や、得点となる有効面、優先権の有無などが種目ごとに異なっている。
サッカー		1 チーム 11 人の 2 チームで対戦する。 ボールに手を触れることなく、足で蹴るなどして、相手チームのゴールへ入れることで得点を競う。ゴールには、ゴールキーパーを置き、この者だけがペナルティエリア内で手を使うことができる。 試合時間は 90 分（前半 45 分、後半 45 分）である。
ゴルフ		18 ホールをいかに少ない打数（ストローク）で終了するかを競う競技であり、一般的な規定打数は 72 ストロークである。 風などの自然やコースとの戦い、自己との戦いと非常にメンタルなスポーツと言える。4 日間で 72 ホールのストロークプレーで行い、4 日間で 1 位タイが 2 名以上いた場合は 3 ホール（予定）のプレーオフ（延長戦）でメダルを争う。
体操	体操競技	「体操競技」は、ゆか、鉄棒など決められた器械上の演技について技の難易度・美しさ・安定性などを基準に採点し、その得点を競う競技である。
	新体操	リボンやボールなどの手具を使いながら音楽に合わせて演技をし、芸術性を競う競技である。
	トランポリン	技の出来栄を見る演技点、回転と捻りの数で算出する難度点、空中に浮いている時間を計測する跳躍時間点、ベッド上の平行移動を見る移動点を競う採点競技である。

種目の詳細の出典：「大会情報 競技」（2019 年 8 月 1 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）  
<https://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikai/jyunbi/taikai/syumoku/index.html>、「オリンピック競技一覧」（2019 年 8 月 1 日参照 組織委員会ホームページ）  
<https://tokyo2020.org/jp/games/sport/olympic/>をもとに作成

表 7.2-1(3) オリンピック競技の概要

競技	種別	種目の詳細
ハンドボール		1 チーム 7 人の 2 チームが相手のゴールにボールを投げ入れて得点を争う競技である。ボールが相手ゴールに入ると 1 点が加算される。試合終了時点で得点数が多いチームが勝ちとなる。 各チーム 1 人はゴールキーパーとして自陣のゴールを守り、残り 6 人はコートプレーヤーとしてパスとドリブルでボールをつなぎ、相手ゴールを目指す。
ホッケー		ゴールキーパー 1 人と 10 人のフィールドプレイヤーの 1 チーム 11 人の 2 チームで得点を競う。 試合終了時点で得点数が多いチームが勝ちとなる。 試合時間は前半 15 分 (2 分休憩) 15 分、(ハーフタイム 10 分)、後半 15 分 (2 分休憩) 15 分である。
柔道		体一つで 1 対 1 で試合をする。技の判定で勝敗が決まる。 単なる格闘技ではなく、「礼で始まり礼で終わる」という精神の鍛錬に重きを置いたスポーツである。
空手	組手	「個人組手」は、世界大会においては、体重別で女子・男子ともに 5 階級制となっている。
	形	競技において演武する形は、世界空手連盟 (WKF) が定めた形 (約 75 種類) の中から選択し、演武する。トーナメントにおいては 1 回戦から決勝戦まで全て異なる形を演武しなければならない。
近代五種		一人の選手が一日に全く異質の 5 種類の競技に挑戦する、限界に挑む競技。フェンシングランキングラウンド (エペ)、水泳 (200m 自由形)、フェンシングポナスラウンド (エペ)、馬術 (障害飛越)、レーザーラン (射撃 5 的+ランニング 800m を 4 周) の五種である。
ボート		選手それぞれが一人で片舷 1 本のオールを扱うスウィープと、それぞれが両舷 1 本、計 2 本のオールを扱うスカルの種別がある。 漕手のほかに艇の舵を操るコックス (舵手) が乗っているか、いないかによっても種別が分かれる。 出漕艇は固定されたスタートポンツーン (棧橋) に艇尾をつけ、艇首をゴールに向けスタートラインに並び、艇の先端がゴールラインに達した順に順位を決める。予選・敗者復活戦・準決勝・決勝を戦う。
ラグビー		1 チーム当たり 7 人のプレーヤーで行うラグビーで、「セブンズ (Sevens)」とも呼ばれている。7 分ハーフで 14 分間の試合を行い、大会の決勝戦は 10 分ハーフの場合もある。
セーリング		セールを流れる風の揚力を動力として、水上を滑走する速さ・技術を競う競技である。 種目によって 1~2 人で小型セールボートに乗り、レース海面に設置されたブイを、決められた順序に決められた回数を回り、フィニッシュする。着順を点数化し、総得点が低いものから順位が決まる。
射撃	ライフル	10m から 50m 先にある固定された標的の中心を狙い撃ちする。
	クレー	散弾銃を用いて、空中に放たれるクレーと呼ばれる素焼きの小さい皿を標的として、撃ち落とす。トラップ、スキート、トラップ・ミックスの 3 種目がある。
スケートボード	パーク	スケートボードは「パーク (PARK)」、「ストリート (STREET)」の 2 種に分けて競技を行う。「パーク」はお碗型のボールや、深皿型のプールなどを中心に R 斜面 (コースの中で湾曲した滑走面) を複雑に組み合わせたコンビプールと呼ばれるコースを使用する。「ストリート」は街中に存在する階段や縁石、斜面や手摺などを模したコースを使用する。両種目とも難易度、メイク率、ルーティーン、スピード、オリジナリティなどを総合的に評価する採点競技である。
	ストリート	

種目の詳細の出典：「大会情報 競技」(2019 年 8 月 1 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ) <https://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikai/jyunbi/taikai/syumoku/index.html>、「オリンピック競技一覧」(2019 年 8 月 1 日参照 組織委員会ホームページ) <https://tokyo2020.org/jp/games/sport/olympic/>をもとに作成

表 7.2-1(4) オリンピック競技の概要

競技	種別	種目の詳細
スポーツクライミング		スポーツクライミングは3つの種目（リード・ボルダリング・スピード）の複合種目として実施される。 リードはロープで安全が確保された選手が12メートルを超える高さの壁に設定されたコースを登り、制限時間内の到達高度を競う種目である。ボルダリングは高さ5メートル以下の壁に設定された複数のコースを、制限時間内にいくつ登れたかを競う種目である。各コースとも制限時間内であれば複数回トライできるため、少ない回数で登ることも重要となる。スピードは高さ15メートルの壁に設定された、予めホールドの配置が周知された同一条件のルートを駆け登るタイムを、コンマ数秒まで競い合うスプリント種目である。トップレベルの選手は15メートルの壁を男子は5秒台、女子は7秒台で駆け登る。IOCに提案されたスポーツクライミングは、通常は単種目として行われるリード・ボルダリング・スピードを全て行い、これら3種目の合計で順位がつけられるというものである。
サーフィン		サーフィンの競技は、波を乗りこなすライディングの点数によって勝敗を決める。選手が波に乗り、いかに難易度が高く創造性や革新性に優れた技を行い、さらに一本のライディングの中で、いかにバラエティー豊かな技を繰り出すかを総合して複数の審査員が採点し、一本のライディングの得点を決定する。そして、各選手が競技時間内に獲得した得点の中から、2本の高得点の合計点により勝敗を決める競技である。
卓球		卓球台を挟んで向かい合い、軽くて小さいボールを表面にゴムが貼られたラケットで打ち合う。 個人戦はシングルス(1対1)、団体戦は1チーム3名で、シングルスやダブルス(2対2)で対戦する。
テコンドー		頭からすっぽりかぶる道着を着て、ヘッドギア・胴プロテクターなどを装着して1対1で試合をする。ボディへのパンチと腰から上へのキックで得点を競う競技である。
テニス		ネットを挟んで、ボールをラケットで打ち合う。男子、女子ともにシングルス(1対1)とダブルス(2対2)の種目と、男女ペアで戦うミックスダブルスがある。
トライアスロン		スイム(水泳)、バイク(自転車)、ラン(長距離走)の順で1人で連続して行う競技で、屋外で行われる。着順を競う競技である。
バレーボール	ビーチバレーボール	1チーム2人で2チームで、砂上で戦う。 ネットを挟んで、道具を使わず、ボールを打ち合う競技である。
	バレーボール	1チーム6人で2チームで対戦する。 ネットを挟んで、道具を使わず、ボールを打ち合う競技である。
ウェイトリフティング		「スナッチ」と「クリーン&ジャーク」を、それぞれ3回ずつ試技し、それぞれのベスト重量の和で順位を競う。 バーベルを頭上に挙げ、3人のレフリーの内、2人以上が白いランプをつけた場合に「成功」となる。
レスリング	フリースタイル	用具や防具を使うことなく1対1で対戦する。 レスリングには上半身のみを使って防御・攻撃を行う「グレコローマンスタイル」、全身を使って防御・攻撃を行う「フリースタイル」の2つの種別がある。
	グレコローマン	

種目の詳細の出典：「大会情報 競技」（2019年8月1日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）  
<https://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikai/jyunbi/taikai/syumoku/index.html>、「オリンピック競技一覧」（2019年8月1日参照 組織委員会ホームページ）  
<https://tokyo2020.org/jp/games/sport/olympic/>をもとに作成

表 7.2-2(1) パラリンピック競技の概要

競技	種別	種目の詳細
アーチェリー		的を狙って矢を放ち、当たった場所によって得られる得点で勝敗を競う競技である。選手は障害の種類や程度によって「W1（四肢の障害により車椅子を使用）」「W2（下半身の障害により車椅子を使用）」「ST（立つか、椅子に座って競技ができる）」の3つのクラスに分類されるが、競技種別では、「リカーブオープン」「コンパウンドオープン」「W1 オープン」の3つに分けられ、それぞれ男女別・混合（MIX）の合計9個の種別となる。パラリンピックのアーチェリーでは、2種類の弓具を使用する。ひとつは、一般的な「リカーブ」という弓、もうひとつは、弦を引く力が弱くても矢を速く、遠くまで飛ばすことができるように滑車が設置された「コンパウンド」という弓である。
陸上競技	トラック & フィールド マラソン	陸上競技には、100メートル競走やリレーなどのように競技場の『トラック』で行われる種目、走り幅跳びや砲丸投げなどのように『フィールド』で行われる種目、マラソンのように『ロード（道路を使用）』で行われる種目がある。 車椅子を使う選手、義足を使う選手、視覚障害の選手など、様々な選手が参加するため、障害の種類や程度などでクラスを分けて、競技を行う。車椅子の選手は「レーサー」と呼ばれる競技用車椅子を使い、脚を切断している選手は、競技用の義足をつけて競技に参加する。視覚障害の選手はフィニッシュまで安全に走れるよう「ガイド（伴走者）」と呼ばれる人と一緒に走る。 各種目は、選手たちの障害の種類や程度によって細かいクラス分けが行われ実施される。そうすることで、同じような障害のある選手どうしが、公平に競うことができる環境が整えられる。
バドミントン		ルールはおおむね、オリンピックのバドミントンと同じで、1ゲーム21点マッチ方式で3ゲーム行い、2ゲーム先取で勝利となる。一方、車いすを使用するシングルスはコートを半面にして行ったり、シャトルを打つ瞬間は競技者の胴体の一部分が車いすのシートに接していなければならなかったりなど、特別なルールもある。
ボッチャ		ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者若しくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツである。「ジャックボール（目標球）」と呼ばれる白いボールに向かって、赤と青、それぞれ6個のボールを投げる、転がすなどして、どれだけジャックボールに近づけられるかを競う競技である。1対1の個人戦、2対2のペア戦、3対3のチーム戦の3種目があり、男女混合で競技を行う。
カヌー		200mのスプリントを競う。下肢に障害がある選手が参加し、障害の程度によってL1（胴体が動かせず肩の機能だけで漕ぐことができる選手）、L2（胴体と腕を使って漕ぐことができる選手）、L3（足、胴体、腕を使うことができ、力を入れて踏ん張る、または腰かけて艇を操作できる選手）のクラスに分かれる。種目としては、カヤックとヴァー（アウトリガーカヌー）がある。カヤックはパドル（かい）を左右交互にこぎながら前に進む。ヴァーは、カヌーの片側にアウトリガーと呼ばれる浮きが張り出した形をしていて、左右どちらか片方のみをこぎながら艇を前に進める。
自転車競技	トラック ロード	屋内の競技場で行う「トラック」という種目は、「バンク」という傾斜のある周回走路を走る。「個人追い抜き」「タイムトライアル」「タンデムスプリント」「チームスプリント」「スクラッチレース」がある。 屋外的一般道を使用する「ロード」という種目は、「タイムトライアル」「ロードレース」「チームリレー」がある。屋外を走るため、天候や道路の状況も勝負の行方を大きく左右する。
馬術		人馬一体となった演技の正確性と芸術性を競い合う競技であり、種目には、あらかじめ決められた規定演技を行う『個人チャンピオンシップ・団体戦のチームテスト』と、選手が自分で選んだ楽曲に合わせて演技を行う『フリースタイル』の3種目がある。出場選手は、障害の種類や程度に応じて、5つのクラス（グレード）に分類され、個人戦ではグレードごとに競技を行うことになっている。団体戦では、グレードを問わずにチームを組み、競技を行う。

種目の詳細の出典：「大会情報 競技」（2019年8月1日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）  
<https://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikai/jyunbi/taikai/syumoku/index.html>、「パラリンピック競技一覧」（2019年8月1日参照 組織委員会ホームページ）  
<https://tokyo2020.org/jp/games/sport/paralympic/>をもとに作成

表 7.2-2(2) パラリンピック競技の概要

競技	種別	種目の詳細
5人制サッカー		視覚障害の選手が参加するサッカーである。1 チーム 5 人で、フットサルと同じサイズのコートで、両サイドライン上に高さ 1m ほどのフェンスが並ぶ。転がるとシャカシャカと音が出るボールを使用し、前半・後半各 20 分（プレイングタイム）を戦う。
ゴールボール		1 チーム 3 人の選手がアイシェードという目隠しを装着して（視力の程度に関係なく同じ条件で）18m×9m の大きさのコートの中で戦う。攻撃側は、相手ゴールに向かって、バスケットボールとほぼ同じサイズの、鈴が 2 個入ったボール（重さ 1.25 キログラム）を転がすように投球し、相手ゴールを狙う。守備側は、ボールの音や相手の足音を聞き分け、3 人で体全体を使って幅 9 メートル、高さ 1.3 メートルのゴールを守る。ボールがゴールに入れば、攻撃側に 1 点が与えられ、守備側がゴールを守ることができれば、次は攻撃のチャンスである。前半・後半各 12 分で、得点の多いチームが勝ちとなる。
柔道		パラリンピックの柔道は、視覚障害の程度別ではなく、オリンピックと同じように、体重別に試合を行う。男子は 7 階級、女子は 6 階級に分かれている。ルールは健常者の柔道とほぼ同じであるが、視覚障害の選手が行うことを考慮して、一部が変更されている。最も大きな違いは、試合開始の方法であり、健常者の柔道では 2 人の選手が離れた状態で試合を開始するが、視覚障害者の柔道では、最初から互いに相手のえりとそでを持ち、組み合った状態で試合を始める。
パワーリフティング		パワーリフティングは、下肢（下半身）に障害のある選手が、上半身の力を使って、バーベル（おもりのついた棒）を持ち上げ、その重量の記録を競うスポーツである。
ボート		1 人、または複数の選手でボートを漕ぐ競技である。選手は障害の程度によって競技種目が異なり、「PR1（旧 AS）クラス」（腕と肩のみで漕ぎ、歩行ができない。車椅子の選手が対象）、「PR2（旧 TA）クラス」（胴体と腕を使って漕ぐことができる。下肢切断、脳性まひの選手が対象）、「PR3（旧 LTA）クラス」（片足と胴体、腕を使って漕ぐことができる。上下肢障害、脳性まひ、視覚障害の選手が対象）のいずれかにクラス分けされる。
射撃		「ライフル」あるいは「ピストル」と呼ばれる銃器を用いて的を撃ち抜き、その得点を競い合う競技である。射撃は、空気銃（エア）と火薬銃、的までの距離（50 メートル、25 メートル、10 メートル）、撃ち方などで種目が分かっている。撃ち方には、立って撃つ「立射（りっしゃ）」と、うつ伏せで撃つ「伏射（ふくしゃ）」がある。車椅子の選手は、立射を車椅子に座った状態で、伏射をテーブルにひじをついた状態で撃つ。出場選手は、障害の状態によって「SH1（銃器を自分の腕で保持し射撃する）」か、「SH2（規定のスタンドを用いて銃器を保持し射撃する）」のいずれかのクラスに分類される。
シッティングバレーボール		シッティングバレーボールは、肢体に障害のある選手が、床におしりをつき、座った姿勢でプレーする 6 人制のバレーボールである。ボールは一般のバレーボール球と同じであるが、コートの広さは一般のバレーボールコートよりも狭く（サイドライン 5 メートル、エンドライン 6 メートル）、座位で行えるよう、ネットの高さも低く設定されている（男子 1.15 メートル、女子 1.05 メートル）。サーブ、スパイク、ブロックの時は、おしりを床から離すことはできないが、レシーブの時だけは、一瞬、床から離すことが認められている。
水泳		パラリンピックの水泳は競泳のみで、オリンピックと同じように「自由形」「平泳ぎ」「背泳ぎ」「バタフライ」「個人メドレー（バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、自由形の順で泳ぐ競技）」「メドレーリレー」「フリーリレー」の 7 種目で競う競技である。
卓球		知的障害部門では健常者と全く同じルールが適用されて競技が行われる。競技は個人戦と団体戦があり、選手は障害の種類や程度、運動機能によってクラス分けされ、クラスごとに競技を行う。（クラス 1～5：車椅子選手、クラス 6～10：立位選手、クラス 11：知的障害選手）
テコンドー		テコンドーは「蹴る」ことに特化した韓国の国技である。古くから朝鮮半島に伝わる武術が原形と言われている。上肢に障害のある選手が対象であり、選手はヘッドギア、ボディープロテクターなどを装着して、かかと落としや後ろまわり蹴りなどの足技で戦う。障害の程度により、4 つのスポーツクラスに分けられ、男女別に体重階級制（各 3 階級）で競う。

種目の詳細の出典：「大会情報 競技」（2019 年 8 月 1 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）  
<https://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikai/jyunbi/taikai/syumoku/index.html>、「パラリンピック競技一覧」（2019 年 8 月 1 日参照 組織委員会ホームページ）  
<https://tokyo2020.org/jp/games/sport/paralympic/>をもとに作成

表 7.2-2(3) パラリンピック競技の概要

競技	種別	種目の詳細
トライアスロン		スイム（水泳）、バイク（自転車）、ラン（長距離走）を連続して行う競技である。その中で、障害の種類や程度に応じて、特別な道具の使用や用具の改造が認められている競技をパラトライアスロンと呼称する。
車いすバスケットボール		肢体に障害のある選手が車椅子に乗ってプレーするバスケットボールである。すばやく動け、また、回転しやすいバスケットボール専用の車椅子が使われる。選手は障害の程度や身体能力によって、重いほうから順に 1.0 点から 4.5 点まで 0.5 点刻みで 8 クラスに分けられ、コート上の 5 選手の合計点を 14.0 点以内で構成する。
車いすフェンシング		肢体に障害のある選手が車いすに座って相手を剣で突いてポイントを競う競技である。選手は座位バランス能力などにより、カテゴリ A と B の 2 つのクラスに分かれ、3 種目を競う。
車いすラグビー		車いすラグビーは、四肢に障害のある人向けに考案された、車椅子で競技するチームスポーツである。相手の攻撃を阻止したり防御を打破するため、車椅子によるタックルが認められるなど、激しいスポーツであり、衝突に耐えられるよう、頑丈かつ形状に工夫がなされた専用の車椅子を使用する。
車いすテニス		車いすテニスの用具やルールは、一般のテニスとほとんど変わらない。選手は様々な技術を使って相手のコートに正確にボールを打ち返し、お互いに得点を競う。試合カテゴリは男女シングルス、ダブルスに加え、三肢まひ以上の重度障害がある選手を対象とした、男女混合の「クアード」があり、それぞれシングルスとダブルスがある。

種目の詳細の出典：「大会情報 競技」（2019 年 8 月 1 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）  
<https://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikai/jyunbi/taikai/syumoku/index.html>、「パラリンピック競技一覧」（2019 年 8 月 1 日参照 組織委員会ホームページ）  
<https://tokyo2020.org/jp/games/sport/paralympic/>をもとに作成

### 7.2.2 競技の会場及びスケジュール

東京 2020 大会のオリンピックの競技の会場及びスケジュールは、表 7.2-3(1) 及び(2)に、パラリンピックの競技の会場及びスケジュールは、表 7.2-4 に示すとおりである。また、屋外の敷地外で実施する競技のうち、公表している競技コースは、図 7.2-1(1)～(4)に示すとおりである。屋外競技の競技時間は、早朝や夜間にするなど暑さ対策に配慮している。

なお、競技スケジュールは、今後の調整により、一部を変更する場合がある。

表 7.2-3(1) オリンピック競技の会場及びスケジュール

競技	種別	競技会場	開催日	開催時間																			
				5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
水泳	競泳	東京アクアティクスセンター	7/25-8/2																				
	飛込	東京アクアティクスセンター	7/26-7/29, 7/31-8/8																				
	アーティスティックスイミング	東京アクアティクスセンター	8/3-8/5, 8/7-8/8																				
	水球	東京辰巳国際水泳場	7/25-8/9																				
アーチェリー	マランスイミング	お台場海浜公園	8/5-8/6																				
	アーチェリー	夢の島公園アーチェリー場	7/24-8/1																				
	陸上競技	トランプ&フィールド/マラソン	7/31-8/9																				
	陸上競技	競歩	皇居外苑	7/31, 8/7-8/8																			
野球/ソフトボール	バドミントン	武蔵野の森総合スポーツプラザ	7/25-8/3																				
	野球	福島あづま球場、 横浜スタジアム	7/29-8/6, 8/8																				
	ソフトボール	福島あづま球場、 横浜スタジアム	7/22-7/23, 7/25-7/28																				
	バスケットボール	3x3バスケットボール	青森アーバンスポーツパーク	7/25-7/29																			
ボクシング	バスケットボール	さいたまスーパーアリーナ	7/26-8/9																				
	ボクシング	国技館	7/25-8/2, 8/4-8/9																				
	カヌー	海の森水上競技場	8/3-8/8																				
	カヌー	カヌー・スラローム	7/26-7/31																				
自転車競技	BMXフリースタイル	有明アーバンスポーツパーク	8/1-8/2																				
	BMXレーシング	有明アーバンスポーツパーク	7/30-7/31																				
	マウンテンバイク	伊豆MTBコース	7/27-7/28																				
	ロード	富士スピードウェイ	7/25-7/26, 7/29																				
馬術	トラップ	伊豆パロドローム	8/3-8/9																				
	馬場馬術	馬事公苑	7/25-7/26, 7/28-7/29																				
	総合馬術	馬事公苑、 海の森クロスカントリーコース	7/31-8/3																				
	馬術	馬事公苑	8/4-8/5, 8/7-8/8																				
サッカー	フェンシング	馬事公苑	7/25-8/2																				
	フェンシング	オリンピックツセBホール																					
	サッカー	東京スタジアム、 札幌ドーム、 宮城スタジアム、 茨城カシマスタジアム、 埼玉スタジアム2002、 横浜国際総合競技場	7/25-8/2																				
	サッカー	札幌ドーム、 宮城スタジアム、 茨城カシマスタジアム、 埼玉スタジアム2002、 横浜国際総合競技場	7/25-8/2																				
ゴルフ	ゴルフ	霞ヶ関カントリー倶楽部	7/30-8/2, 8/5-8/8																				

注) 網掛けは、競技時間帯を示す。競技時間は、同一競技や種目であっても、競技会場や開催日によって異なる場合があるため、おむねの時間帯を示している。  
 出典: 「オリンピック競技スケジュール」(2019年8月1日参照 組織委員会ホームページ)  
<https://tokyo2020.org/jp/games/schedule> をもとに作成







出典：「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 マラソンコース」（2019 年 8 月 1 日参照 組織委員会ホームページ）<https://tokyo2020.org/jp/news/notice/20180531-01.html>

図 7.2-1(1) 競技コース（陸上競技(マラソン)）



出典：「東京 2020 大会ホームページ」（2019 年 8 月 1 日参照 組織委員会ホームページ）  
<https://tokyo2020.org/jp/news/notice/20180531-01.html>

図 7.2-1(2) 競技コース（陸上競技(競歩)）

(オリンピック男子)



(オリンピック女子)



(パラリンピック男子/女子)



出典：「ロードレース コースマップ等」（2019年8月1日参照 組織委員会ホームページ）  
<https://tokyo2020.org/jp/games/sport/olympic/road-cycling/road-detail/>

図 7.2-1(3) 競技コース（自転車競技（ロード））

(オリンピック男子/女子)



(オリンピック混合リレー)



(パラリンピック男子/女子)



出典：「東京 2020 オリンピック・パラリンピックトライアスロンコース」

(2019年8月1日参照 組織委員会ホームページ) <https://tokyo2020.org/jp/news/notice/20180802-01.html>

図 7.2-1(4) 競技コース (トライアスロン)

(空白のページ)